

平成28年度佐賀県小・中学校学習状況調査〔4月調査〕
結果報告

平成28年7月7日(木)

佐賀県教育委員会

－ 目 次 －

I	調査の実施概要	1
II	教科に関する調査の概要	4
III	教科ごとの調査結果とその分析	
	◎ 国語	
	(1) 結果の概要	6
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	8
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	10
	(4) 地域別の正答率	21
	◎ 算数・数学	
	(1) 結果の概要	22
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	24
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	26
	(4) 地域別の正答率	37
IV	児童生徒意識調査（小学5年生・中学1年生・中学2年生）、 児童生徒質問紙調査（小学6年生・中学3年生）、学校質問紙 調査及び教師意識調査の概要	
	(1) 授業に対する関心、理解度、有用性について	39
	(2) 学校での学習について	48
	(3) 家庭での学習について	55
	(4) 学校生活、家庭生活について	61
	(5) 地域別の状況	68
	(6) 結果のまとめと指導改善のポイント	84

I 調査の実施概要

1 調査の目的

学習指導要領に示されている目標や内容の定着状況、学習に対する意識・態度や生活習慣及び教師の指導に関する意識を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

各学校は、児童生徒一人一人の調査結果を踏まえた指導改善を行うとともに、教育委員会は、課題解決に向けた施策の見直しや充実を図る。

なお、調査に当たっては、市町教育委員会と県教育委員会が連携・協力し、実施する。

学力は、知識や技能に加えて、自ら学び、判断・行動し、問題解決する資質や能力等までを含めたものです。今回の調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものです。

2 調査実施日

小・中学校とも平成 28 年 4 月 19 日(火)

3 調査内容

- ① 各教科の目標や内容の実現状況に関する「教科に関する調査」
 - ・ 小学 5 年生、小学 6 年生 国語、算数
 - ・ 中学 1 年生、中学 2 年生、中学 3 年生 国語、数学
- ② 学習に対する意識や生活習慣等に関する「児童生徒意識調査」
- ③ 学習指導法等に関する「教師意識調査」
 - ※ 小学 6 年生及び中学 3 年生は、全国学力・学習状況調査の「教科に関する調査」「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」を活用

4 調査方法

- ① 教科に関する調査
 - ・ 小学校 各教科 45 分（小学 6 年生は、全国調査の活用のため 40 分）
各学校で時間を設定して実施
 - ・ 中学校 各教科 50 分（中学 3 年生は、全国調査の活用のため 45 分）
各学校で時間を設定して実施
- ② 児童生徒意識調査
 - ・ 小学校及び中学校 10 分程度
各学校で時間を設定して実施
- ③ 教師意識調査
 - ・ 小学校 小学 4 年生、小学 5 年生、小学 6 年生の国語、社会、算数、理科の担当教職員が対象（平成 28 年 2 月実施）
 - ・ 中学校 中学 1 年生、中学 2 年生の国語、社会、数学、理科、英語の担当教職員が対象（平成 28 年 2 月実施）

5 調査の成果指標

① 教科に関する調査

学習指導要領の目標や内容の実現状況を到達基準〔注1〕として、「おおむね達成」と「十分達成」の2つの基準値を設定し、全学年・全教科において「十分達成」を超えることを目指している。

② 児童生徒や教師に対する意識調査

児童生徒の学習に対する意識・態度、学校や家庭での学習習慣、生活習慣、教師の指導方法などについて、経年での改善・向上を目指している。

6 調査対象及び調査人数

	学校数	学年	人数
小学校	165	第5学年	7,373
		第6学年	7,520
中学校	94	第1学年	7,437
		第2学年	7,525
		第3学年	7,762
		計	37,617

公立小学校数及び人数は、県立特別支援学校小学部（4校、7名）を含みます。公立中学校数及び人数は、県立中学校（4校、1,407名）及び県立特別支援学校中学部（4校、10名）を含みます。

〔注1〕 到達基準について

佐賀県では、平成19年度調査から、学習指導要領の目標や内容に照らして、児童生徒に求められる正答率の目標値を「到達基準」として設定している。これにより、同じ指標による経年比較も可能となる。

「到達基準」は、修正エーベル法〔注2〕の考え方に沿って、小問ごとに設定した「期待正答率」を集約したものである。「期待正答率」とは、受検した児童生徒のうち正答することが期待される者の人数の割合であり、問題の特性や難易度に応じて判断し、小問ごとに「十分達成」「おおむね達成」という2つの基準値を設定している。

「到達基準」のうち

○「十分達成」の到達基準は、学習内容の習得が十分であると判断される基準（目標到達基準）

○「おおむね達成」の到達基準は、最低限これを上回ることが必要であると判断される基準（最低到達基準）

このように、事前に設定した「到達基準」と調査結果を比較することにより、到達度を測ることができる。

また、各学校においては、この到達基準を基に、自校の調査結果を分析し、自校の取組を検証するとともに、課題に応じた重点目標を設定し、解決に向けた指導の工夫・改善に取り組む。

〔注2〕 修正エーベル法について

- 1972年にエーベルが提唱したエーベル法に橋本重治が修正を加えて考案した到達基準の設定方法で、個々の小問の判断に基づくエーベル法をより簡略化して利用できるようにしたもの。
- 各小問を、関連性と困難度のマトリックスにおいて分類する。
- 関連性は、「基礎的・基本的」（後の学習への関連性が高く、その学年でぜひとも身に付けさせたい目標を測る問題）と「発展的・応用的」（比較的高度で、後の学習への関連性がそれほど高くないが、その学年で身に付けることが望ましい目標を測る問題）の2区分である。
- 困難度は次の分類表のとおり、「平易」「普通」「困難」の3区分。ただし、「基礎的・基本的」に分類される「困難」な問題は妥当ではないので、分類から除外する。全ての小問が、(A)(B)(C)(D)(E)のいずれかに割り振られる。

■修正エーベル法における問題の分類表

	平易	普通	困難
基礎的・基本的	(A)	(B)	
発展的・応用的	(C)	(D)	(E)

- 本調査では、過去の調査結果の傾向を踏まえて、次の表のように小・中学校別に期待正答率を設定している。

■小・中学校別期待正答率

(注) 上の数字は「十分達成」、下の数字は「おおむね達成」の場合を示している。

		平易	普通	困難
小学校	基礎的・基本的	(A) 0.85(85%) 0.65(65%)	(B) 0.80(80%) 0.60(60%)	
	発展的・応用的	(C) 0.75(75%) 0.55(55%)	(D) 0.70(70%) 0.50(50%)	(E) 0.65(65%) 0.45(45%)
中学校	基礎的・基本的	(A) 0.75(75%) 0.55(55%)	(B) 0.70(70%) 0.50(50%)	
	発展的・応用的	(C) 0.65(65%) 0.45(45%)	(D) 0.60(60%) 0.40(40%)	(E) 0.55(55%) 0.35(35%)

Ⅱ 教科に関する調査の概要

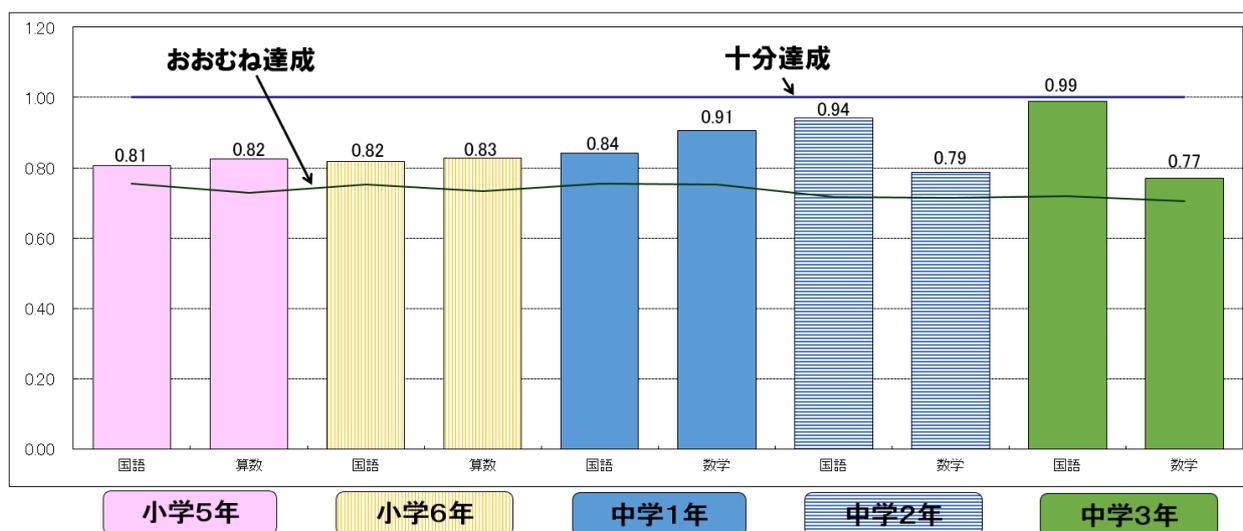
- 県で設定した「到達基準」（p2〔注〕参照）に対して、全ての教科において「おおむね達成」の基準を上回っており、本県児童生徒の学習内容の習得状況はおおむね良好であった。〔表1〕

〔表1〕各学年・教科の到達状況

教科	平成28年度[4月調査]の到達状況				平成27年度[4月調査]の到達状況			
	県正答率(A)	到達基準		「十分達成」に対する割合(A/B)	県正答率(A)	到達基準		「十分達成」に対する割合(A/B)
		十分達成(B)	おおむね達成			十分達成(B)	おおむね達成	
小5国語	66.1	82.0	62.0	0.81	62.3	80.5	60.5	0.77
小5算数	67.1	81.4	61.4	0.82	65.2	79.3	59.3	0.82
小6国語	64.2	78.4	58.4	0.82	66.9	78.9	58.9	0.85
小6算数	64.7	78.1	58.1	0.83	61.3	77.2	57.2	0.79
中1国語	68.7	81.6	61.6	0.84	73.1	81.3	61.3	0.90
中1数学	72.9	80.5	60.5	0.91	71.2	79.1	59.1	0.90
中2国語	66.3	70.5	50.5	0.94	67.8	71.6	51.6	0.95
中2数学	55.0	69.8	49.8	0.79	57.2	69.7	49.7	0.82
中3国語	70.5	71.2	51.2	0.99	72.2	71.3	51.3	1.01
中3数学	54.0	70.0	50.0	0.77	55.7	69.4	49.4	0.80

※ 網掛けについては「十分達成」に対する割合が1.00を上回っている教科を示している。

〔グラフ1〕各学年・教科正答率の「十分達成」に対する割合（十分達成＝1.00）

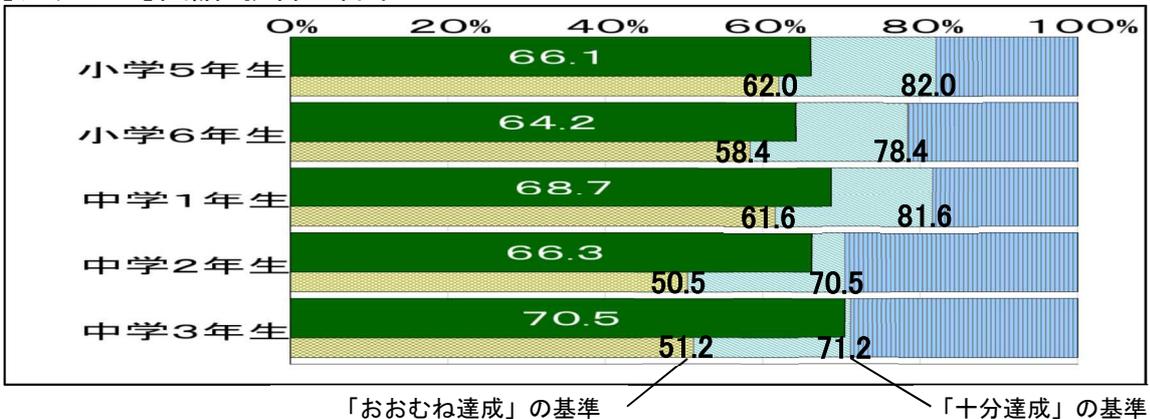


Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

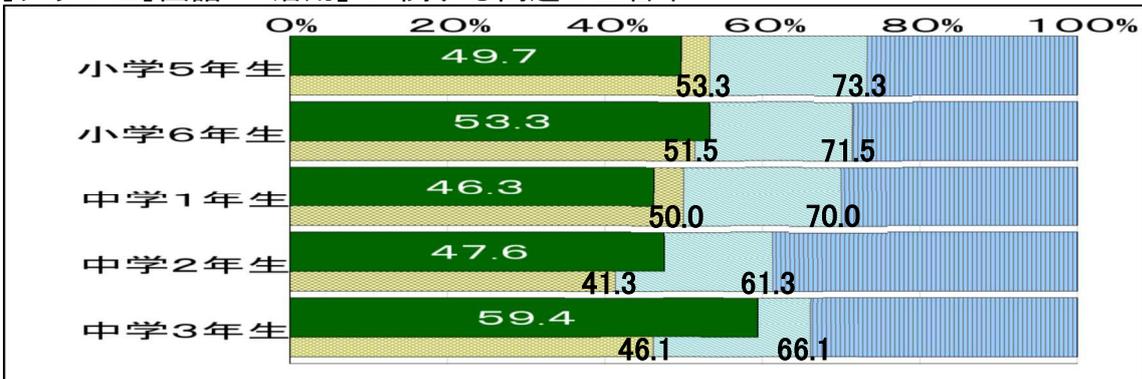
(1) 結果の概要

- 小・中学校共に、教科正答率は、全ての学年において、「おおむね達成」の基準を上回っている。【グラフ1】
- 「活用」に関する問題については、小学5年生と中学1年生で「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。【グラフ2】
- 観点別に見ると、小学6年生と中学2年生、中学3年生は全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。また、「言語についての知識・理解・技能」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「話す・聞く能力」については小学5年生、「書く能力」については中学1年生、「読む能力」については小学5年生と中学1年生が「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。【グラフ3～6】
- 内容・領域別に見ると、「漢字の読み」については、全ての学年で「十分達成」の基準を上回っており、「漢字の書き」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「語句に関する知識」については、小学5年生と小学6年生で「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。【グラフ7～11】

【グラフ1】国語 教科正答率



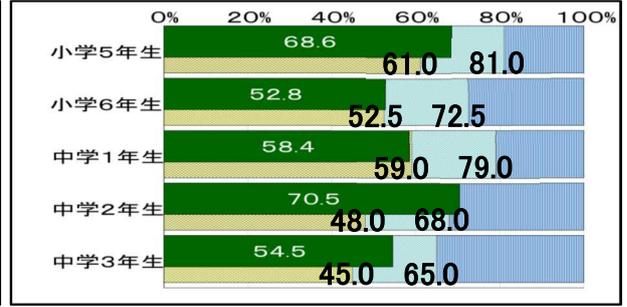
【グラフ2】国語 「活用」に関する問題の正答率



[グラフ3] 国語 「話す・聞く」 観点の正答率



[グラフ4] 国語 「書く」 観点の正答率



「おおむね達成」の基準

「十分達成」の基準

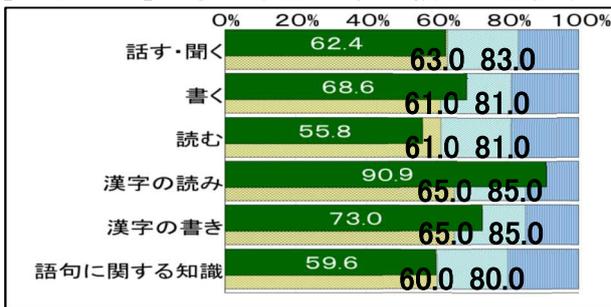
[グラフ5] 国語 「読む」 観点の正答率



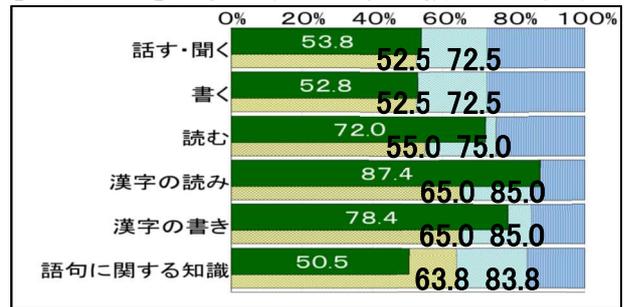
[グラフ6] 国語 「知識・理解・技能」 観点の正答率



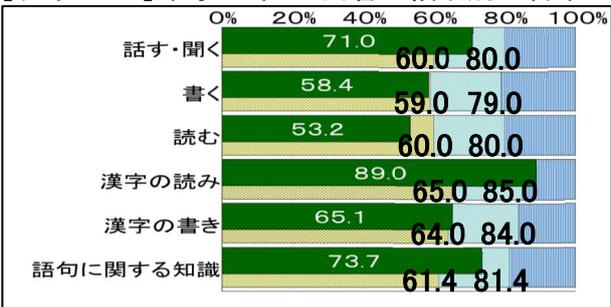
[グラフ7] 小学5年生 内容・領域別正答率



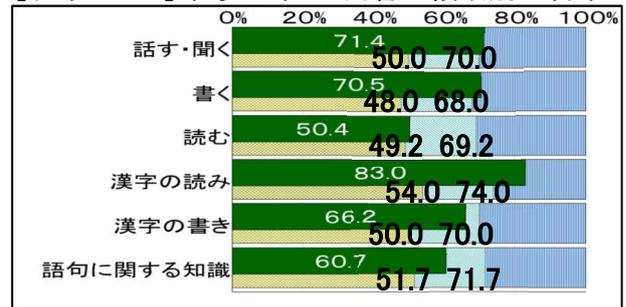
[グラフ8] 小学6年生 内容・領域別正答率



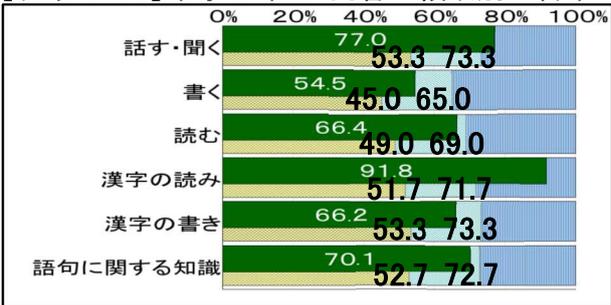
[グラフ9] 中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10] 中学2年生 内容・領域別正答率



[グラフ11] 中学3年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校国語（小学5年生、小学6年生、中学1年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 平成27年度[12月調査]で「おおむね達成」の基準を下回っていた「間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること」を問う設問が、「十分達成」の基準を上回っており、改善が見られる。(小学5年生²二)
- ◇ 平成27年度[12月調査]で5問中4問が「おおむね達成」の基準を下回っていた内容・領域「読むこと」において、全ての設問で「おおむね達成」の基準を上回っており、改善が見られる。(小学6年生A問題⁵、⁶、B問題³)
- ◇ 平成27年度[12月調査]で5問中2問が「おおむね達成」の基準を下回っていた内容・領域「話すこと・聞くこと」において、全ての設問で「おおむね達成」の基準を上回っており、改善が見られる。(中学1年生¹)
- ◆ 1 書こうとすることの中心を明確にして記事を書いたり、伝えたい事柄を分かりやすく書いたりすることに課題が見られる。(小学5年生²一、三)
- ◆ 2 目的や意図に応じて、グラフを用いて、自分の考えが伝わるように書くことに課題が見られる。(小学6年生B問題²二(1))
- ◆ 3 文章の内容を踏まえてまとめたり、的確に押さえて要旨を捉えたりすることに課題が見られる。(小学5年生⁴三、中学1年生⁴二)

平成27年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]Web報告書 参照

指導改善のポイント

- ◆ 1 書こうとすることの中心を明確にして書く力を育成するためには、書く相手や目的がはっきりと分かる学習課題を単元のはじめに設定し、常に意識させながら学習を進めることが大切である。「誰に何を伝えるのか」を明確にさせることで、書こうとすることの中心や伝えたい事柄も明らかになってくる。見出しを付ける学習では、同じテーマを取り扱った新聞記事の見出しを比べ、表現の効果を話し合う指導などが有効である。
- ◆ 2 グラフを用いて自分の考えを書く力を育成するためには、新聞記事などを参考に、グラフから読み取れる客観的な事実と自分の考えや感想などを区別して書く指導が必要である。また、自分がグラフをどのように読み取ったのか、そこからどのように考えたのかを具体的に記述する学習を行うことが大切である。推敲の際には、グラフから読み取ったことが記述した内容の根拠となっているかどうかを検討させることが大切である。
- ◆ 3 文章の内容をまとめる力や要旨を捉える力を育成するためには、学習課題を設定する際に、文書の内容をまとめたり要旨を捉えたりする目的や必要性をしっかりと意識させておくことが必要である。全体の構成を捉えさせる発問、事実と意見を区別しながら読ませる発問、形式段落のキーワードを捉えさせる発問などを取り入れ、筆者の考えの中心を読み取らせていく指導が大切である。また、児童が多様な種類の文章を読み、文章の内容をまとめたり要旨を捉えたりする活動を繰り返し取り入れることや、多様な考えをグループで交流し、互いの考えのよさに気付かせることが大切である。

◎ ぜひ、ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。『単元で学び、単元で力を付ける』をキーワードにした授業づくりについて、第4・5学年の「学習指導案」や「ワークシート」を提案しています。授業づくりに役立ててください。

中学校国語（中学2年生、中学3年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 集めた材料を分類するなどして整理することに定着が見られる。(中学2年生²二)
- ◇ 文章の展開に即して情報を整理したり、目的に応じて必要な情報を読み取ったりすることに定着が見られる。(中学3年生A問題⁶一、B問題¹二)
- ◆ 1 文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分けたり、文章の構成の特徴を理解したりすることに課題が見られる。(中学2年生³一二)
- ◆ 2 奥付を使って本の情報を得ることや、課題に応じた情報の収集方法を考えることなどに課題が見られる。(中学3年生A問題⁸二、B問題²三)
- ◆ 3 読んだことを基に根拠を明確にして、自分の考えをもつことに課題が見られる。(中学2年生⁴三、中学3年生B問題³三)

指導改善のポイント

- ◆ 1 文章の構成の特徴についての理解を深めるためには、一教材で文章の構成を細かく捉えさせるだけではなく、複数の教材を比べて読むなどして、文章がどのような構成になっているのかを意識して読む経験を積ませることで、文章の種類によって構成が異なることに気付かせることが大切である。例えば、鑑賞文であれば、教材の文章を書いた筆者の別の鑑賞文を比べて読ませることによって構成の特徴に気付かせたり、説明的文章や意見文であれば、複数の文章を比べて読ませ、頭括・尾括・双括のどの構成に当たるかを考えさせたりする活動を設定することが大切である。
- ◆ 2 課題に応じて適切な調査方法を考え、情報を収集する力を育成するためには、必要な情報を調べる活動を行う際に、あらかじめ、教師が調査方法を提示するのではなく、課題に応じた適切な調査方法について、生徒自身に考えさせる場面を設定することが大切である。そのためには、教科書の巻末資料などを用いて、文献調査やインタビュー、アンケートなどの調査方法について事前に学習を行い、それぞれの方法の利点や気を付けるべき点を整理させておくことが大切である。
- ◆ 3 生徒が課題意識をもって、主体的に読み進め、自分の考えをもつ力を育成するためには、単元の最初に、その単元で行う言語活動を提示し、モデル学習を行うことによって学習のゴールのイメージを具体的にもたせることが大切である。また、比較・分類・関連付け・系統化など、どのように読むのかを生徒が意識できるように、「(教材A)と(教材B)を比べて読み、(言語活動)する」のような形で学習課題に示すことも大切である。さらに、書いたものを再考して自分の考えを再構築したり、人の意見を聞いて思考を深めたりする時間を設定することを繰り返し行うことが必要である。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。「学習課題設定の工夫」や「主体的な学習を促す言語活動の工夫」をキーワードに、「読むこと」の領域の第1・2学年の「学習指導案」や「ワークシート」を提案しています。授業づくりに役立ててください。

各学年の設問ごとの正答率

[表1] 小学5年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,239	66.1	4.2	82.0	62.0	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	62.4	1.1	83.0	63.0	▼
	書く	5	68.6	2.1	81.0	61.0	
	読む	5	55.8	4.3	81.0	61.0	▼
	漢字の読み	3	90.9	1.8	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	73.0	5.7	85.0	65.0	
	語句に関する知識	6	59.6	8.8	80.0	60.0	▼
評価の観点	①話す・聞く	5	62.4	1.1	83.0	63.0	▼
	②書く	5	68.6	2.1	81.0	61.0	
	③読む	5	55.8	4.3	81.0	61.0	▼
	④知識・理解・技能	12	70.8	6.3	82.5	62.5	
問題形式	選択式	13	64.6	1.5	83.5	63.5	
	短答式	11	72.2	6.6	82.7	62.7	
	記述式	3	49.7	7.0	73.3	53.3	▼
活用	「活用」に関する問題	3	49.7	7.0	73.3	53.3	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
1	一	話の中心に気を付けて聞く	○					○							77.5	0.1	A	85	65	
1	二	必要な事柄を、取材しまとめる	○					○							28.5	0.4	A	85	65	▼
1	三	聞き手の反応を見ながら話す	○					○							77.4	0.2	A	85	65	
1	四	相手や目的に応じて、理由を挙げながら筋道を立てて話す	○					○							60.9	0.3	A	85	65	▼
1	五	聞いた事柄を基に、分からない点や確かめたい点を質問する	○					○				○	○		67.9	4.7	C	75	55	
2	一	書こうとすることの中心を明確にして、伝えたい事柄を分かりやすく書く	○					○							63.1	0.3	A	85	65	▼
2	二	間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする	○					○			○				80.0	2.3	B	80	60	◎
2	三	メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして記事を書く	○					○				○	○		35.9	4.9	D	70	50	▼
2	四	目的や必要に応じて、表を取り上げて書く	○					○							79.0	1.0	A	85	65	
2	五	目的に応じて書いているか表現を検討する	○					○							84.9	1.8	A	85	65	
3	一	詩の描写を捉えて、想像力を働かせながら読む	○					○				○			42.1	3.5	B	80	60	▼
3	二	場面の様子がよく分かるように、工夫して音読する	○					○							74.6	1.7	A	85	65	
4	一	目的に応じて、中心となる語を捉える	○					○							52.8	1.8	A	85	65	▼
4	二	事実と意見とを区別して読む	○					○							64.3	3.2	B	80	60	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県 正 答 率	県 無 解 答 率	期待 正 答 率		到達 状 況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の書き 漢字の読み	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式		問題分類
4	三	文章の内容を踏まえ、様式に合わせてまとめる	○								○	○	45.3	11.3	C	75	55	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「花粉」		○							○		97.1	1.6	A	85	65	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「種類」		○							○		96.6	1.6	A	85	65	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「唱える」		○							○		79.1	2.3	A	85	65	
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「洋服」			○						○		75.4	4.2	A	85	65	
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「曲がる」			○						○		75.8	6.1	A	85	65	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「研究」			○						○		67.9	7.0	A	85	65	
5	三	国語辞典の使い方について理解する				○					○		32.2	2.3	B	80	60	▼
5	四①	慣用句の意味を知る「馬が合う」				○					○		72.7	3.0	B	80	60	
5	四②	慣用句の意味を知る「水に流す」				○					○		72.5	3.1	B	80	60	
5	五①	ローマ字で書く「sora」				○					○		53.5	11.9	B	80	60	▼
5	五②	ローマ字で表記されたものを読む「がっき」				○					○		64.2	15.2	B	80	60	
5	五③	ローマ字で表記されたものを読む「じてんしゃ」				○					○		62.3	17.4	B	80	60	

[表2] 小学6年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,436	64.2	2.9	78.4	58.4	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	4	53.8	1.1	72.5	52.5	
	書く	8	52.8	2.8	72.5	52.5	
	読む	5	72.0	2.5	75.0	55.0	
	漢字の読み	3	87.4	1.6	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	78.4	3.1	85.0	65.0	
	語句に関する知識	4	50.5	8.0	83.8	63.8	▼
評価の観点	①話す・聞く	4	53.8	1.1	72.5	52.5	
	②書く	8	52.8	2.8	72.5	52.5	
	③読む	5	72.0	2.5	75.0	55.0	
	④知識・理解・技能	10	69.9	4.6	84.5	64.5	
問題形式	選択式	12	66.9	0.7	77.5	57.5	
	短答式	9	68.6	5.0	84.4	64.4	
	記述式	4	46.3	4.9	67.5	47.5	▼
活用	「活用」に関する問題	10	53.3	2.7	71.5	51.5	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
A 問題	1-1	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む			○				○			○			81.2	2.2	A	85	65	
	1-2	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む			○				○			○		98.8	0.2	A	85	65	◎	
	1-3	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む			○				○			○		82.1	2.3	A	85	65		
	1-21	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○				○		○		92.2	2.0	A	85	65	◎	
	1-22	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○				○		○		74.9	4.7	A	85	65		
	1-23	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○				○		○		68.1	2.5	A	85	65		
	2	目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合う	○						○			○		78.5	0.1	B	80	60		
	3	書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する	○						○			○		64.8	0.1	B	80	60		
	4	目的や意図に応じて、書く事柄を整理する	○						○			○		76.1	0.1	B	80	60		
	5	目的に応じて、図と表とを関係付けて読む			○					○		○		92.0	0.1	B	80	60	◎	
	6	登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える			○					○		○		61.9	0.7	B	80	60		
	7-アイ	用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決める				○				○		○		82.0	0.4	A	85	65		
	8-1	平仮名で表記されたものをローマ字で書く				○				○		○		36.0	8.8	A	85	65	▼	
	8-2	平仮名で表記されたものをローマ字で書く				○				○		○		33.6	9.4	B	80	60	▼	

設問別集計結果

B
問
題

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の書き	漢字の読み	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能				選択式	短答式	記述式		問題分類
8	3	ローマ字で表記されたものを正しく読む											50.3	13.3	A	85	65	▼	
1	一	目的に応じて、質問したいことを整理する	○									○	49.9	0.1	C	75	55	▼	
1	二	質問の意図を捉える	○									○	49.4	0.1	D	70	50	▼	
1	三	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する	○	○								○	○	37.2	4.0	E	65	45	▼
2	一	グラフを基に、分かったことを的確に書く		○								○	○	42.9	0.4	C	75	55	▼
2	二(1)	目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書く		○								○	○	36.4	3.6	D	70	50	▼
2	二(2)	目的や意図に応じて、表を基に、自分の考えを書く		○								○	○	57.1	4.3	D	70	50	
2	三	活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉える		○								○	○	53.6	2.5	C	75	55	▼
3	一	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む			○							○	○	75.1	1.9	C	75	55	◎
3	二	目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する			○							○	○	76.5	2.2	C	75	55	◎
3	三	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む	○	○								○	○	54.7	7.6	E	65	45	

[表3] 中学1年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,394	68.7	5.4	81.6	61.6	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	71.0	1.5	80.0	60.0	
	書く	5	58.4	3.1	79.0	59.0	▼
	読む	5	53.2	6.0	80.0	60.0	▼
	漢字の読み	5	89.0	3.2	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	5	65.1	14.1	84.0	64.0	
	語句に関する知識	7	73.7	4.6	81.4	61.4	
評価の観点	①話す・聞く	5	71.0	1.5	80.0	60.0	
	②書く	5	58.4	3.1	79.0	59.0	▼
	③読む	5	53.2	6.0	80.0	60.0	▼
	④知識・理解・技能	17	75.7	7.0	83.2	63.2	
問題形式	選択式	14	70.1	2.9	82.1	62.1	
	短答式	15	72.0	7.1	83.3	63.3	
	記述式	3	46.3	8.0	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	3	46.3	8.0	70.0	50.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類	
1	一	話し手の意図を捉えながら聞く	○					○						80.1	0.2	A	85	65	
1	二	目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫する	○					○						90.7	0.2	A	85	65	◎
1	三	目的に応じて、発言内容を簡潔にする	○					○			○			64.8	2.6	B	80	60	
1	四	立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合う	○					○						61.7	1.5	B	80	60	
1	五	目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように資料を基にして話す	○					○			○	○		57.6	3.0	D	70	50	
2	一	目的や意図に応じて、必要な内容を適切に書き加える	○					○						75.0	1.8	B	80	60	
2	二	目的や意図に応じて、必要な内容を適切に引用して書く	○					○						44.0	6.6	B	80	60	▼
2	三	目的や意図に応じて、記述の仕方を工夫する	○					○						62.4	0.6	A	85	65	▼
2	四	目的や意図に応じて、リーフレットにタイトルを付ける	○					○						66.2	0.6	B	80	60	
2	五	目的や意図に応じて、条件に合わせて書く	○					○				○	○	44.7	6.1	D	70	50	▼
3	一	叙述を基に描写を捉える	○					○						61.3	6.2	B	80	60	
3	二	行動や情景などから、登場人物の気持ちの変化を捉える	○					○						64.6	1.9	B	80	60	
4	一	文章の内容を的確に捉える	○					○						64.0	3.6	A	85	65	▼
4	二	文章の内容を的確に押さえて要旨を捉える	○					○						39.2	3.3	A	85	65	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類	
4	三	文章の要旨を捉え、そのことについての自分の考えを明確にする		○					○			○	○	36.6	15.0	D	70	50	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「反らす」			○				○		○			71.1	6.1	A	85	65	
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「価値」			○				○		○			92.1	2.2	A	85	65	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「民衆」			○				○		○			90.2	2.6	A	85	65	◎
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「混じる」			○				○		○			96.3	2.3	A	85	65	◎
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「任せる」			○				○		○			95.4	2.7	A	85	65	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「慣れた」				○			○		○			51.5	30.1	A	85	65	▼
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「志す」				○			○		○			75.3	8.7	A	85	65	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「技術」				○			○		○			83.3	6.3	B	80	60	◎
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「評判」				○			○		○			54.4	14.8	A	85	65	▼
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「往復」				○			○		○			60.9	10.6	A	85	65	▼
5	三1	熟語の構成について理解する「未」				○			○		○			84.9	3.8	B	80	60	◎
5	三2	熟語の構成について理解する「不」				○			○		○			72.4	4.1	B	80	60	
5	三3	熟語の構成について理解する「無」				○			○		○			87.0	3.7	B	80	60	◎
5	四	熟語の構成について理解する				○			○		○			80.6	4.4	A	85	65	
5	五	漢字の由来について理解する				○			○		○			64.3	5.5	B	80	60	
5	六1	文の中における主語を捉える				○			○		○			49.5	5.2	B	80	60	▼
5	六2	文の中における主語を捉える				○			○		○			77.1	5.2	A	85	65	

[表4] 中学2年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,443	66.3	6.9	70.5	50.5	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	71.4	2.7	70.0	50.0	◎
	書く	5	70.5	4.3	68.0	48.0	◎
	読む	6	50.4	11.3	69.2	49.2	
	漢字の読み	5	83.0	4.4	74.0	54.0	◎
	漢字の書き	5	66.2	11.8	70.0	50.0	
	語句に関する知識	6	60.7	6.4	71.7	51.7	
評価の観点	①話す・聞く	5	71.4	2.7	70.0	50.0	◎
	②書く	5	70.5	4.3	68.0	48.0	◎
	③読む	6	50.4	11.3	69.2	49.2	
	④知識・理解・技能	16	69.4	7.5	71.9	51.9	
問題形式	選択式	12	65.1	1.7	72.5	52.5	
	短答式	15	72.1	7.9	71.7	51.7	◎
	記述式	5	51.7	16.6	62.0	42.0	
活用	「活用」に関する問題	4	47.6	19.4	61.3	41.3	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類		十分達成
1	一	聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す	○					○				○			71.1	1.5	B	70	50	◎
1	二	必要に応じて質問しながら聞き取る	○					○				○			89.7	1.3	A	75	55	◎
1	三	事実と意見との関係に注意しながら、具体的な根拠を示して話す	○					○				○			71.0	0.5	A	75	55	
1	四	話合いの話題を捉えながら、自分の考えをまとめ、資料や自分の経験を根拠にして話す	○					○				○	○		56.9	9.4	D	60	40	
1	五	話合いの話題や方向を捉えて的確に話す	○					○				○			68.2	0.6	B	70	50	
2	一	課題に応じて材料を集める	○						○			○			65.8	0.6	A	75	55	
2	二	集めた材料を分類するなどして整理する(見出しを付ける)	○						○			○			68.1	5.3	C	65	45	◎
2	三	書いた文章を推敲し、指示する語句を用いて、読みやすく分かりやすい文章にする	○						○			○			89.3	1.3	B	70	50	◎
2	四	根拠を明確にして自分の考えを書く	○						○			○	○		57.8	12.4	D	60	40	
2	五	書いたものを読み合って、意見を述べる	○						○			○			71.4	1.9	B	70	50	◎
3	一	文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、内容を的確に捉える	○						○			○			43.8	1.6	A	75	55	▼
3	二	文章の構成の特徴を理解する	○						○			○			46.6	1.9	B	70	50	▼
3	三	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、目的に応じて文章から必要な情報を読み取る	○						○			○	○		51.3	16.8	C	65	45	
4	一	文脈の中における語句の意味を的確に捉え、理解する	○						○			○			77.8	1.9	A	75	55	◎

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類	
4	二	場面の展開に注意して読み、内容を理解する		○					○		○			58.3	6.4	B	70	50	
4	三	文章の表現の特徴について、根拠を明らかにして自分の考えをもつ		○					○		○	○	○	24.5	39.2	D	60	40	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「蒸散」			○					○				95.1	1.6	A	75	55	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「冒しても」			○					○				62.4	9.4	B	70	50	
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「干潮」			○					○				78.4	7.1	A	75	55	◎
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「試みる」			○					○				80.7	2.8	A	75	55	◎
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(熟字訓)「迷子」			○					○				98.2	1.1	A	75	55	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「縮尺」				○					○			56.5	16.4	B	70	50	
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「混ぜる」				○					○			77.5	13.9	B	70	50	◎
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(同訓異字)「温かい」				○					○			63.1	4.0	B	70	50	
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「演奏」				○					○			71.2	11.9	B	70	50	◎
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語、同音の繰り返し)「売買」				○					○			62.8	12.8	B	70	50	
5	三	文節どうしの関係を理解する					○				○			45.2	2.4	B	70	50	▼
5	四	漢字の成り立ちについて理解する					○				○			30.0	2.6	B	70	50	▼
5	五	文字の大きさ、配列などについて理解して書く					○				○			81.9	3.3	A	75	55	◎
5	六1	文語のきまりを知り、主語を考えながら読む					○				○			79.1	11.7	B	70	50	◎
5	六2	歴史的仮名遣いについて理解する					○				○			65.4	8.1	A	75	55	
5	六3	文語のきまりを知り、古文と現代語訳を読み比べて、内容を理解する					○				○			62.4	10.2	B	70	50	

[表5] 中学3年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,656	70.5	2.6	71.2	51.2	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	6	77.0	1.0	73.3	53.3	◎
	書く	7	54.5	7.2	65.0	45.0	
	読む	15	66.4	3.0	69.0	49.0	
	漢字の読み	3	91.8	2.5	71.7	51.7	◎
	漢字の書き	3	66.2	7.6	73.3	53.3	
	語句に関する知識	11	70.1	1.4	72.7	52.7	
評価の観点	①話す・聞く	6	77.0	1.0	73.3	53.3	◎
	②書く	7	54.5	7.2	65.0	45.0	
	③読む	15	66.4	3.0	69.0	49.0	
	④知識・理解・技能	17	73.2	2.7	72.6	52.6	◎
問題形式	選択式	28	71.7	0.7	72.3	52.3	
	短答式	11	75.4	4.7	71.8	51.8	◎
	記述式	3	41.1	12.6	58.3	38.3	
活用	「活用」に関する問題	9	59.4	4.5	66.1	46.1	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
A 問題	1	聞き手の立場を想定し、話の中心的な部分と付加的な部分との関係に注意して話す	○					○							79.3	0.2	A	75	55	◎
	1	目的に応じて資料を効果的に活用して話す	○					○							77.7	0.2	A	75	55	◎
	2	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く	○						○			○			61.5	2.7	B	70	50	
	2	集めた材料を整理して文章を構成する	○						○						73.5	0.2	B	70	50	◎
	3	文脈の中における語句の意味を理解する		○						○					83.8	0.2	A	75	55	◎
	3	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する		○						○					89.2	0.3	A	75	55	◎
	4	文章を読み返し、文の使い方などに注意して書く	○						○						65.0	0.6	B	70	50	
	4	伝えたい事柄について、根拠を明らかにして書く	○						○						57.8	8.9	B	70	50	
	5	相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話す	○						○						88.0	4.1	B	70	50	◎
	5	全体と部分との関係に注意して話を構成する	○						○						87.6	0.3	A	75	55	◎
	6	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える		○						○					79.9	0.4	A	75	55	◎
	6	文章の構成や展開について自分の考えをもつ		○						○					64.9	0.5	B	70	50	
	7	話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する	○						○						68.4	0.5	A	75	55	
	7	互いの発言を検討して自分の考えを広げる	○						○						60.7	0.6	B	70	50	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み 漢字の書き	漢字に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
8	一	奥付の特徴や役割を理解する			○				○	○			83.4	1.2	A	75	55	◎	
8	二	奥付を使って本についての情報を得る			○				○	○			60.4	1.4	B	70	50		
9	一1	文脈に即して漢字を正しく書く						○		○			84.4	6.2	A	75	55	◎	
9	一2	文脈に即して漢字を正しく書く						○		○			23.4	11.8	B	70	50	▼	
9	一3	文脈に即して漢字を正しく書く						○		○			90.8	4.9	A	75	55	◎	
9	二1	文脈に即して漢字を正しく読む			○				○	○			97.4	1.3	A	75	55	◎	
9	二2	文脈に即して漢字を正しく読む			○				○	○			95.6	1.6	B	70	50	◎	
9	二3	文脈に即して漢字を正しく読む			○				○	○			82.4	4.7	B	70	50	◎	
9	三ア	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う						○		○			88.5	0.6	A	75	55	◎	
9	三イ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う						○		○			96.2	0.5	A	75	55	◎	
9	三ウ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う						○		○			57.6	1.1	B	70	50		
9	三エ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う						○		○			95.1	0.6	A	75	55	◎	
9	三オ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う						○		○			53.8	0.8	B	70	50		
9	四ア	辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える						○		○			57.6	1.1	A	75	55		
9	四イ	辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える						○		○			61.9	1.0	B	70	50		
9	五	文の成分の照応について理解する						○		○			48.6	1.3	B	70	50	▼	
9	六	文字の形や大きさ、配列に注意して書く						○		○			37.6	1.5	A	75	55	▼	
9	七1	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む						○		○			79.3	4.6	A	75	55	◎	
9	七2	歌に表れた作者の思いを想像する						○		○			94.4	2.1	B	70	50	◎	
B 問題	1	一	文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉える			○			○	○			72.4	0.1	B	70	50	◎	
	1	二	目的に応じて必要な情報を読み取る			○			○	○			81.5	0.1	A	75	55	◎	
	1	三	文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く	○	○				○	○	○			51.6	7.8	D	60	40	
	2	一	文章の構成を捉える			○			○	○	○			63.0	0.1	C	65	45	
	2	二	目的に応じて文章を要約する			○			○	○	○			61.9	0.2	B	70	50	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類	
2	三	課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える	○	○				○	○			○	○	34.8	7.6	D	60	40	▼
3	一	文章の展開に即して内容を理解する		○					○			○	○	68.8	1.3	B	70	50	
3	二	目的に応じて必要な情報を読み取る		○					○		○	○	○	62.9	0.8	B	70	50	
3	三	本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く	○	○				○	○			○	○	36.6	22.7	E	55	35	

(4) 地域別の正答率

- 県内5地域の国語の学年別平均正答率の対県比は[表6]のとおりで、依然として地域間の学力差が見られる状況にあり、5学年中2学年で、昨年度と比べて地域差が拡大している。
- 学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、5地域とも、小・中学校全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ12]

[表6] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校5年生	国語	H28	1.00	1.02	0.96	1.00	1.03	縮 0.07
		H27	1.02	1.00	0.93	1.00	1.06	▲ 0.13
小学校6年生	国語	H28	1.02	1.00	0.95	0.99	1.03	拡 0.08
		H27	1.01	1.01	0.96	1.00	1.01	0.05
中学校1年生	国語	H28	1.01	1.01	0.97	1.00	1.01	0.04
		H27	0.99	1.02	0.98	1.02	0.99	0.04
中学校2年生	国語	H28	1.00	1.04	0.97	0.98	1.00	0.07
		H27	0.98	1.03	0.96	1.02	1.02	0.07
中学校3年生	国語	H28	1.00	1.02	0.96	1.01	1.01	拡 0.06
		H27	1.01	1.01	0.98	1.00	0.98	0.03

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

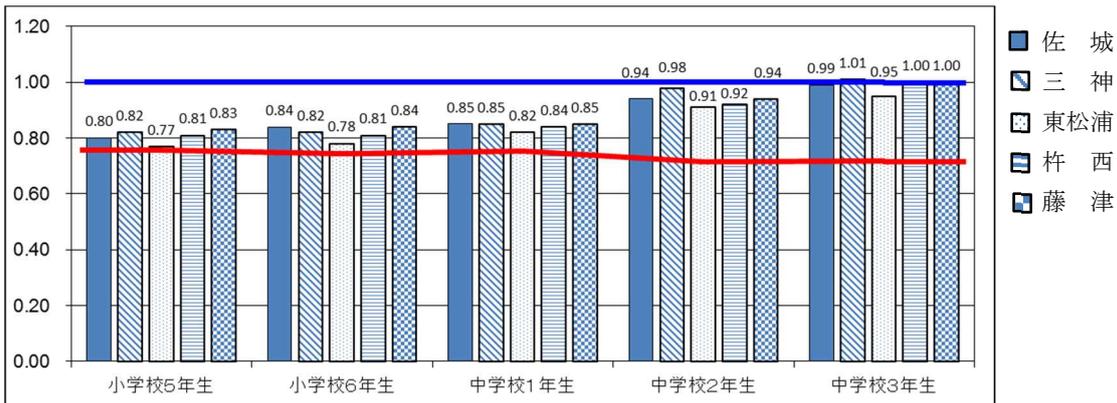
※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成27年度調査より地域差が拡大した教科を、「縮」は縮小した教科を示す

[グラフ12] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の正答率を1.00として算出



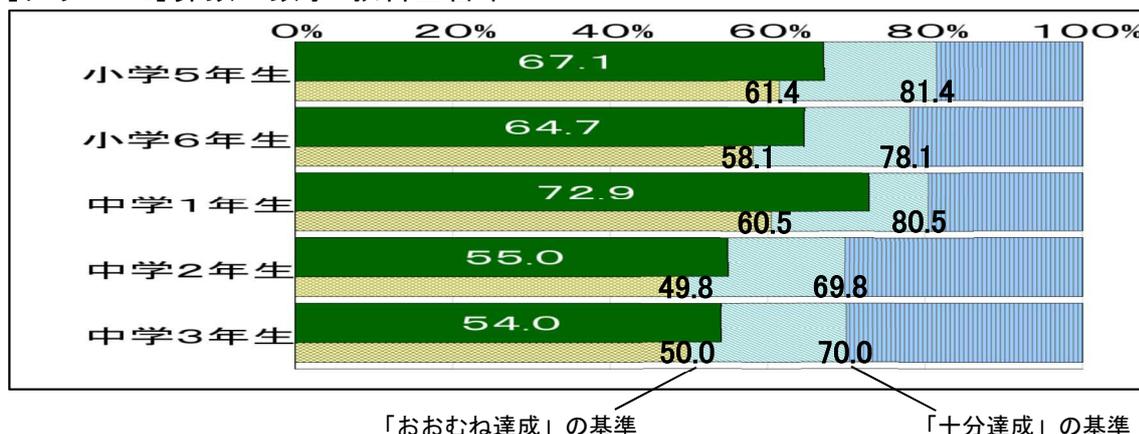
※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

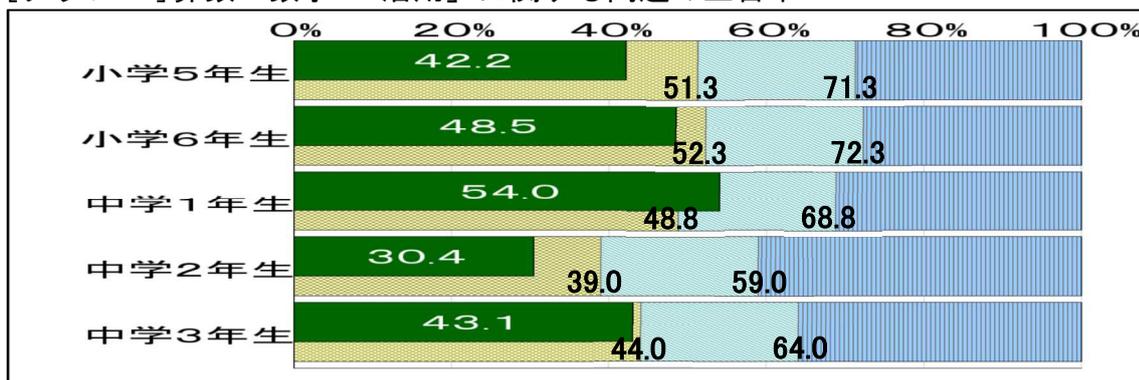
(1) 結果の概要

- 小・中学校共に、教科正答率は、全ての学年において「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ 13]
- 数量の関係を図に整理したり読み取ったりすることや、判断の理由や事柄の成り立つ理由、問題解決の方法を式や言葉で説明したりすることなどの「活用」に関する問題の正答率は、中学1年生以外の学年で「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。[グラフ 14]
- 観点別に見ると、「数量や図形についての（数学的な）技能」「数量や図形（など）についての知識・理解」については、小・中学校共に全ての学年において「おおむね達成」の基準を上回っている。しかし、「数学的な考え方（見方や考え方）」については、中学1年生以外の学年で「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。[グラフ 15～17]
- 内容・領域別に見ると、全ての内容・領域において、小学5年生と中学1年生で「おおむね達成」の基準を上回っている。「数量関係」については、小学6年生で「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。「資料の活用」については、中学2年生、中学3年生共に「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。「関数」については、中学3年生で「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。[グラフ 18～22]

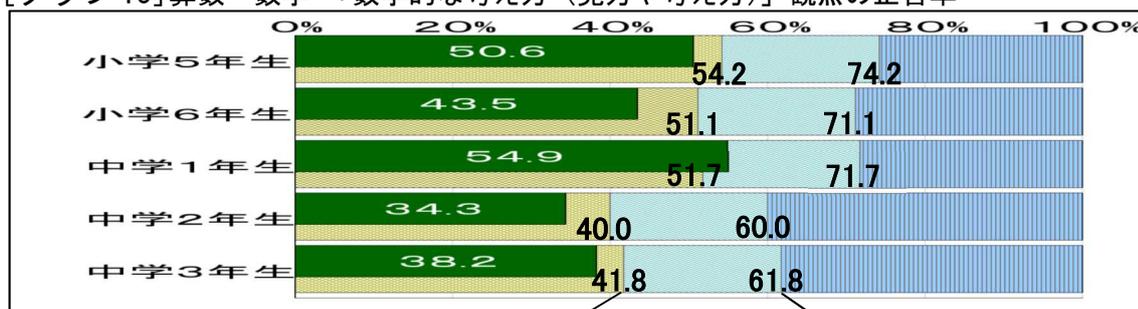
[グラフ 13]算数・数学 教科正答率



[グラフ 14]算数・数学 「活用」に関する問題の正答率



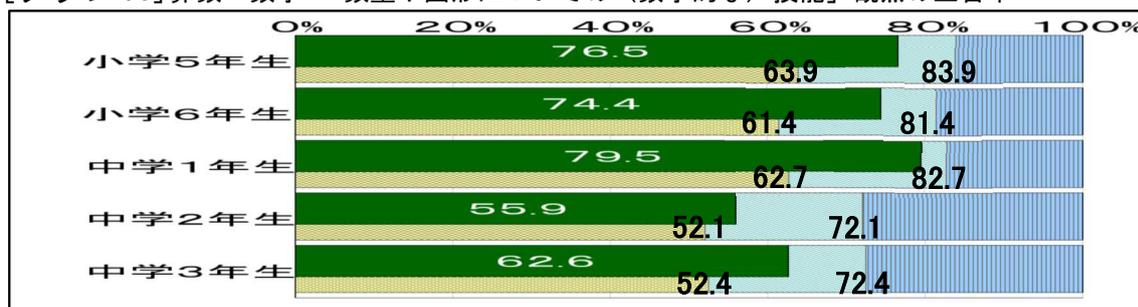
[グラフ 15] 算数・数学 「数学的な考え方（見方や考え方）」観点の正答率



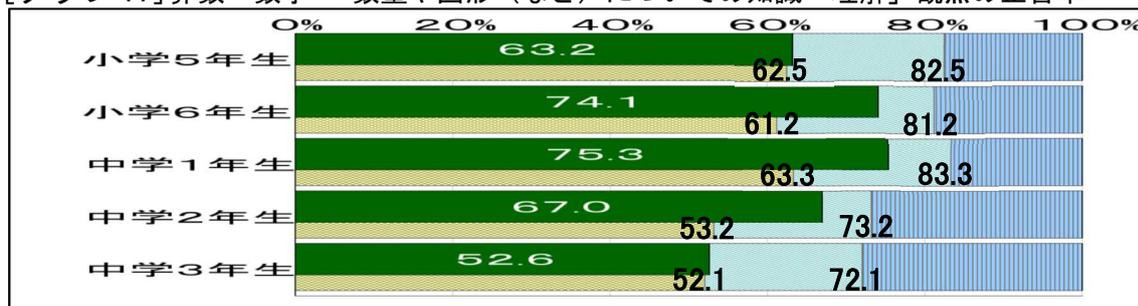
「おおむね達成」の基準

「十分達成」の基準

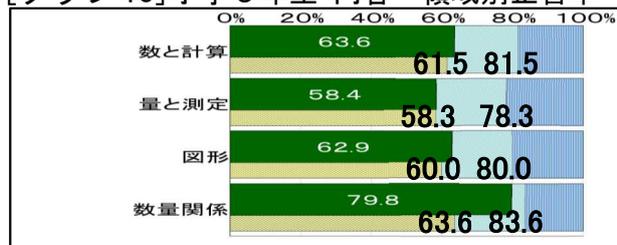
[グラフ 16] 算数・数学 「数量や図形についての（数学的な）技能」観点の正答率



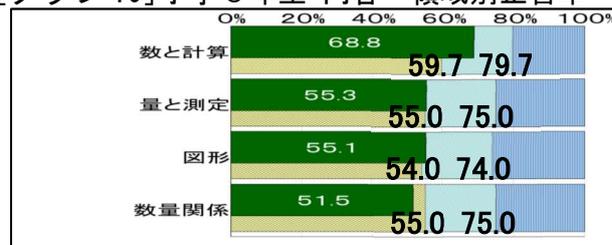
[グラフ 17] 算数・数学 「数量や図形（など）についての知識・理解」観点の正答率



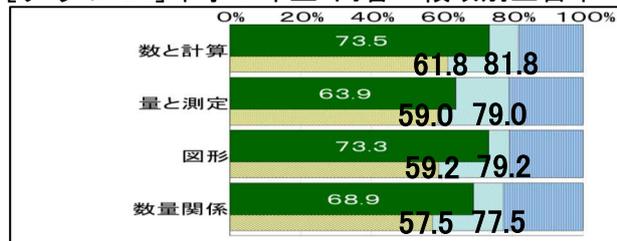
[グラフ 18] 小学5年生 内容・領域別正答率



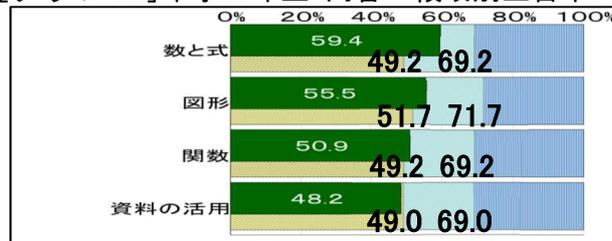
[グラフ 19] 小学6年生 内容・領域別正答率



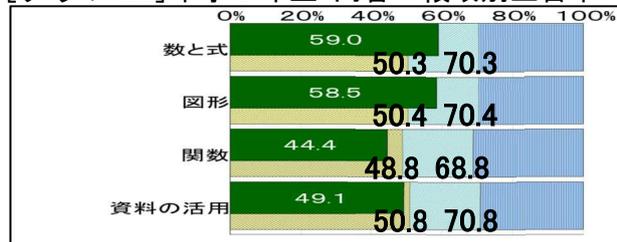
[グラフ 20] 中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ 21] 中学2年生 内容・領域別正答率



[グラフ 22] 中学3年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校算数（小学5年生、小学6年生、中学1年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 二つの観点から整理して、表された表から必要な情報を読み取ったり、表を用いて表したりすることに定着が見られる。
(小学5年生[6](1)(2))
- ◇ 内容・領域「図形」の基礎的な知識や技能に定着が見られる。
(小学6年生A問題[7]、中学1年生[5](1)(2))
- ◆ 1 数量の関係を図に整理して考えたり、図から数量の関係を読み取ったりすることに課題が見られる。
(小学5年生[8]、小学6年生B問題[2](1))
- ◆ 2 式の意味や式に使われている数値の意味を考えることに課題が見られる。
(小学6年生B問題[2](3)、[5](1))
- ◆ 3 示された考えを基に、別の場面や発展的な場面に適用して考え、説明することに課題が見られる。
(小学6年生B問題[1](2)、中学1年生[12])

指導改善のポイント

◆ 1 図を使いながら、示された情報を整理したり、数量の関係を把握したりする力を育成するためには、問題文から分かることを図に表したり、図に書き込んだりする活動を設定することが必要である。また、示された図から分かることを話し合う活動を設定して、示された図から、場面を的確に捉えることができるようにすることも必要である。

◆ 2 式や数値の意味を考える力を育成するためには、問題文を基に立式するだけでなく、友達が発表した式について、式の意味やそのように立式した理由などを考える活動を設定することが必要である。その際には、式に使われている数値が何を表すのかを、問題文や図などと関連付けながら確かめさせることで、式の意味を正しく解釈させることが大切である。また、何種類かの考え方がある問題を扱う際には、それぞれの式を比較させ、その意味の違いを考えさせることが大切である。

◆ 3 考えを別の場面や発展的な場面に適用して考え、説明する力を育成するためには、示された考えを基に、「数字や場面を変えても同じようなきまりが成り立つのか」「なぜそのようなきまりが成り立つのか」などを考える活動を設定することが必要である。また、考えを説明する活動を設定し、過不足なく説明されているかどうかを、言葉、図、式、操作などと関連付けながら確かめさせることが必要である。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。「導入の段階の工夫」や「練り合いの段階の工夫」をした授業づくりについて、第1・6学年の「学習指導案」や「ワークシート」を提案しています。授業づくりに役立ててください。

中学校数学（中学２年生、中学３年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 度数分布表や中央値についての理解に定着が見られる。（中学２年生 [14](#)(2)①、③）
- ◇ 不等式の意味を読み取ったり、方程式が表す関係を読み取ったりすることに定着が見られる。（中学３年生 [2](#)(3)、[3](#)(4)）
- ◆ 1 x 、 y の関係を式や表に表すこと、変域を求めることに課題が見られる。（中学２年生 [13](#)(1)、中学３年生A問題 [9](#)(4)、[10](#)(3)）
- ◆ 2 近似値と誤差、相対度数を求めることに課題が見られる。（中学２年生 [14](#)(1)(2)②、中学３年生A問題 [12](#)(2)、B問題 [5](#)(2)）
- ◆ 3 判断の理由や事柄が成り立つ理由、問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。（中学２年生 [5](#)(2)、中学３年生B問題 [1](#)(2)、[3](#)(3)、[6](#)(2)）

指導改善のポイント

◆ 1 x 、 y の関係を式や表に表す力を育成するためには、表、式、グラフを関連付けて考察する場面を設定することや表、式、グラフを関連付けて理解させることが大切である。表、式、グラフを関連付けて理解させるためには、与えられた情報から x と y の関係を表や式に表したり、グラフから x 座標と y 座標の値の組を読み取ったり、グラフを用いて変域を視覚的に捉えたりする活動を取り入れることが大切である。

◆ 2 資料の傾向を的確に捉えて判断する力を育成するためには、代表値を求めたり、資料の分布の様子を捉えたりする場面を通して、相対度数の必要性和意味の理解を深めることが必要である。また、測定値には誤差があり、真の値の近似値であることを、実感を伴って理解できるような場面を設定することも必要である。実感を伴った理解につなげるためには、観察、操作や実験などの具体的な活動を取り入れることが大切である。

◆ 3 判断の理由や事柄が成り立つ理由などを数学的な表現を用いて説明できる力を育成するためには、実生活の場面における問題を解決する活動を取り入れ、他者に説明際に、数学的な表現を用いて言葉で説明する、書いて説明するなどの学習活動を行うことが大切である。その際、必要な条件を用いて伝え合う、互いの数学的な表現のよさを確認し合う、伝え合ったことを言葉で的確にまとめることができるような指導を充実させていくことが必要である。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。数学的に説明し伝え合う活動を充実させた第1・2学年の「詳細授業展開案」と「ワークシート」を提案しています。内容・領域「関数」「図形」の授業づくりに役立ててください。

各学年の設問ごとの正答率

[表7] 小学5年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,247	67.1	2.5	81.4	61.4	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	10	63.6	4.4	81.5	61.5	
	量と測定	6	58.4	2.0	78.3	58.3	
	図形	6	62.9	4.7	80.0	60.0	
	数量関係	7	79.8	1.2	83.6	63.6	
評価の観点	①考え方	6	50.6	8.0	74.2	54.2	▼
	②技能	14	76.5	0.9	83.9	63.9	
	③知識・理解	8	63.2	1.3	82.5	62.5	
問題形式	選択式	5	66.9	0.9	82.0	62.0	
	短答式	21	70.1	1.4	82.4	62.4	
	記述式	2	36.8	18.3	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	4	42.2	10.9	71.3	51.3	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1)	1/100の位までの小数の加法の計算をすることができる	○				○			○			66.3	0.1	A	85	65	
1	(2)	除数が2位数で、被除数が3位数の除法の計算をすることができる	○				○			○			88.3	1.3	A	85	65	◎
1	(3)	乗数が2位数で、被乗数が1/10の位までの小数の乗法の計算をすることができる	○				○			○			64.8	0.6	A	85	65	▼
1	(4)	同分母の分数の減法の計算をすることができる	○				○			○			88.9	0.8	A	85	65	◎
1	(5)	加法と除法の混合した式の計算をすることができる		○			○			○			75.5	0.8	B	80	60	
2	(1)	小数の意味と表し方について理解している	○				○			○			60.1	0.6	A	85	65	▼
2	(2)	億の単位について知り、十進位取り記数法について理解している	○				○			○			45.3	0.8	B	80	60	▼
2	(3)	分配法則を使って計算の仕方を工夫することができる		○			○			○			76.8	1.8	A	85	65	
2	(4)	m ² で表された面積を、cm ² で表すことができる	○				○			○			56.4	1.1	A	85	65	▼
3	(1)	数を四捨五入して、概数で表すことができる	○				○			○			76.7	0.4	A	85	65	
3	(2)	条件に適した長さや面積の単位について理解している	○				○			○			60.7	0.3	B	80	60	
4	(1)	伴って変わる二つの数量の関係から未知数を求めることができる		○			○			○			90.2	1.4	A	85	65	◎
4	(2)	伴って変わる二つの数量の関係を調べ、一辺に使った棒の数を考えることができる		○			○			○			61.2	2.2	B	80	60	
5	(1)	直線の位置関係に着目し、平行な二つの直線を見付けることができる	○				○			○			67.6	0.8	B	80	60	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	① 考え方	② 技能	③ 知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
5	(2) 平行四辺形の特徴を理解している		○				○		○			80.0	1.1	A	85	65		
6	(1) 二つの観点から整理して表された表から、必要な情報を読み取ることができる			○			○		○			89.3	0.4	A	85	65	◎	
6	(2) 二つの観点から整理して、表を用いて表すことができる			○			○		○			93.6	0.6	A	85	65	◎	
7	そろばんによる数の表し方を理解している	○					○		○			72.3	2.5	A	85	65		
8	示された情報を基に、2つの道から、掛かる時間が短くなる方を選び、その時間の違いを考慮することができる	○					○		○	○		44.6	1.7	D	70	50	▼	
9	(1) 展開図を組み立ててできる立体の頂点の位置関係を理解している			○			○		○			64.0	1.0	B	80	60		
9	(2) 展開図を組み立ててできる立体の面と辺の垂直の関係を理解している			○			○		○			49.3	1.7	B	80	60	▼	
10	折れ線グラフの変化の様子を読み取ることができる			○			○		○			71.9	1.0	A	85	65		
11	ものの位置の表し方を理解している			○			○		○			74.1	2.0	A	85	65		
12	(1) 分度器を用いて180°より大きい角の大きさを求めることができる	○					○		○			64.4	1.1	B	80	60		
12	(2) 複合図形の面積を考慮することができる	○					○		○			73.5	2.2	B	80	60		
13	示された情報を基に、ボールを買うために、毎月貯金する必要がある金額を求め、その求め方を説明することができる	○					○		○	○		30.9	15.3	D	70	50	▼	
14	示された情報を基に、長針と短針の間に見える角の大きさを考えることができる	○					○		○	○		50.6	5.4	C	75	55	▼	
15	示された情報を基に、2種類の円の直径の長さから、長方形の縦の長さを求め、その求め方を説明することができる	○	○				○		○	○		42.7	21.3	D	70	50	▼	

[表8] 小学6年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,396	64.7	3.1	78.1	58.1	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	16	68.8	3.1	79.7	59.7	
	量と測定	7	55.3	4.5	75.0	55.0	
	図形	5	55.1	5.8	74.0	54.0	
	数量関係	9	51.5	4.7	75.0	55.0	▼
評価の観点	①考え方	9	43.5	7.4	71.1	51.1	▼
	②技能	7	74.4	0.9	81.4	61.4	
	③知識・理解	13	74.1	1.2	81.2	61.2	
問題形式	選択式	10	65.4	2.1	77.0	57.0	
	短答式	14	76.1	1.1	82.5	62.5	
	記述式	5	31.5	10.6	68.0	48.0	▼
活用	「活用」に関する問題	13	48.5	5.6	72.3	52.3	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
A 問題	1 (1)	除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることを理解している	○				○		○			63.9	0.7	B	80	60		
	1 (2)	除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことを理解している	○				○		○			72.0	0.2	A	85	65		
	1 (3)	除法における計算の確かめの方法を理解している	○				○		○			84.5	0.4	A	85	65		
	2 (1)	繰り下がりのある減法の計算をすることができる	○				○		○			90.7	0.1	A	85	65	◎	
	2 (2)	末尾の位のそろっていない小数の加法の計算をすることができる	○				○		○			77.6	0.2	A	85	65		
	2 (3)	小数の除法の計算をすることができる	○				○		○			81.0	0.4	A	85	65		
	2 (4)	乗数が整数である場合の分数の乗法の計算をし、約分することができる	○				○		○			89.6	0.6	A	85	65	◎	
	3 (1)	不等号を理解している	○				○		○			96.6	0.5	A	85	65	◎	
3 (2)	数の大小関係を理解している	○				○		○			74.7	0.2	A	85	65			
4	単位量当たりの大きさの求め方を理解している	○				○		○			72.8	2.3	B	80	60			
5	三角形の底辺と高さの関係について理解している	○				○		○			82.7	0.6	B	80	60	◎		
6	図形の構成要素に着目して、図形を構成することができる	○				○		○			78.1	0.7	B	80	60			
7	直方体における面と面の位置関係を理解している	○				○		○			80.5	1.6	B	80	60	◎		
8	全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合の意味について理解している		○			○		○			70.8	1.4	B	80	60			

設問別集計結果

B
問
題

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県 正 答 率	県 無 解 答 率	期待 正 答 率			到達 状 況
		数 と 計 算	量 と 測 定	図 形	数 量 関 係	① 考 え 方	② 技 能	③ 知 識 ・ 理 解	選 択 式	短 答 式				記 述 式	問 題 分 類	十 分 達 成	
9	(1)	示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表すことができる	○		○						○	81.6	2.5	A	85	65	
9	(2)	1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解している			○						○	48.1	3.4	B	80	60	▼
1	(1)	示された条件を基にほかの正方形について検討し、同じきまりが成り立つかを調べることができる	○	○							○	91.8	0.2	B	80	60	◎
1	(2)	示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述できる		○							○	47.7	2.0	C	75	55	▼
2	(1)	ハードルの数とインターバルの数の関係を式に表し、4台目のハードルの位置を求めることができる				○					○	54.2	1.9	C	75	55	▼
2	(2)	示された式に数値を当てはめて、目標のタイムを求めることができる	○		○						○	49.3	2.8	C	75	55	▼
2	(3)	示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述できる	○								○	26.4	13.2	E	65	45	▼
3	(1)	乗法や除法の式の意味を解釈することができる	○								○	60.5	0.6	C	75	55	
3	(2)	縦にかくことができる正方形の数を求め、2・4個の正方形をかくことができる理由を記述できる	○								○	41.9	11.2	D	70	50	▼
3	(3)	正方形に内接する円の半径について理解している			○						○	74.5	1.7	C	75	55	
4	(1)	単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することができる	○		○						○	49.4	1.7	C	75	55	▼
4	(2)	示された事柄について、二つの表を基に読み取ることができない事柄を特定することができる				○					○	68.7	2.3	C	75	55	
4	(3)	グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述できる				○					○	23.4	10.7	E	65	45	▼
5	(1)	示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述できる	○	○	○						○	17.8	15.7	E	65	45	▼
5	(2)	図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断することができる	○	○							○	24.5	9.3	D	70	50	▼

[表9] 中学1年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,401	72.9	1.8	80.5	60.5	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	11	73.5	1.5	81.8	61.8	
	量と測定	5	63.9	4.1	79.0	59.0	
	図形	6	73.3	2.5	79.2	59.2	
	数量関係	8	68.9	2.0	77.5	57.5	
評価の観点	①考え方	6	54.9	4.5	71.7	51.7	
	②技能	13	79.5	1.5	82.7	62.7	
	③知識・理解	9	75.3	0.6	83.3	63.3	
問題形式	選択式	7	69.6	0.7	82.1	62.1	
	短答式	19	77.6	1.5	81.3	61.3	
	記述式	2	39.5	8.5	67.5	47.5	▼
活用	「活用」に関する問題	4	54.0	5.7	68.8	48.8	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1) 被乗数、乗数が共に真分数の乗法の計算ができる	○				○			○			94.6	0.7	A	85	65	◎	
1	(2) 被乗数が帯分数、乗数が真分数の乗法の計算ができる	○				○			○			92.4	0.9	A	85	65	◎	
1	(3) 被除数、除数が共に真分数の除法の計算ができる	○				○			○			93.1	0.9	A	85	65	◎	
1	(4) 除数が小数、被除数が分数の除法の計算ができる	○				○			○			78.7	1.8	B	80	60		
2	(1) 数量の関係を数直線に表すことができる	○				○			○			75.1	2.9	B	80	60		
2	(2) 1に当たる大きさを求めるために、除法が用いられることを理解している	○					○		○			51.0	1.0	B	80	60	▼	
3	(1) 除数が分数や小数である除法において、被除数と商の大きさとの関係について考えることができる	○				○			○			61.2	0.6	B	80	60		
3	(2) 速さと時間から長さを求めることができる	○				○			○			87.4	1.4	A	85	65	◎	
3	(3) m ³ で表された体積を、cm ³ で表すことができる	○				○			○			53.8	1.3	B	80	60	▼	
3	(4) 比と全体の量を基に、部分の量を考えることができる		○			○			○			52.2	3.5	C	75	55	▼	
3	(5) xやyを用いて数量の関係を式に表すことができる		○			○			○			87.7	0.6	B	80	60	◎	
4	(1) 柱状グラフにおける資料の分布の様子を理解している		○				○		○			69.1	0.5	A	85	65		
4	(2) 柱状グラフの特徴を理解している		○				○		○			66.0	0.3	A	85	65		
5	(1) 点対称な図形における対応する点の位置関係について理解している	○				○			○			97.6	0.3	A	85	65	◎	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	① 考え方	② 技能	③ 知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
5	(2)	点対称な図形における対応する辺の位置関係について理解している		○			○			○		88.8	0.3	A	85	65	◎	
6	(1)	線対称な図形の対称の軸について理解している		○			○			○		83.5	0.4	B	80	60	◎	
6	(2)	線対称な図形について理解している		○			○		○			90.7	0.4	B	80	60	◎	
7	(1)	円周の長さを、半径の長さをを用いて求めることができる		○			○			○		49.0	1.3	B	80	60	▼	
7	(2)	三角形の面積を求めることができる	○				○			○		55.2	4.2	B	80	60	▼	
7	(3)	落ちや重なりがないように、順序よく調べることができる			○		○			○		90.4	0.6	A	85	65	◎	
7	(4)	直方体の体積を求めることができる	○				○			○		92.9	1.0	A	85	65	◎	
8		示された情報を基に、商品をより安く買う方法を判断し、その理由を説明することができる	○		○		○			○	○	48.7	4.6	D	70	50	▼	
9	(1)	分数の大小について理解している	○				○		○			49.5	1.0	A	85	65	▼	
9	(2)	数直線から、1/100の位までの小数を読み取ることができる	○				○			○		83.6	1.4	A	85	65		
9	(3)	以上、未満の意味と用語について理解している	○				○		○			81.2	1.0	A	85	65		
10		示された例を基に、二つの数量の関係を文字を用いた式で表す方法を考えることができる			○		○			○	○	75.7	2.3	D	70	50	◎	
11		示された条件を基に、荷物を送るための送料を、複数の資料を関連付けて考えることができる			○		○			○	○	61.2	3.5	D	70	50		
12		長方形の面積を2等分する考えを基に、二つの図形の面積が等しくなる理由を考え、説明することができる	○	○			○			○	○	30.3	12.4	E	65	45	▼	

[表10] 中学2年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,452	55.0	9.6	69.8	49.8	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と式	12	59.4	8.7	69.2	49.2	
	図形	9	55.5	8.8	71.7	51.7	
	関数	6	50.9	9.9	69.2	49.2	
	資料の活用	5	48.2	12.7	69.0	49.0	▼
評価の観点	①見方や考え方	7	34.3	14.7	60.0	40.0	▼
	②技能	14	55.9	10.0	72.1	52.1	
	③知識・理解	11	67.0	5.8	73.2	53.2	
問題形式	選択式	7	60.2	3.8	70.7	50.7	
	短答式	22	55.4	10.3	71.1	51.1	
	記述式	3	40.0	17.6	58.3	38.3	
活用	「活用」に関する問題	5	30.4	17.3	59.0	39.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
1	(1)	正の数・負の数の減法の計算をすることができる	○				○		○			85.9	0.4	A	75	55	◎
1	(2)	四則を含む正の数と負の数の計算をすることができる	○				○		○			82.5	1.0	A	75	55	◎
1	(3)	分配法則を用いた文字の式の計算をすることができる	○				○		○			48.8	5.1	B	70	50	▼
2	(1)	絶対値の意味について理解している	○				○		○			73.2	7.5	A	75	55	
2	(2)	文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○				○		○			62.4	5.8	B	70	50	
2	(3)①	一元一次方程式を解くことができる	○				○		○			74.8	6.4	A	75	55	
2	(3)②	分数の一元一次方程式を解くことができる	○				○		○			31.7	18.2	B	70	50	▼
2	(3)③	比例式を解くことができる	○				○		○			83.6	6.0	A	75	55	◎
3		文字を用いた不等式から、数量の大小関係を読み取り、説明することができる	○				○		○	○		52.3	10.0	D	60	40	
4		具体的な事象の中の数量の関係を捉え、方程式をつくることができる	○				○		○	○		20.7	15.6	D	60	40	▼
5	(1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○				○		○			62.6	3.2	B	70	50	
5	(2)	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	○				○		○	○		34.8	25.8	E	55	35	▼
6	(1)	扇形の面積がその中心角の大きさに比例することに着目し、扇形の面積を求めることができる	○				○		○			35.0	23.8	B	70	50	▼
6	(2)①	空間における平面と直線の位置関係について理解している(垂直)	○				○		○			70.3	2.3	A	75	55	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
6	(2)②	空間における直線と直線の位置関係について理解している（ねじれの位置）	○				○		○			73.9	2.5	A	75	55	
6	(3)	展開図がどのような空間図形を表しているかを読み取ることができる	○				○		○			57.0	0.9	A	75	55	
6	(4)	長方形の一边を軸とする回転によって円柱が構成されることを理解している	○				○		○			89.4	1.6	A	75	55	◎
7		平行移動について理解している	○				○		○			81.1	3.0	A	75	55	◎
8		垂直二等分線の作図の方法を用いて、円の直径をひくことができる	○				○		○			30.2	23.5	B	70	50	▼
9		点が動いたあとの長さを的確に捉え、扇形の弧の長さの求め方を利用して考えることができる	○				○		○	○		11.3	18.0	D	60	40	▼
10		底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している	○				○		○			51.3	3.3	B	70	50	
11	(1)	点の座標の表し方を理解している	○				○		○			83.4	3.4	A	75	55	◎
11	(2)	比例の関係を表すグラフの特徴について理解している	○				○		○			40.0	3.4	B	70	50	▼
12	(1)	与えられた比例の式について、そのグラフ上の点のx座標を基に、y座標を求めることができる	○				○		○			42.7	15.9	A	75	55	▼
12	(2)	具体的な事象から二つの数量の関係を捉え、変化や対応の様子を予想することができる	○				○		○			56.8	8.9	C	65	45	
13	(1)	与えられた情報を基に、xとyの関係を表に表すことができる	○				○		○			49.5	10.4	B	70	50	▼
13	(2)	与えられた情報を基に、xとyの関係が反比例であることを説明することができる	○				○		○	○		32.9	17.1	D	60	40	▼
14	(1)	近似値の意味について理解している	○				○		○			23.8	21.8	B	70	50	▼
14	(2)①	度数分布表について理解している	○				○		○			78.8	8.4	A	75	55	◎
14	(2)②	相対度数を求めることができる	○				○		○			35.8	18.9	B	70	50	▼
14	(2)③	中央値について理解している	○				○		○			71.8	6.6	B	70	50	◎
15		資料の傾向を捉えることができる	○				○		○			31.0	7.7	D	60	40	▼

[表11] 中学3年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,677	54.0	9.8	70.0	50.0	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と式	18	59.0	8.6	70.3	50.3	
	図形	14	58.5	8.1	70.4	50.4	
	関数	13	44.4	11.5	68.8	48.8	▼
	資料の活用	6	49.1	13.8	70.8	50.8	▼
評価の観点	①見方や考え方	11	38.2	18.9	61.8	41.8	▼
	②技能	23	62.6	9.0	72.4	52.4	
	③知識・理解	17	52.6	4.9	72.1	52.1	
問題形式	選択式	15	52.0	1.4	70.7	50.7	
	短答式	29	59.9	10.3	72.2	52.2	
	記述式	7	34.0	25.7	59.3	39.3	▼
活用	「活用」に関する問題	15	43.1	17.7	64.0	44.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
A 問題	1 (1)	分数と小数の乗法の計算ができる	○				○			○			54.2	5.3	A	75	55	▼
	1 (2)	自然数の意味を理解している	○				○			○			38.4	0.2	A	75	55	▼
	1 (3)	正の数と負の数の加法の計算ができる	○				○			○			90.8	0.7	A	75	55	◎
	1 (4)	ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解している	○				○			○			66.8	0.3	B	70	50	
	2 (1)	数量の関係を文字式に表すことができる	○				○			○			30.9	13.5	B	70	50	▼
	2 (2)	整式の加法と減法の計算ができる	○				○			○			83.6	2.3	A	75	55	◎
	2 (3)	不等式の意味を読み取ることができる	○				○			○			77.1	0.3	A	75	55	◎
	2 (4)	具体的な場面で数量の関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形できる	○				○			○			64.4	6.9	A	75	55	
	3 (1)	簡単な一元一次方程式を解くことができる	○				○			○			68.9	5.6	A	75	55	
	3 (2)	一元一次方程式の解の意味を理解している	○				○			○			43.3	0.5	B	70	50	▼
	3 (3)	具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくることができる	○				○			○			52.3	16.0	B	70	50	
	3 (4)	2つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り、2つの二元一次方程式で表すことができる	○				○			○			88.9	5.7	B	70	50	◎
	4 (1)	垂線の作図の方法について理解している	○				○			○			28.3	0.9	B	70	50	▼
	4 (2)	対称移動した図形をかくことができる	○				○			○			66.4	2.5	A	75	55	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
5	(1)		○				○			○		74.4	2.2	A	75	55		
5	(2)		○				○			○		48.8	6.2	A	75	55	▼	
5	(3)		○				○			○		78.9	0.6	A	75	55	◎	
5	(4)		○				○			○		51.9	11.3	B	70	50		
6	(1)		○				○			○		71.7	5.0	B	70	50	◎	
6	(2)		○				○			○		65.9	0.9	B	70	50		
7	(1)		○				○			○		66.4	0.8	B	70	50		
7	(2)		○				○			○		70.9	12.6	A	75	55		
7	(3)		○				○			○		73.2	9.0	A	75	55		
8			○				○			○		57.2	1.4	B	70	50		
9	(1)		○				○			○		87.0	3.6	A	75	55	◎	
9	(2)		○				○			○		37.6	11.7	B	70	50	▼	
9	(3)		○				○			○		38.1	1.7	B	70	50	▼	
9	(4)		○				○			○		29.4	14.5	B	70	50	▼	
10	(1)		○				○			○		58.8	2.0	B	70	50		
10	(2)		○				○			○		47.4	25.5	A	75	55	▼	
10	(3)		○				○			○		32.6	19.8	B	70	50	▼	
11			○				○			○		50.2	14.4	B	70	50		
12	(1)		○				○			○		49.3	15.7	A	75	55	▼	
12	(2)		○				○			○		28.3	3.1	B	70	50	▼	
13	(1)		○				○			○		57.4	2.5	A	75	55		
13	(2)		○				○			○		77.6	9.2	A	75	55	◎	
B 問題	1	(1)	○				○			○		79.7	1.0	B	70	50	◎	
	1	(2)	○				○			○		27.8	20.3	C	65	45	▼	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県 正答率	県 無解答率	期待 正答率			到達 状況
		数 と 式	図 形	関 数	資 料 の 活 用	① 見 方 や 考 え 方	② 技 能	③ 知 識 ・ 理 解	選 択 式	短 答 式	記 述 式				問 題 分 類	十 分 達 成	お お む ね 達 成	
1	(3)	○				○				○	○	59.4	7.5	D	60	40		
2	(1)		○				○			○	○	54.5	9.3	B	70	50		
2	(2)		○			○				○	○	24.5	21.2	D	60	40	▼	
3	(1)		○				○			○	○	64.7	3.6	B	70	50		
3	(2)		○			○			○	○	○	27.6	0.9	C	65	45	▼	
3	(3)		○			○				○	○	25.3	21.6	D	60	40	▼	
4	(1)	○				○				○	○	32.5	26.6	D	60	40	▼	
4	(2)	○				○				○	○	32.7	34.0	E	55	35	▼	
5	(1)		○			○				○	○	48.4	21.4	D	60	40		
5	(2)		○				○		○	○	○	33.2	30.8	B	70	50	▼	
6	(1)	○					○			○	○	74.1	14.7	B	70	50	◎	
6	(2)	○				○				○	○	14.9	47.6	D	60	40	▼	
6	(3)	○				○			○	○	○	47.2	6.0	C	65	45		

(4) 地域別の正答率

- 県内5地域の算数・数学の学年別平均正答率の対県比は[表 12]のとおりで、依然として地域間の学力差が見られる状況にあり、5学年中3学年で、昨年度と比べて地域差が拡大している。
- 学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、5地域とも、小・中学校全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ 23]

[表 12] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校5年生	算数	H28	1.01	1.00	0.97	1.01	1.04	縮 0.07
		H27	1.00	1.02	0.96	1.01	1.05	0.09
小学校6年生	算数	H28	1.01	1.02	0.96	1.00	1.00	拡 0.06
		H27	0.99	1.01	0.98	1.01	1.00	0.03
中学校1年生	数学	H28	1.02	1.02	0.97	0.96	1.00	拡 0.06
		H27	1.00	1.03	0.99	0.99	0.98	0.05
中学校2年生	数学	H28	1.02	1.02	0.92	0.97	1.09	▲ 拡 0.17
		H27	1.02	1.03	0.91	1.02	0.98	▲ 0.12
中学校3年生	数学	H28	1.02	1.00	0.94	1.02	0.99	縮 0.08
		H27	1.03	1.01	0.96	1.02	0.92	▲ 0.11

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

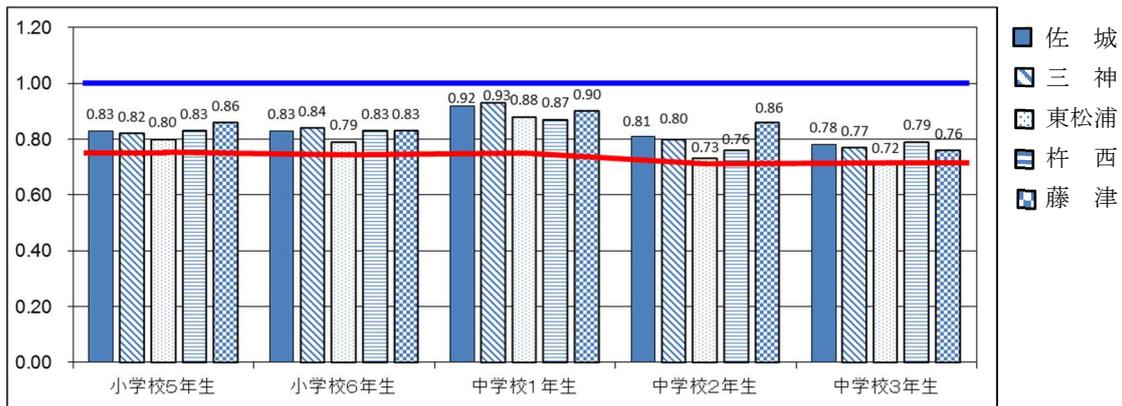
※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成27年度調査より地域差が拡大した教科を、「縮」は縮小した教科を示す

[グラフ 23] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の正答率を1.00として算出



※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

IV 児童生徒意識調査（小学5年、中学1年、中学2年）、
児童生徒質問紙調査（小学6年、中学3年）、学校質問紙
調査及び教師意識調査の概要

- ※意識調査は、県調査の児童生徒意識調査及び全国調査の児童生徒質問紙・学校質問紙の回答を分析したものである。（共に、各学校で入力を行ったデータに基づいている。）
- ※クロス集計では、意識調査と教科（国語、算数・数学）平均正答率の2つの項目を掛け合わせてデータの集計を行っている。
- ※教師意識調査の対象は、平成28年2月時点での各学校在籍職員のうち、当該学年・教科を担当していた者である。

(1) 授業に対する関心、理解度、有用性について

- 「各教科の勉強が好き」という問いに対して肯定的な回答（「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」、以下同じ）をした児童生徒の割合（同一学年）を見ると、次の教科、学年において、前年度を上回っている。

[グラフ 1、2、3、4、5]

- ◇国語－小学5年
- ◇社会－小学5年、中学2年（小学6年、中学3年は意識調査なし）
- ◇理科－小学5年（小学6年、中学3年は意識調査なし）

平成27年度に比べて、前年度を上回った教科、学年は減少している。
（平成27年度：12/17教科 平成28年度：4/17教科）

また、「各教科の勉強が好き」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、各教科とも6割前後であるが、小学校理科では8割を超えている。

- 「各教科の授業の内容はよく分かる」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合（同一学年）を見ると、次の教科、学年において、前年度を上回っている。 [グラフ 6、7、8、9、10]

- ◇国語－小学5年、中学3年
- ◇社会－小学5年、中学2年（小学6年、中学3年は意識調査なし）
- ◇算数(数学)－小学5年
- ◇理科－小学5年、中学2年（小学6年、中学3年は意識調査なし）
- ◇英語－中学2年（中学1年、中学3年は意識調査なし）

- 「各教科の授業の内容はよく分かる」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は概ね7割から9割である。 [グラフ 6、7、8、9、10]

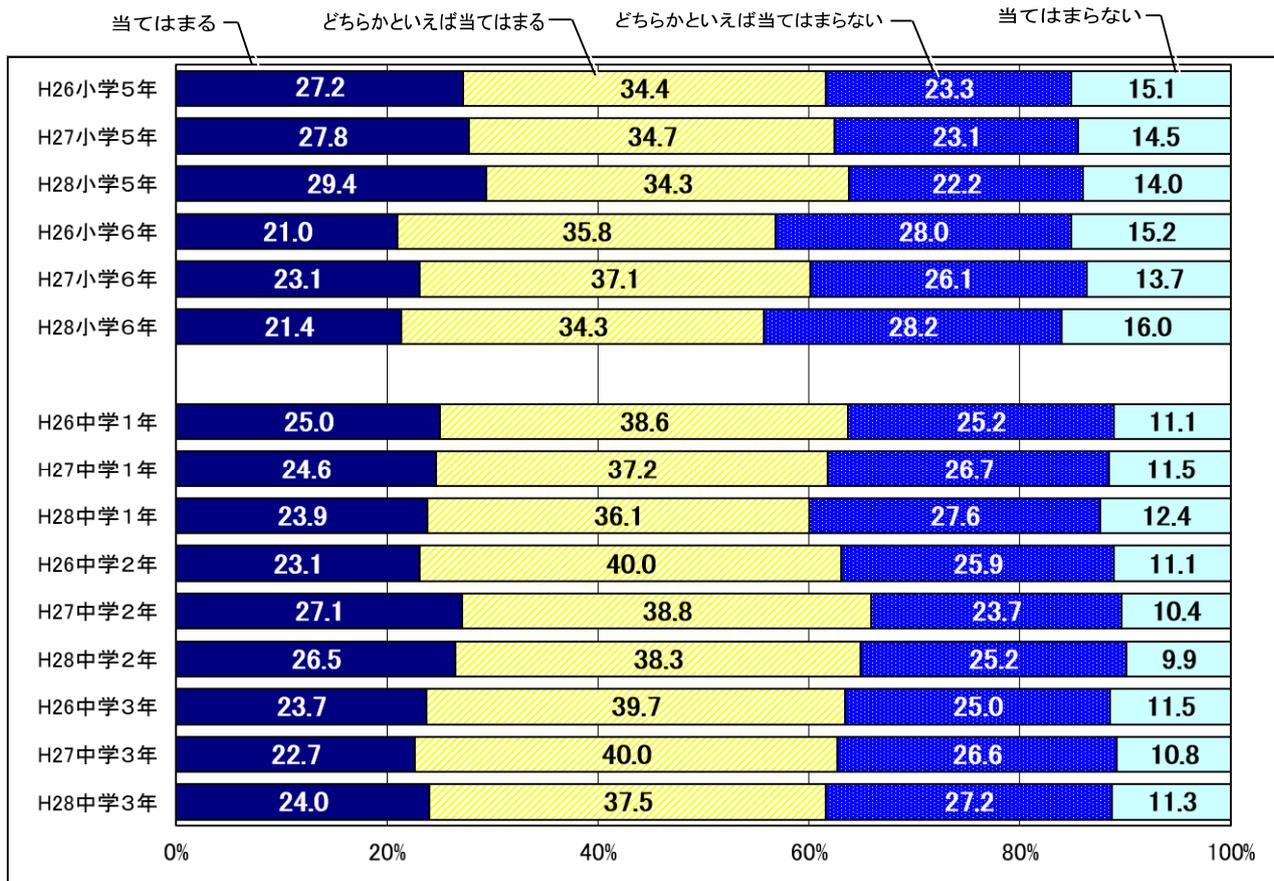
- 「各教科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合（同一学年）を見ると、次の教科、学年において、前年度を上回っている。 [グラフ 11、12、13、14、15]

- ◇国語－小学5年、小学6年、中学1年、中学2年
- ◇社会－小学5年、中学2年（小学6年、中学3年は意識調査なし）
- ◇算数(数学)－小学5年、小学6年
- ◇理科－中学2年（小学6年、中学3年は意識調査なし）

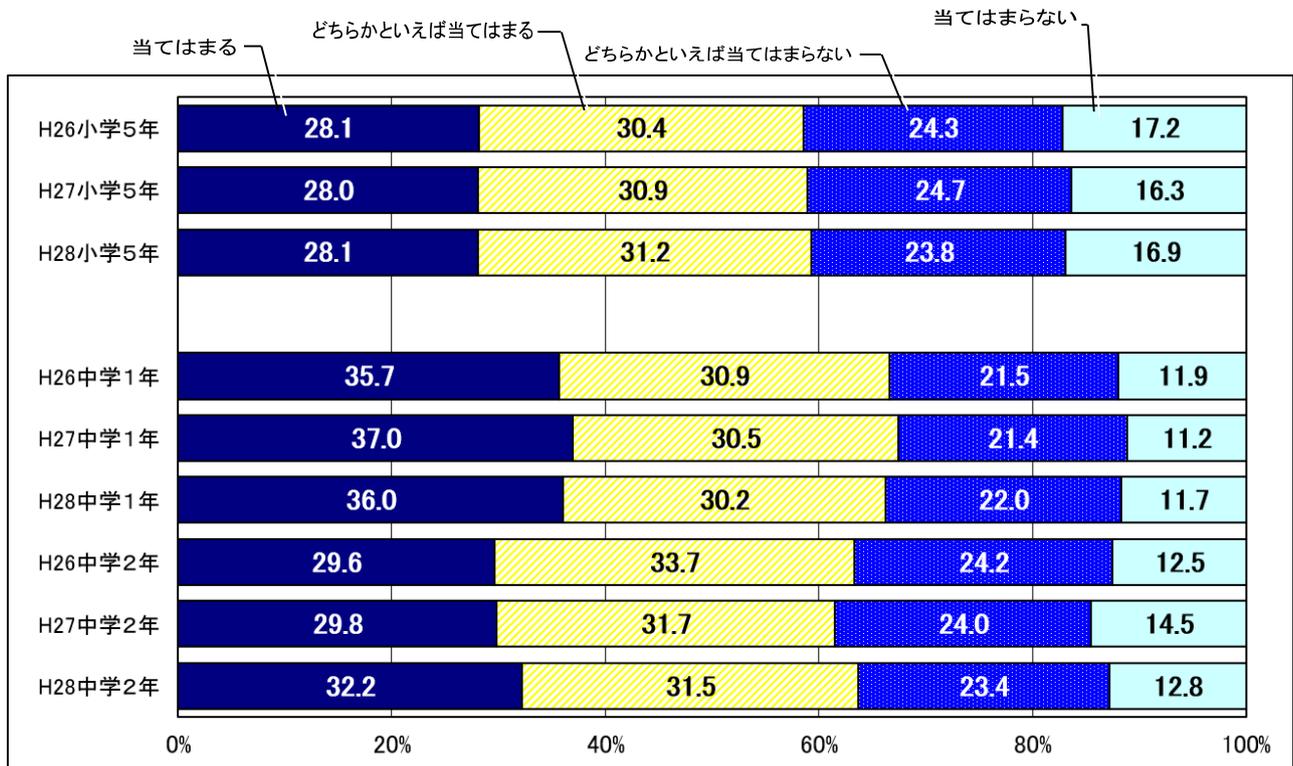
- 「各教科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は概ね7割から9割である。中学校2年理科は、概ね6割であるが、平成26年度から年々増加している。

[グラフ 11、12、13、14、15]

[グラフ1] 国語の勉強は好きだ 平成26～28年度「同一学年」の経年比較

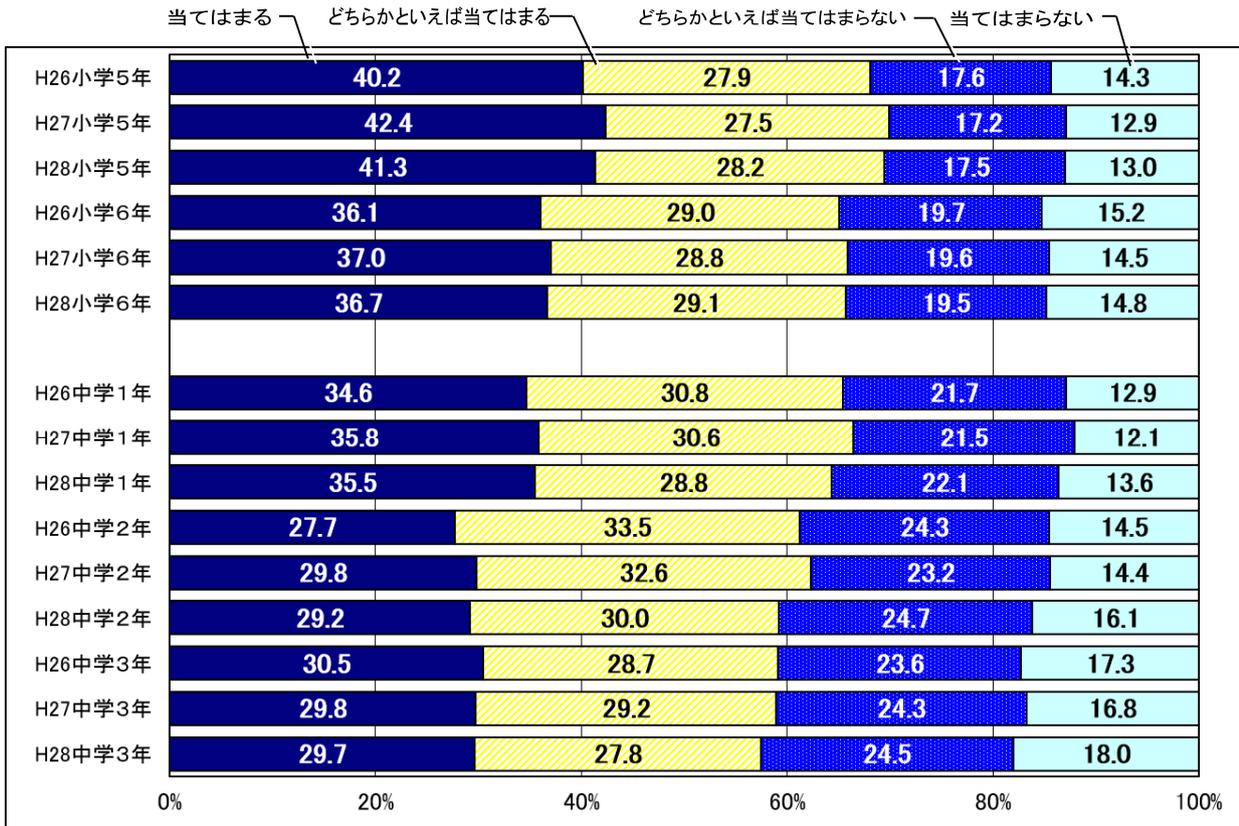


[グラフ2] 社会の勉強は好きだ 平成26～28年度「同一学年」の経年比較

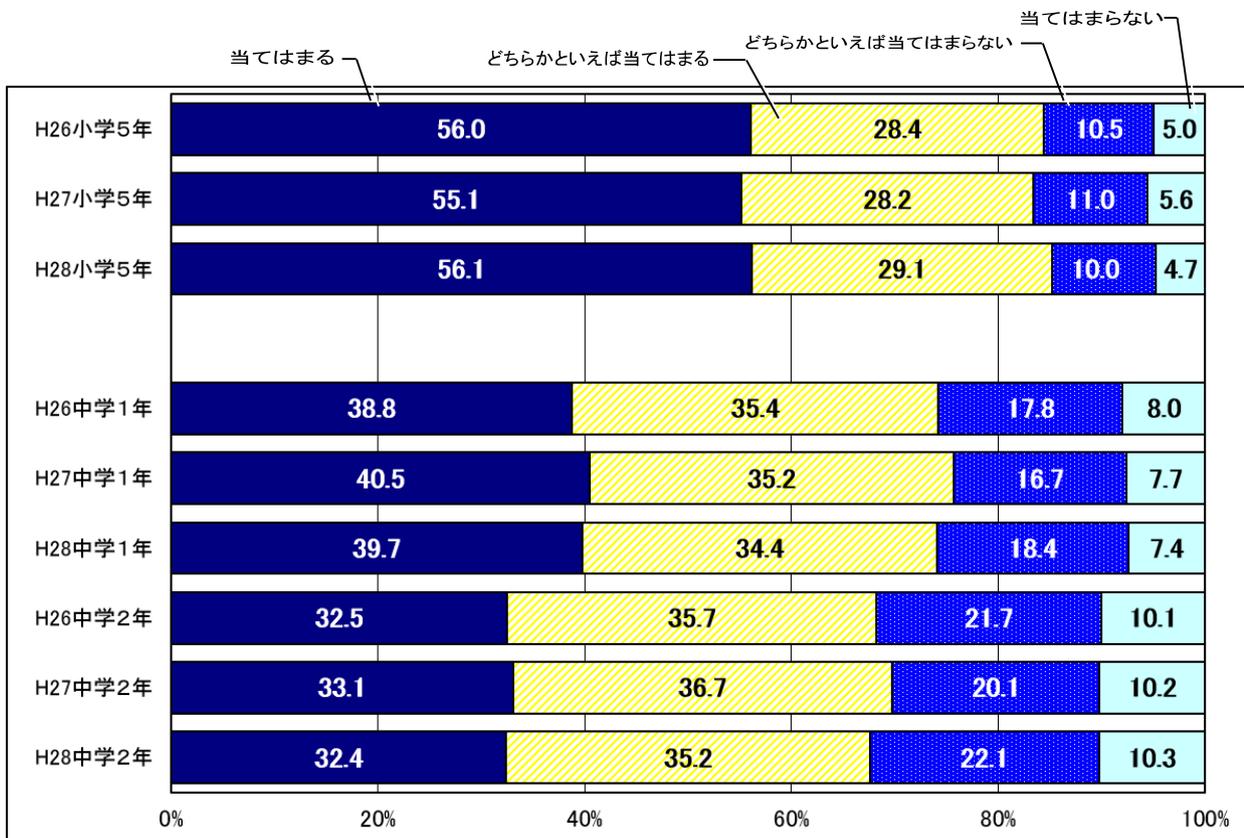


※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

[グラフ3] 算数(数学)の勉強は好きだ 平成 26~28 年度「同一学年」の経年比較

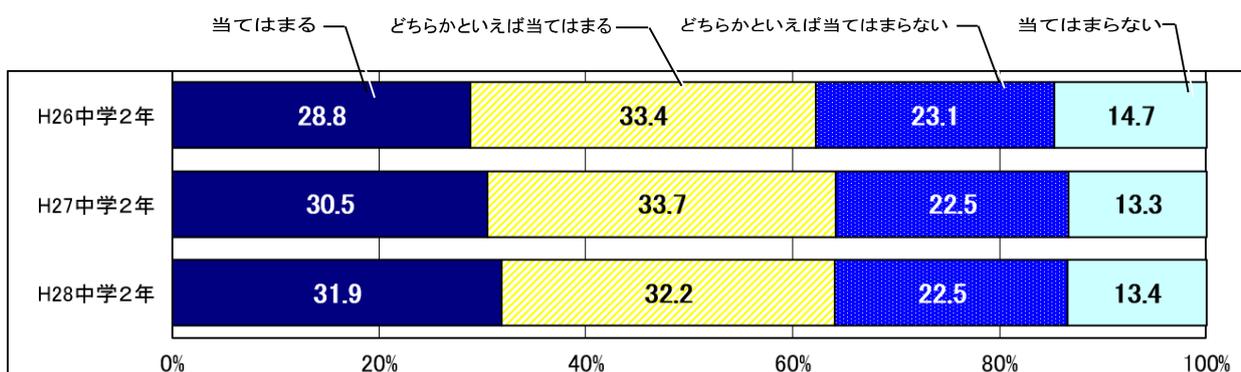


[グラフ4] 理科の勉強は好きだ 平成 26~28 年度「同一学年」の経年比較



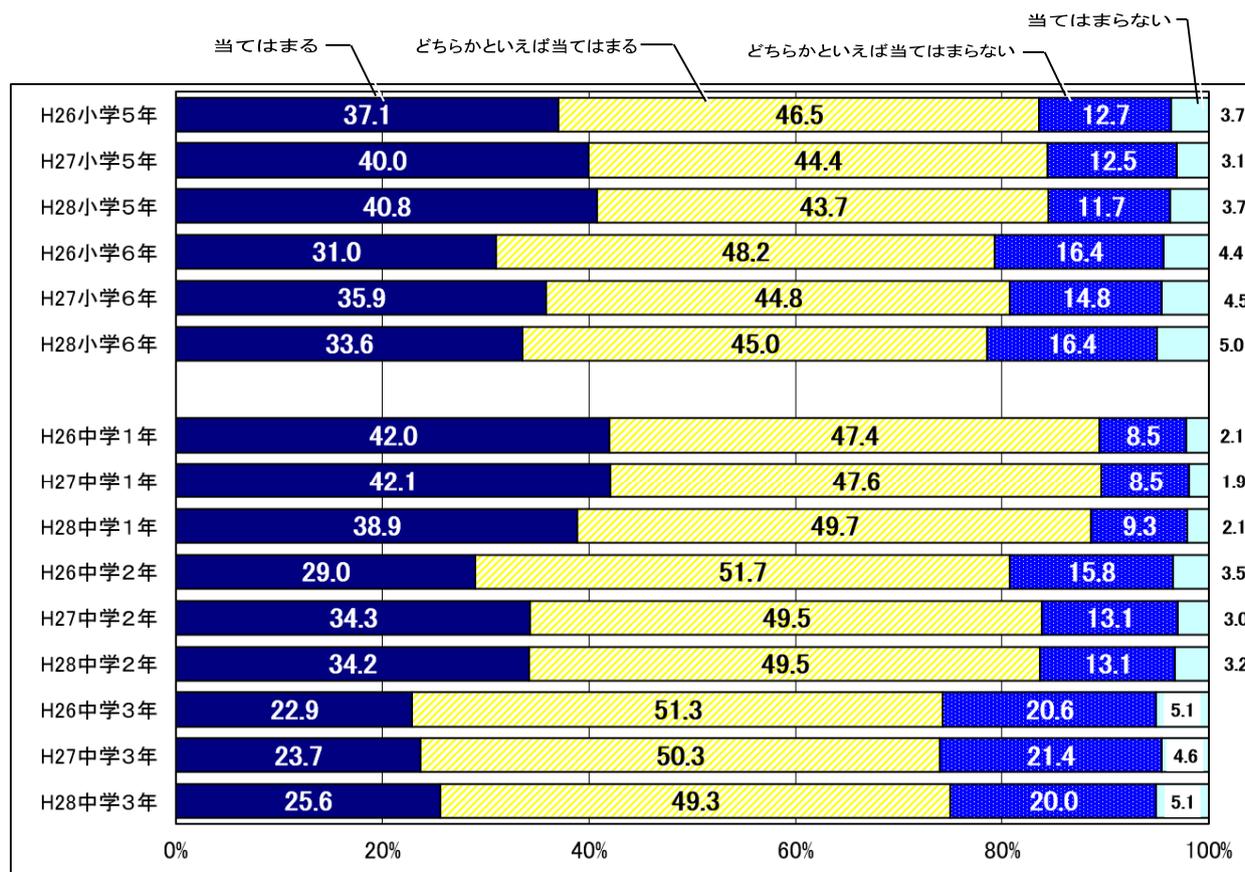
※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

[グラフ5] 英語の勉強は好きだ(中学2年) 平成 26～28 年度 「同一学年」の経年比較

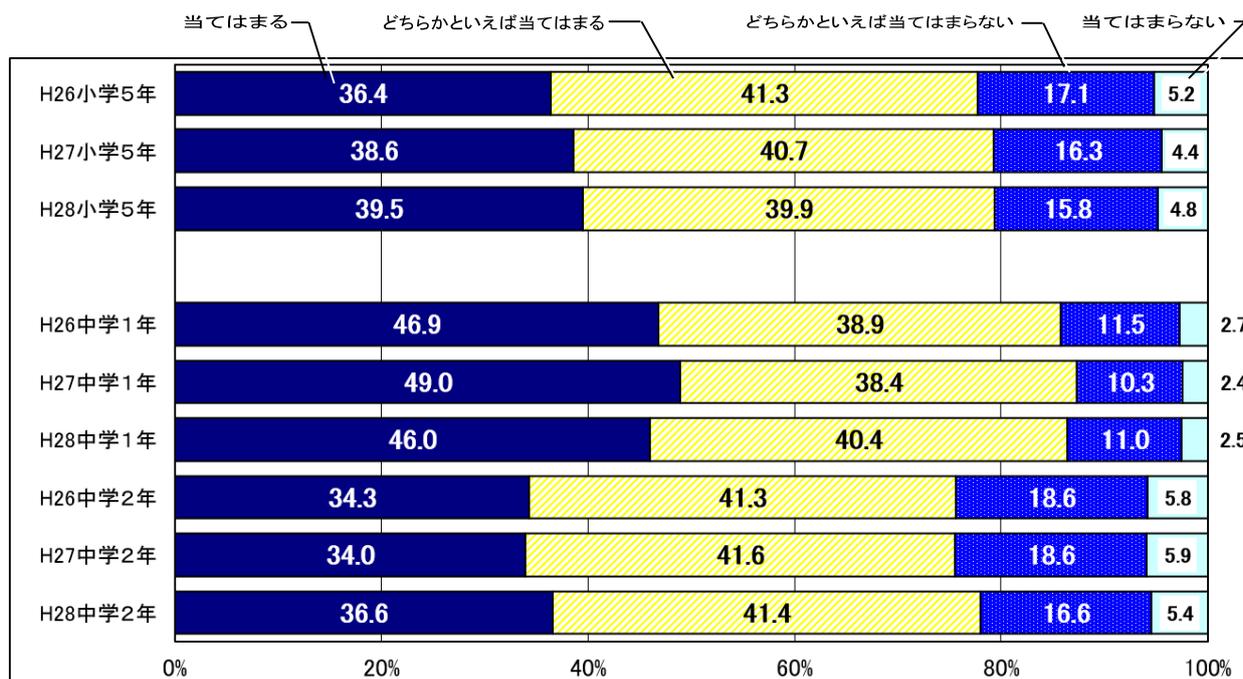


※ 中学1年は、前年度に英語を履修していないため、本質問項目のデータはない。
 ※ 中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

[グラフ6] 国語の授業の内容はよく分かる 平成 26～28 年度 「同一学年」の経年比較

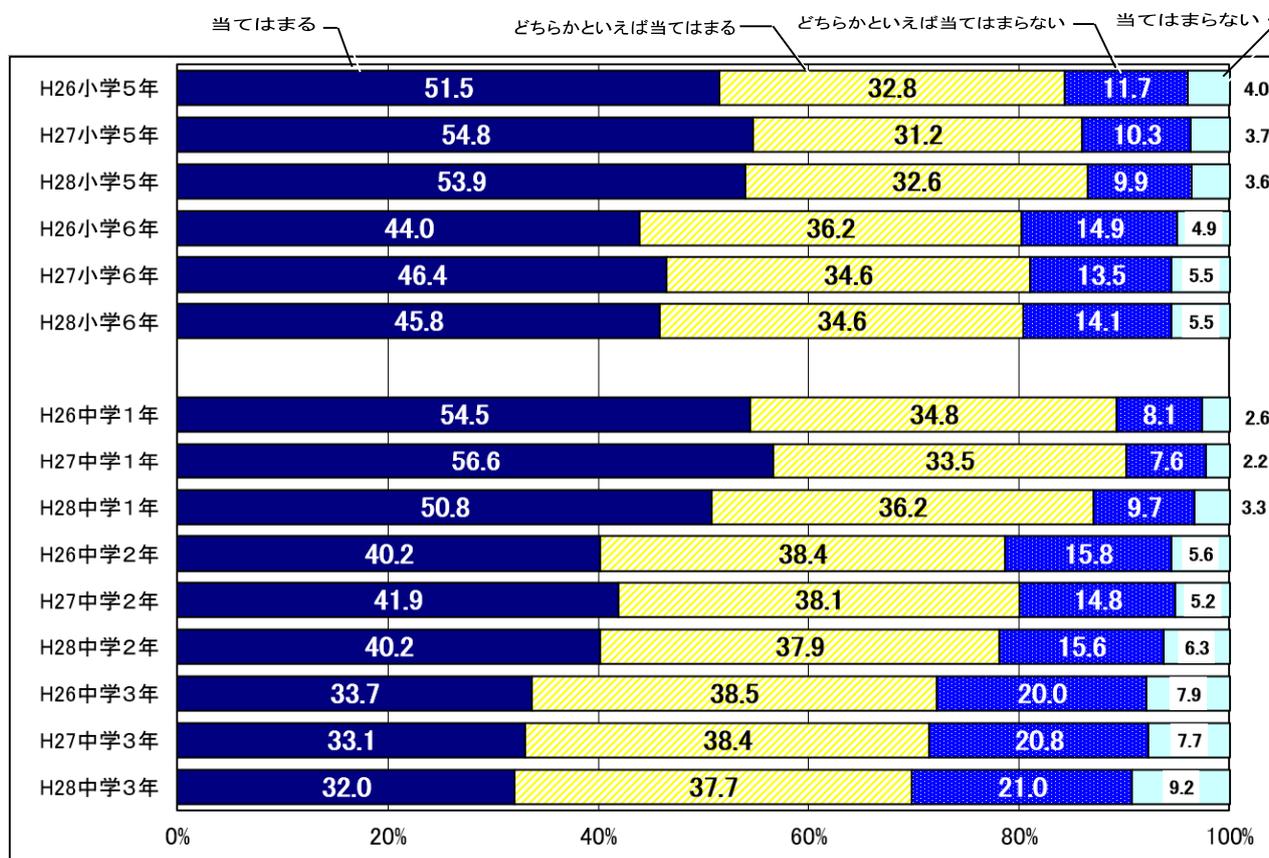


[グラフ7] 社会の授業の内容はよく分かる 平成26～28年度「同一学年」の経年比較

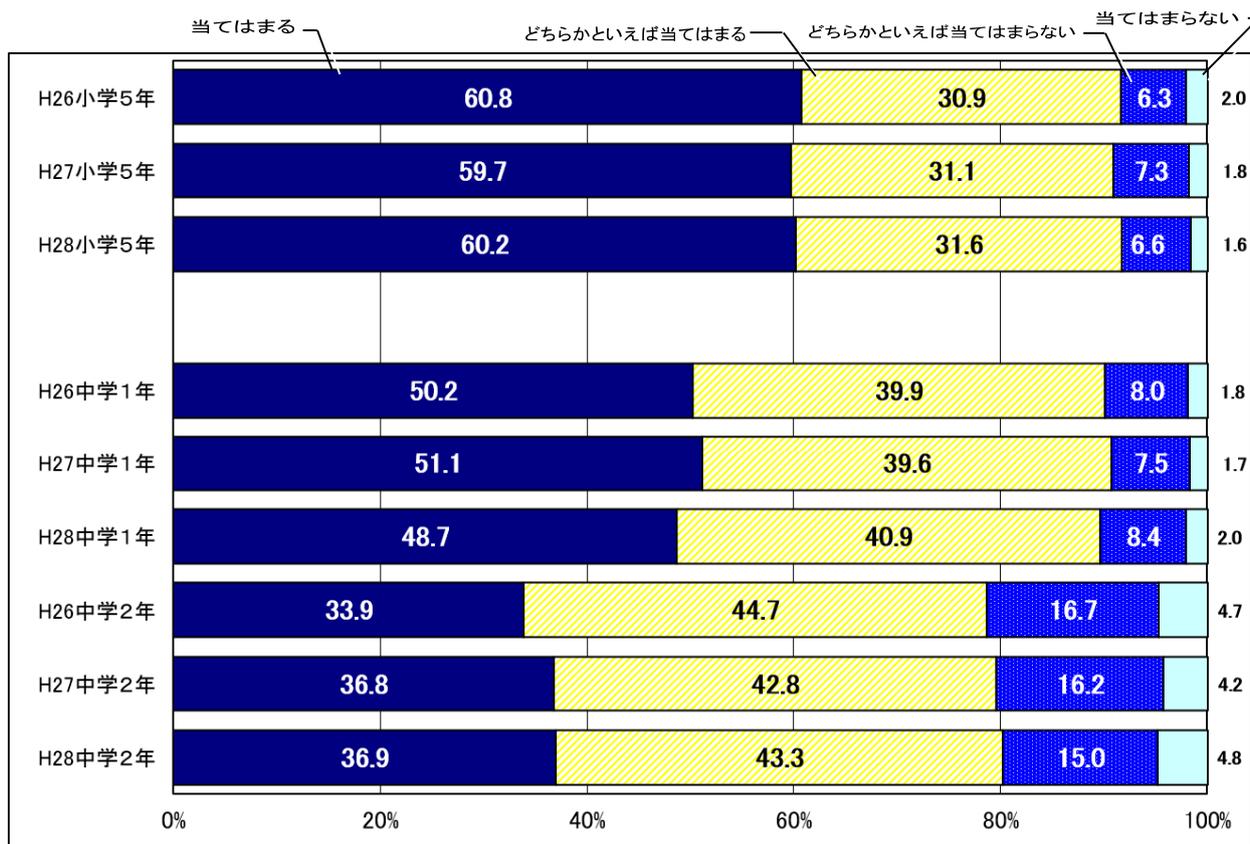


※小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

[グラフ8] 算数(数学)の授業の内容はよく分かる 平成26～28年度「同一学年」の経年比較

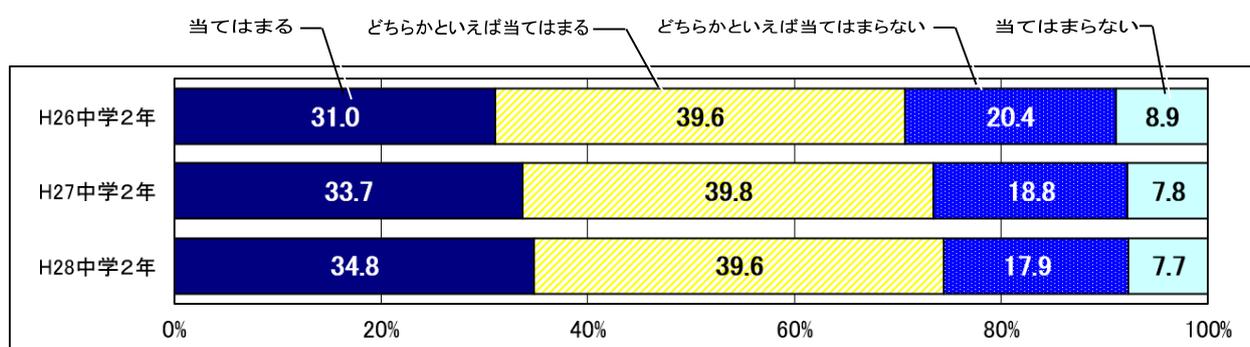


[グラフ 9] 理科の授業の内容はよく分かる 平成 26～28 年度「同一学年」の経年比較



※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

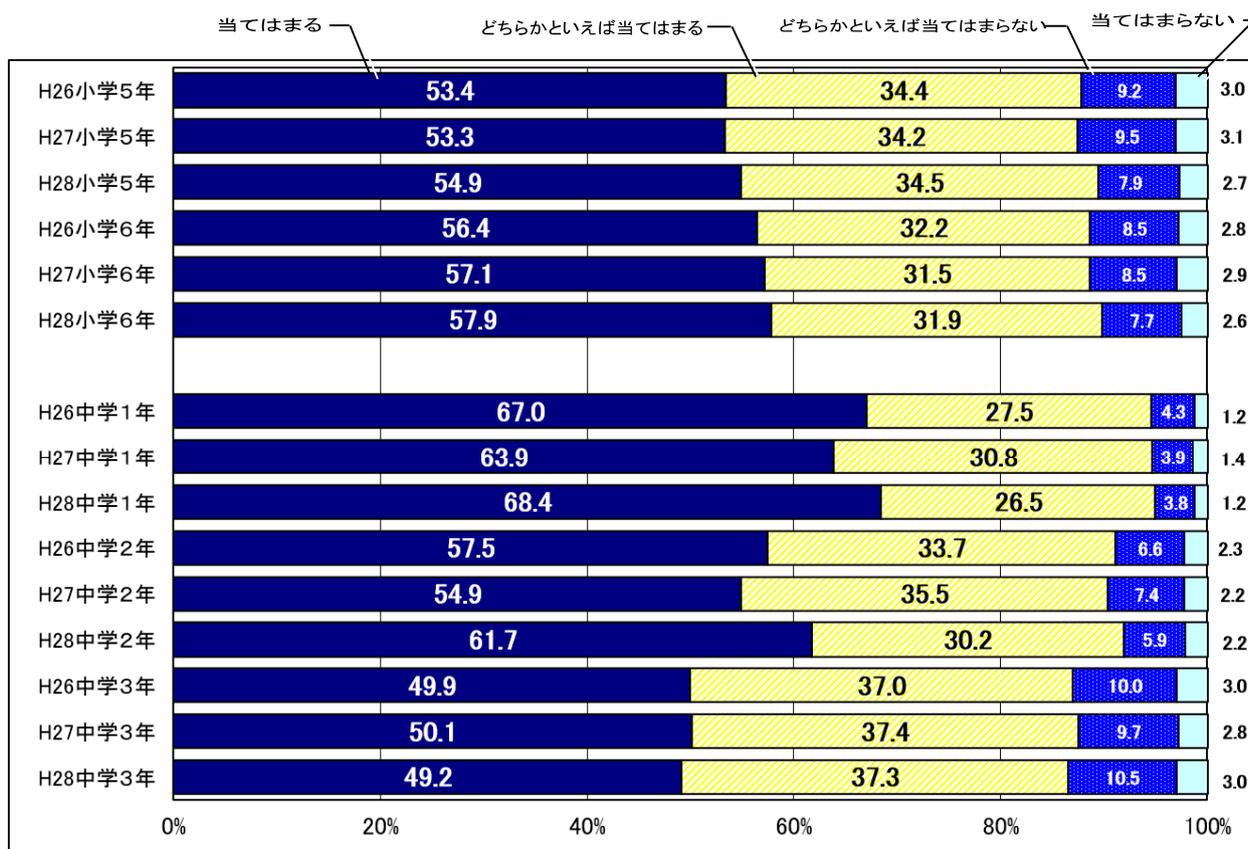
[グラフ 10] 英語の勉強はよく分かる(中学2年) 平成 26～28 年度「同一学年」の経年比較



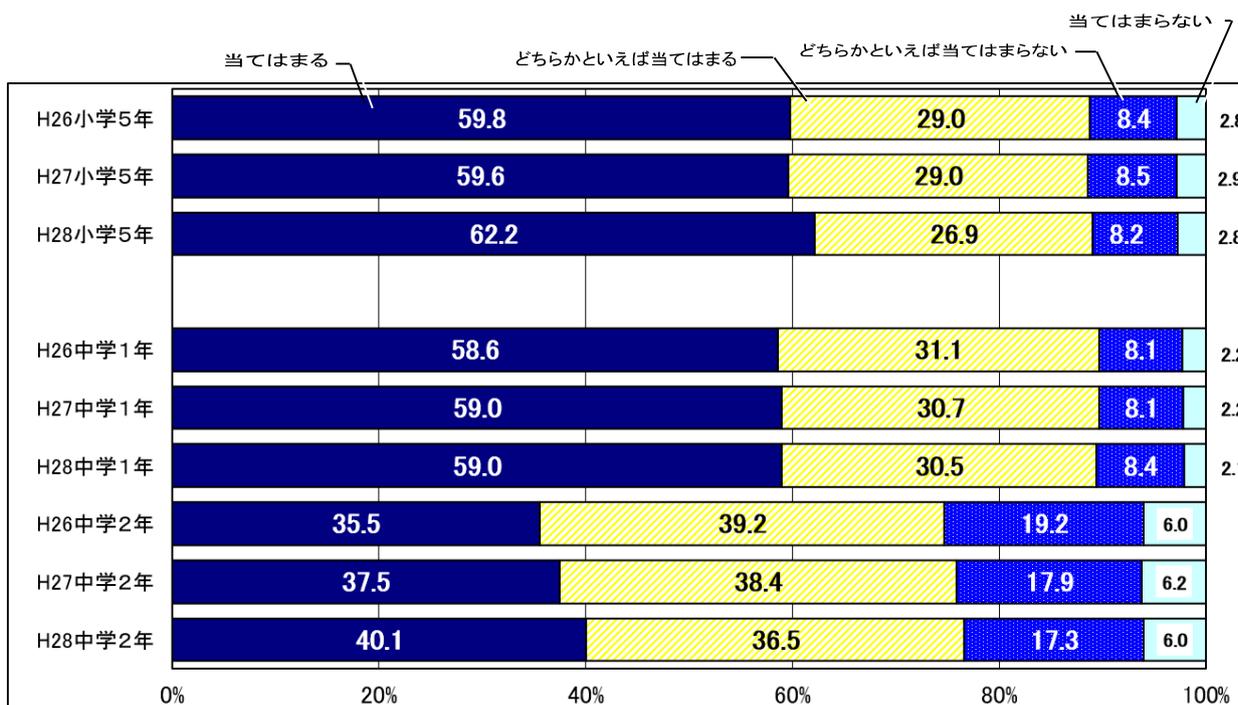
※ 中学1年は、前年度に英語を履修していないため、本質問項目のデータはない。

※ 中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

[グラフ 11] 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 26～28 年度「同一学年」の経年比較

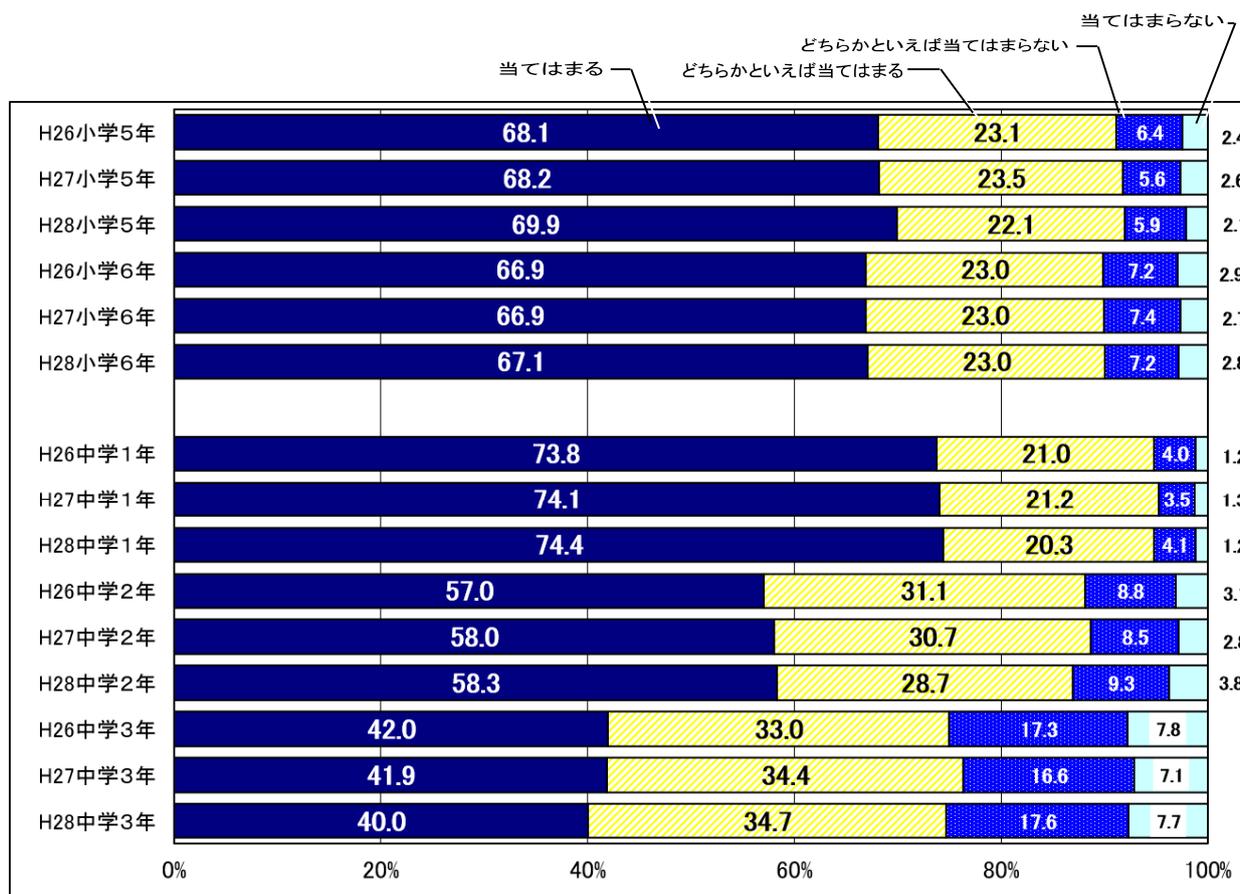


[グラフ 12] 社会の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 26～28 年度「同一学年」の経年比較

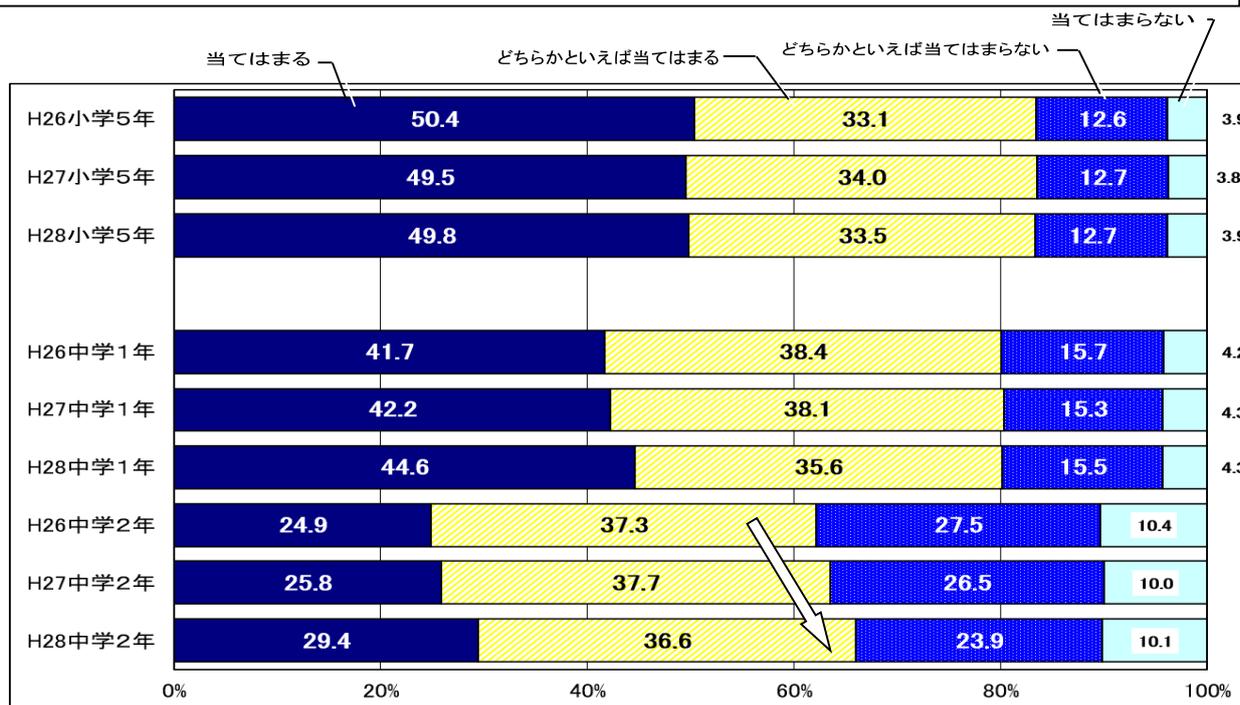


※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

[グラフ 13] 算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 26～28 年度「同一学年」の経年比較

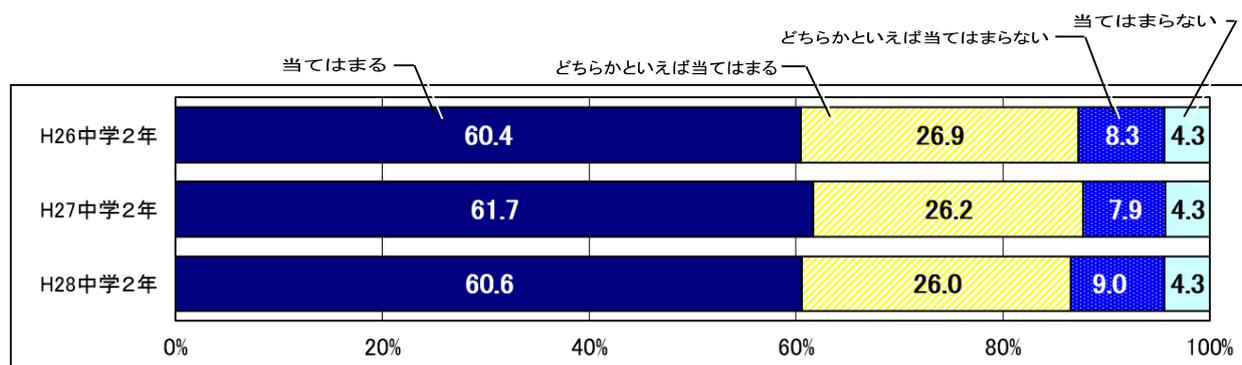


[グラフ 14] 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 26～28 年度「同一学年」の経年比較



※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

[グラフ 15] 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 26～28 年度「同一学年」の経年比較



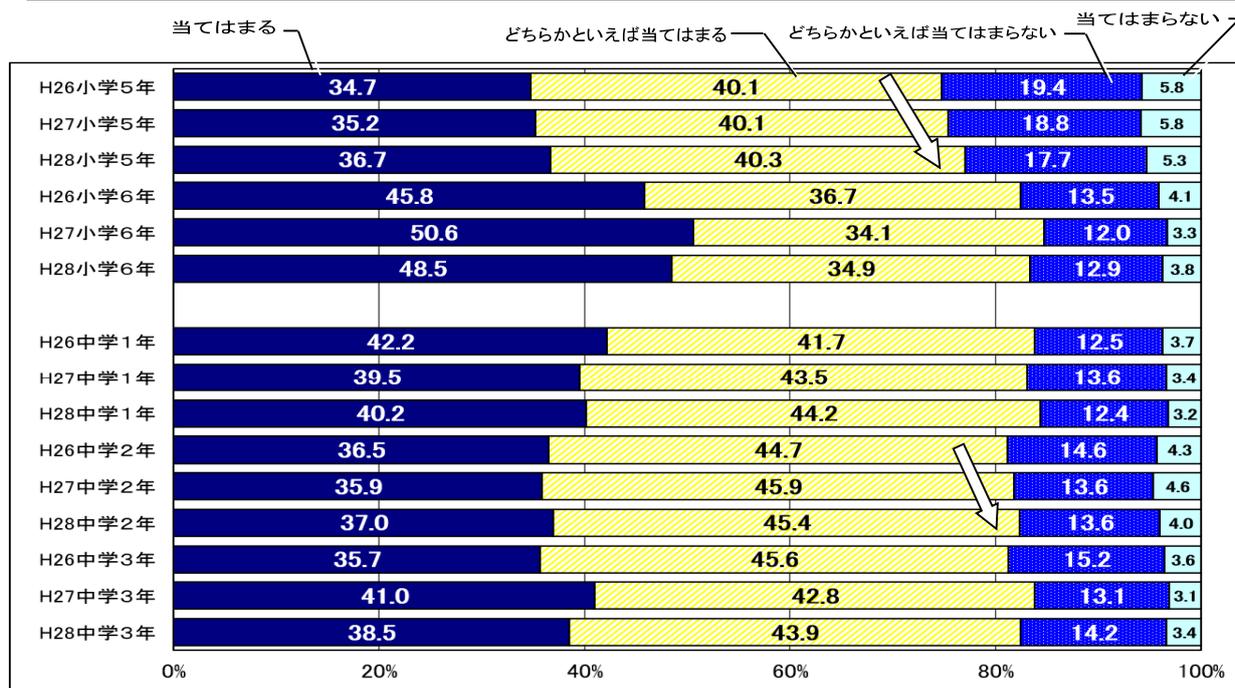
- ※ 中学1年は、前年度に英語を履修していないため、本質問項目のデータはない。
- ※ 中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

(2) 学校での学習について

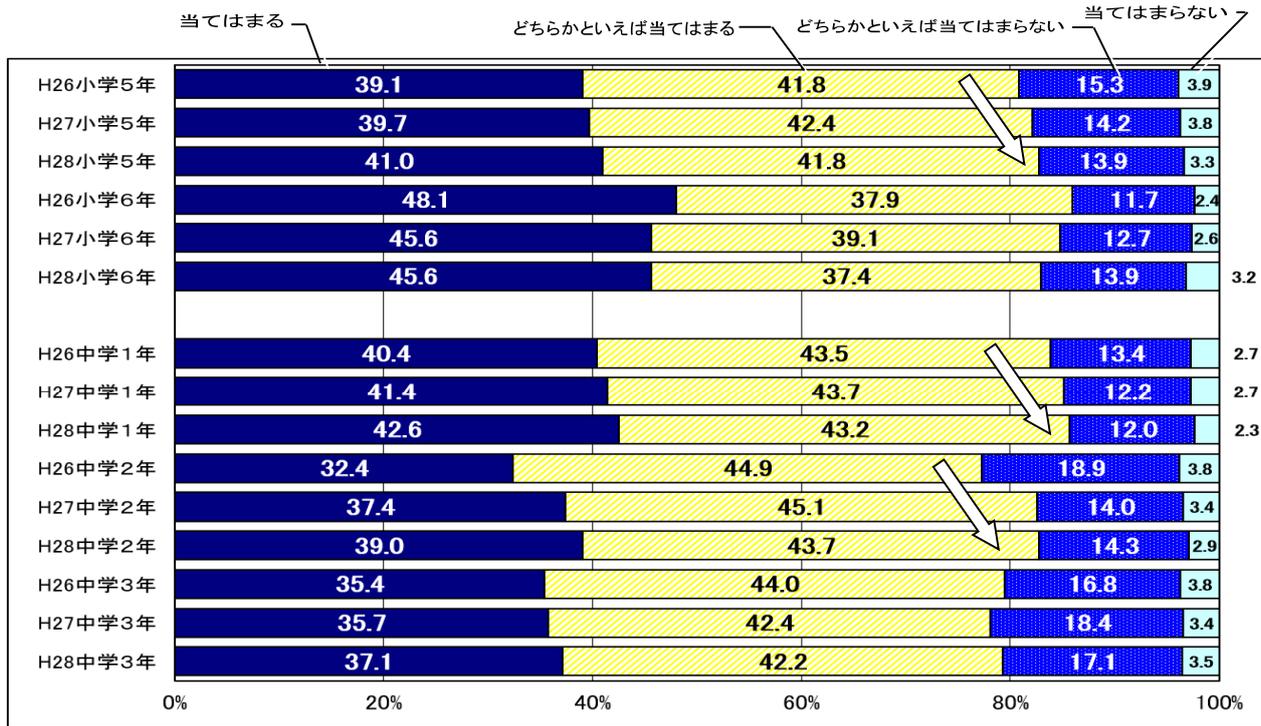
- 「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学5年、中学2年で増加している。中学1年では、前年度を上回っている。「授業では、学級の友達（生徒）の間に話し合う活動をよく行っていると思う」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学5年、中学1年、中学2年で増加している。中学3年では、前年度を上回っている。いずれの問いについても、肯定的な回答をした児童生徒の正答率はそうでない児童生徒と比較して高い。
[グラフ 16-1、16-2、17-1、17-3]
- 「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、全ての学年で減少している。否定的な（難しくないと）回答をした児童生徒の正答率はそうでない児童生徒と比較して高い。[グラフ 18-1、18-3]
- 「授業で電子黒板や大型テレビなどが使われるようになって、今までより授業の内容が分かりやすくなった」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、調査対象の全ての学年で増加している。また、「そうした授業を受けたことがない」と回答した児童生徒は1%弱まで減少している。[グラフ 19-1]
- 「授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていると思う」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、概ね8割～9割である。小学校では、肯定的な回答をした児童生徒の正答率はそうでない児童生徒と比較して高い。[グラフ 20-1、20-2]

[グラフ 16-1] 授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う。

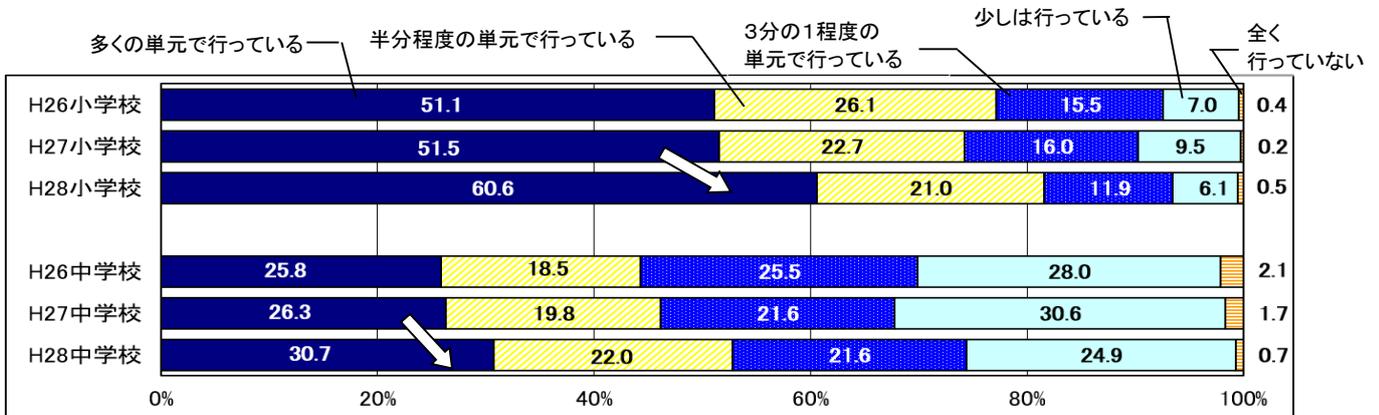
平成 26～28 年度「同一学年」の経年比較



[グラフ 17-1] 授業では、学級の友達(生徒)の間で話し合う活動をよく行っていると思う。
平成 26～28 年度「同一学年」の経年比較

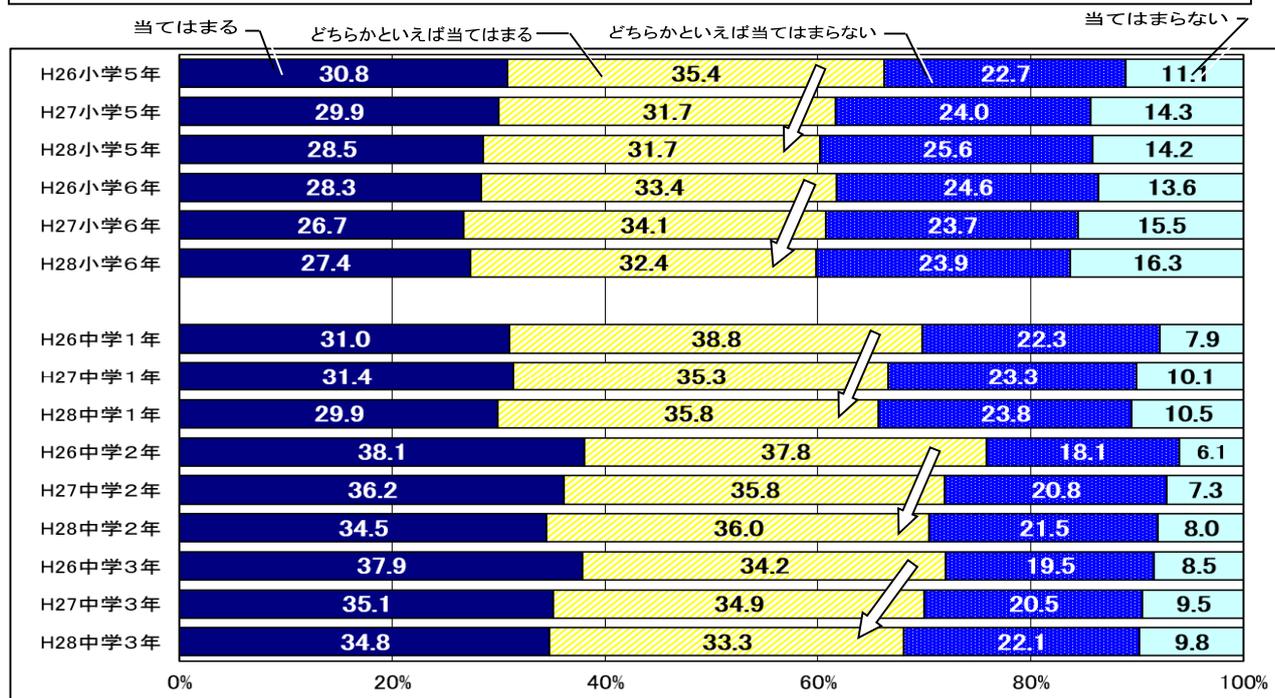


[グラフ 17-2] 発表や話し合い活動など表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業を行っていますか。※教師意識調査より 平成 26～28 年度の経年比較

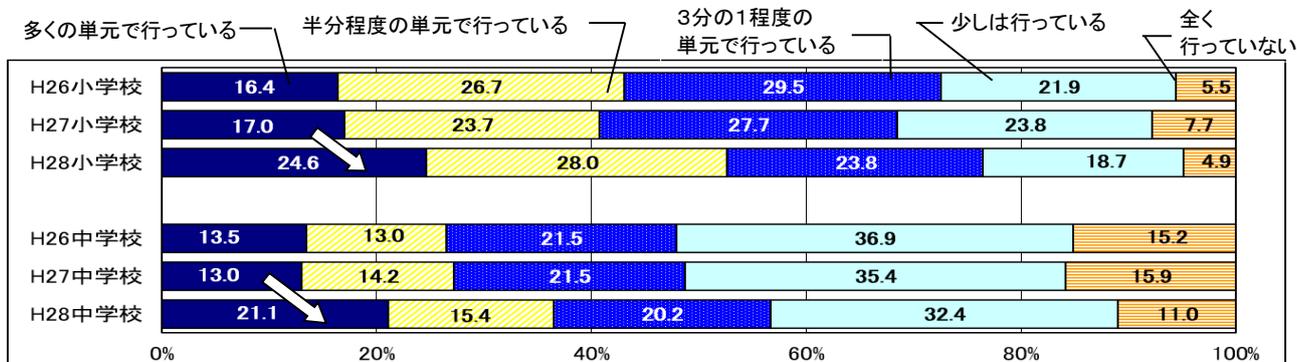


・参考として、教師意識調査において、発表や話し合い活動など表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業を「多くの単元で行っている」と回答した教師の割合は、小学校、中学校ともに前年度を上回っている。[グラフ 17-2]

[グラフ 18-1] 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい。平成 26～28 年度「同一学年」の経年比較



[グラフ 18-2] レポートや作文など、書いて表現する活動を取り入れた授業を行っていますか。 ※教師意識調査より 平成 26～28 年度の経年比較



・参考として、教師意識調査において、レポートや作文など、書いて表現する活動を取り入れた授業を「多くの単元で行っている」と回答した教師の割合は小学校、中学校ともに前年度を上回っている。[グラフ 18-2]

[グラフ 16-2]

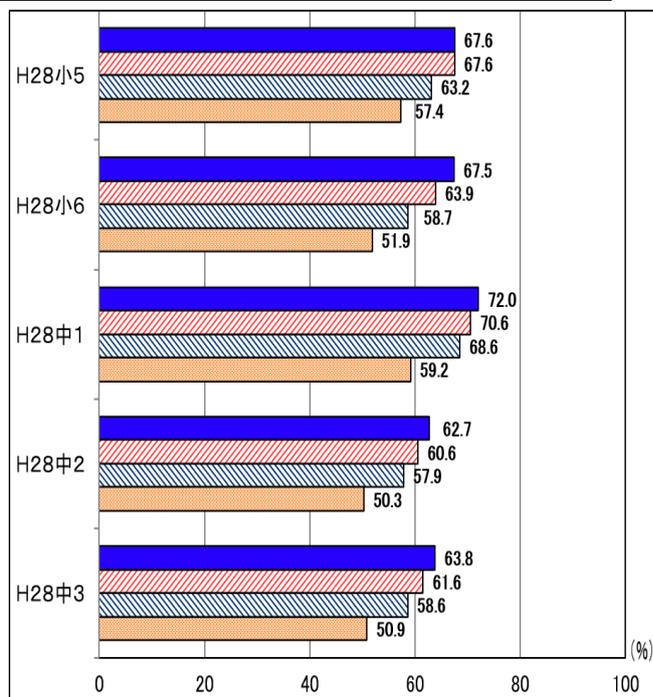
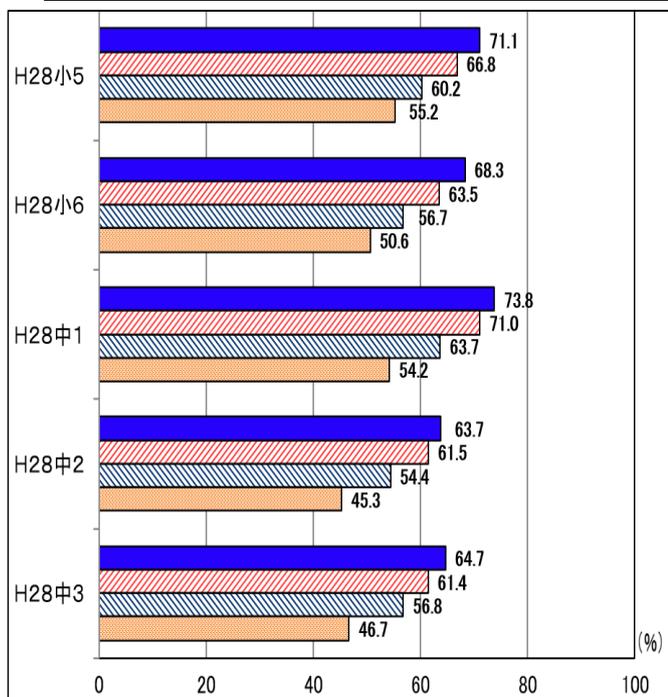
「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

[グラフ 17-3]

「授業では、学級の友達(生徒)の間に話し合う活動をよく行っていると思う」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

※児童生徒の回答は、上から

「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」の順



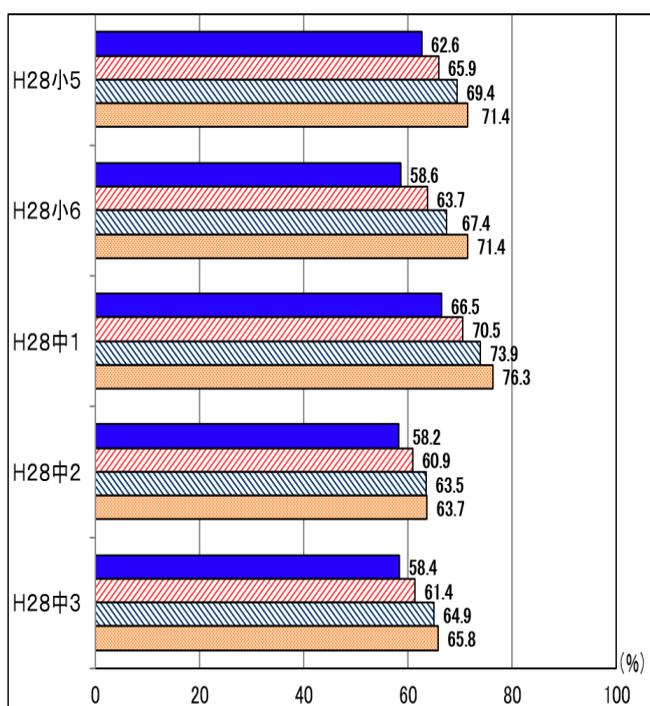
[グラフ 18-3]

「学校の授業などで、自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

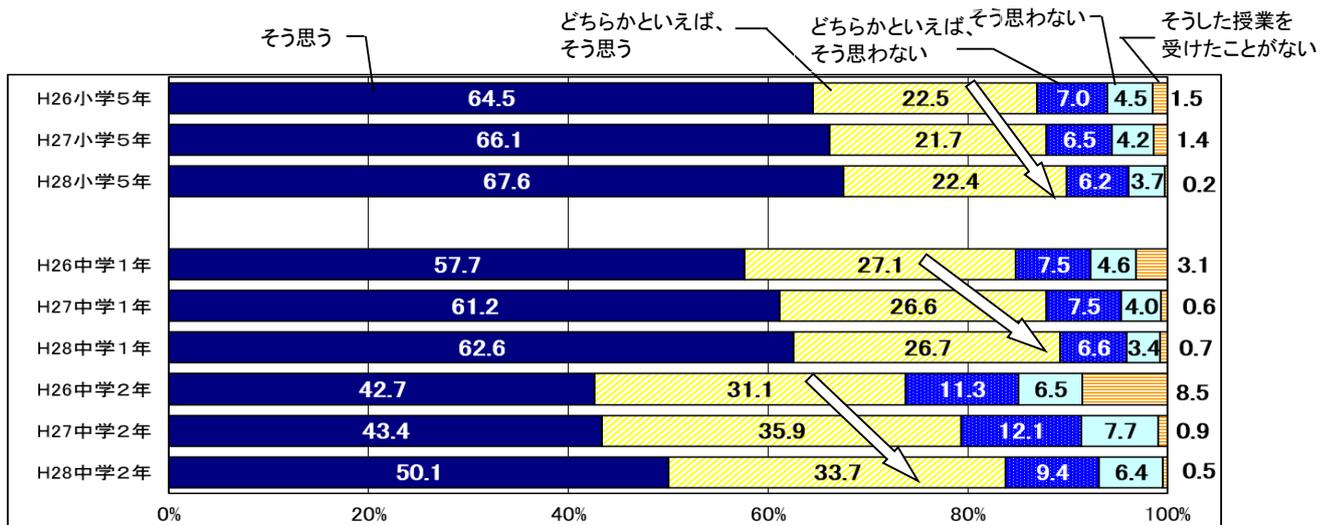
・「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う」と回答をした児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して高い。[グラフ 16-2]

・「授業では、話し合う活動をよく行っていると思う」という問いについても、同様の傾向がみられる。[グラフ 17-3]

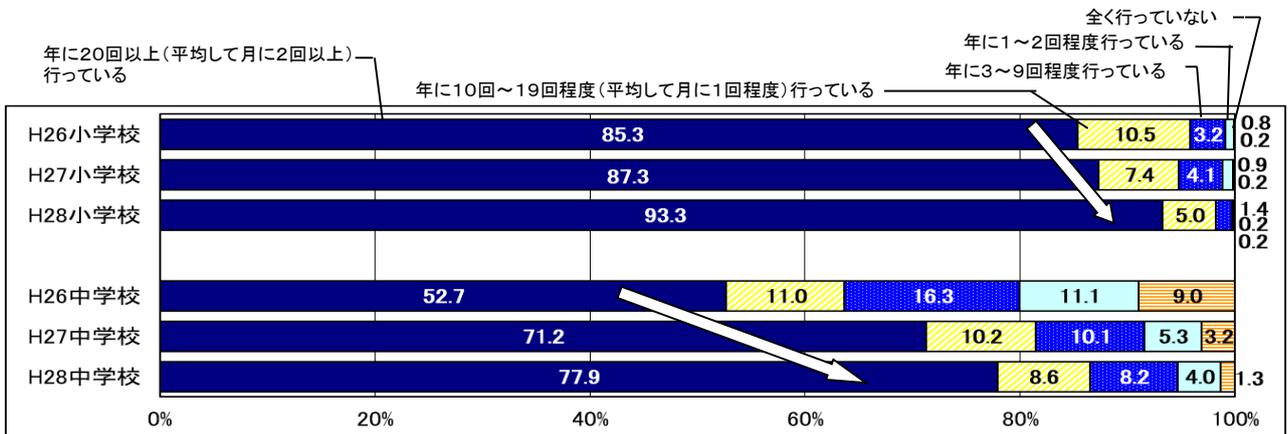
・「学校の授業などで、自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」と回答した児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して低い。[グラフ 18-3]



[グラフ 19-1] 授業で電子黒板や大型テレビなどが使われるようになって、今までより授業の内容が分かりやすくなった。平成 26～28 年度「同一学年」の経年比較

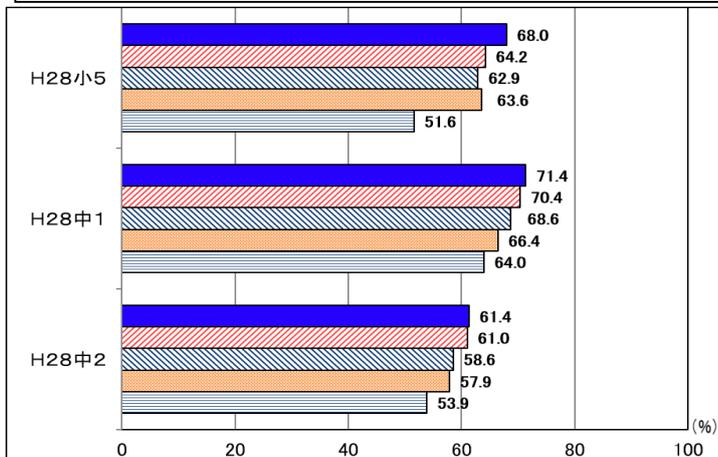


[グラフ 19-2] ICT 機器を活用した授業を行っていますか。
※教師意識調査より 平成 26～28 年度の経年比較



※本調査における ICT 機器とは、コンピュータ、プロジェクター、電子黒板、実物投影機、書画カメラ、学習用 PC、デジタルビデオカメラなどを指す。

[グラフ 19-3] 「授業で電子黒板や大型テレビなどが使われるようになって、今までより授業の内容が分かりやすくなった」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



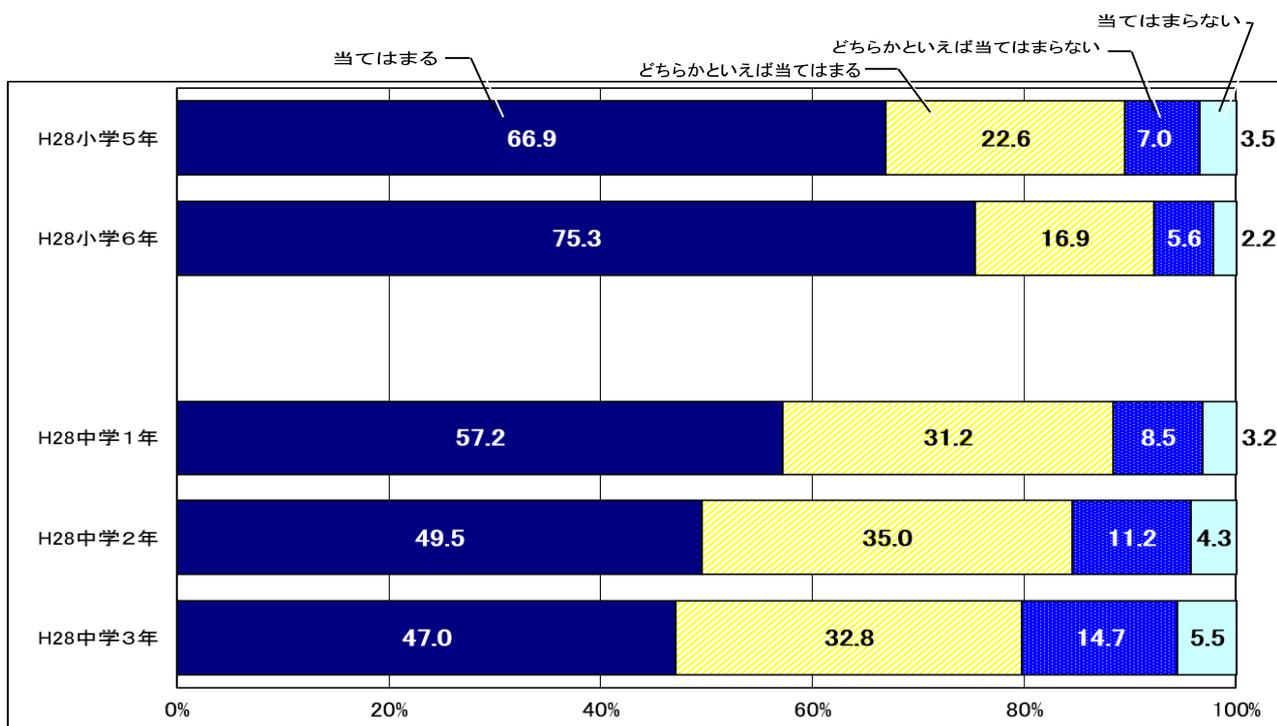
※児童生徒の回答は、上から「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」「そういう授業を受けたことがない」の順

・参考として、教師意識調査において、「年に20回以上行っている」と回答した教師の割合は、小学校、中学校ともに増加しており、小学校は約9割、中学校は約8割となっている。

[グラフ 19-2]

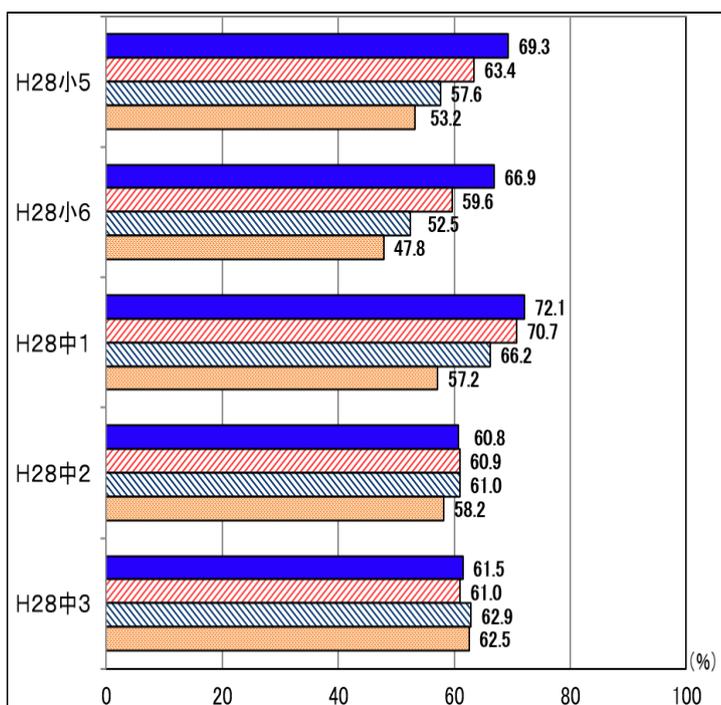
・「授業で、電子黒板などが使われるようになって分かりやすくなった」と回答した児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して高い傾向にある。[グラフ 19-3]

[グラフ 20-1] 授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていると思う。



※ 平成 28 年度調査において、新設した質問項目であるため、経年のデータはない。

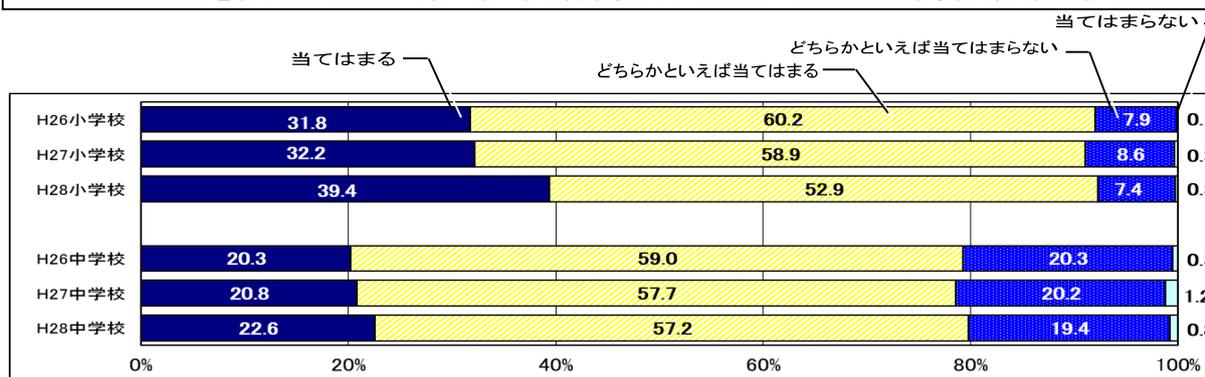
[グラフ 20-2] 「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていると思う。」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



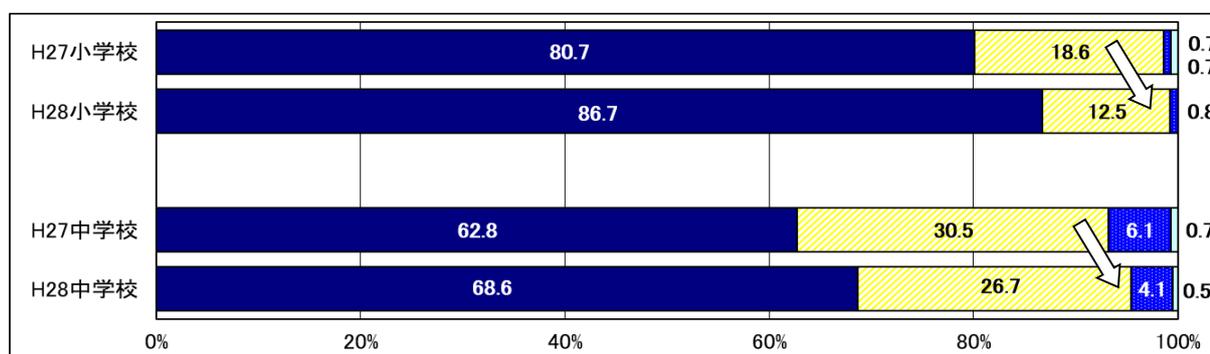
※児童生徒の回答は、
上から「当てはまる」
「どちらかといえば、当てはまる」
「どちらかといえば、当てはまる」
「当てはまらない」の順

- ・小学校では、約9割、中学校では、約8～9割の児童生徒が肯定的な回答をしている。[グラフ 20-1]
- ・小学校と中学1年では、「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていると思う」と回答した児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して高い。
[グラフ 20-2]

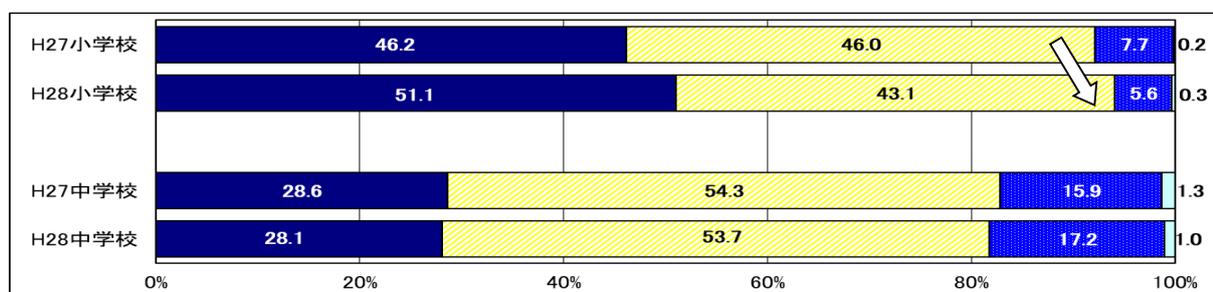
[グラフ 20-3] ノートのまとめ方や話し合いの進め方など、学習方法についてきめ細やかに指導を行っていますか。※教師意識調査より 平成 26～28 年度の経年比較



[グラフ 20-4] 授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れていますか。※教師意識調査より 平成 27～28 年度の経年比較



[グラフ 20-5] 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていますか。※教師意識調査より 平成 27～28 年度の経年比較

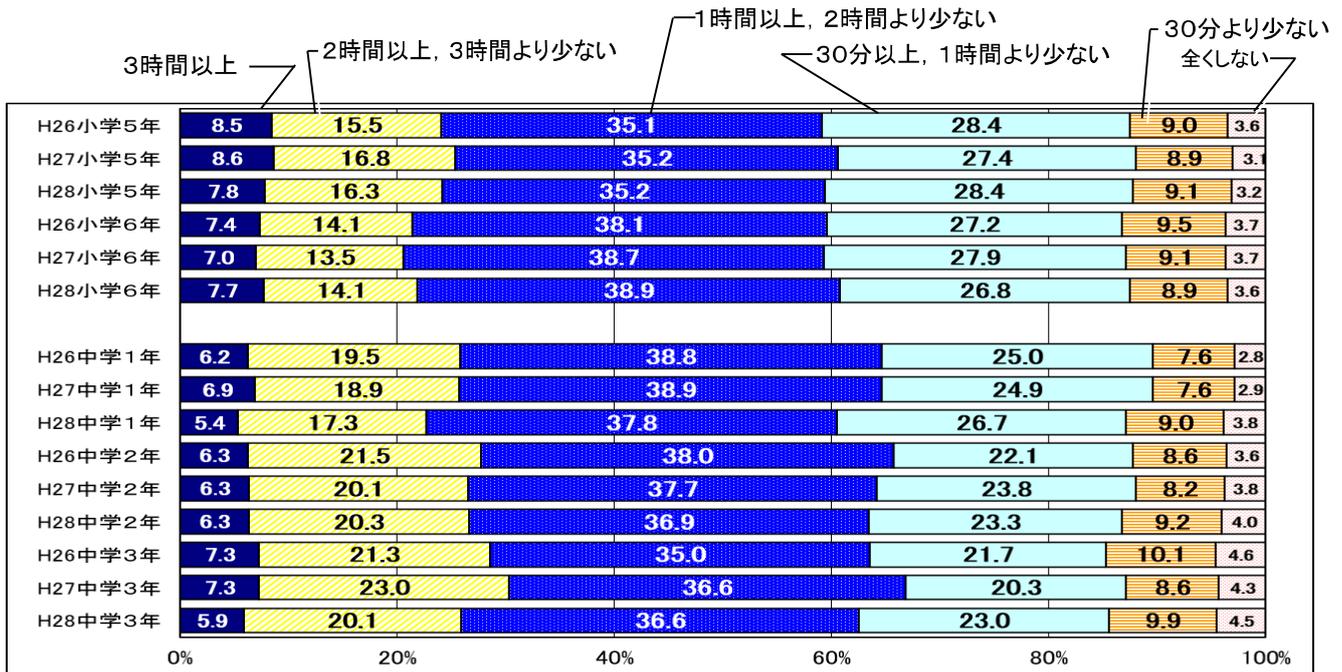


- 参考として、教師意識調査において、「ノートのまとめ方や話し合いの進め方など、学習方法についてきめ細やかに指導を行っていますか」という問いに対して、肯定的な回答をした教師の割合は小学校、中学校ともに前年度を上回っている。 [グラフ 20-3]
- 参考として、教師意識調査において、「授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れていますか」という問いに対して、肯定的な回答をした教師の割合は小学校、中学校ともに前年度を上回っている。 [グラフ 20-4]
- 参考として、教師意識調査において、「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていますか」という問いに対して、肯定的な回答をした教師の割合は小学校では前年度を上回っているが、中学校では前年度を下回っている。 [グラフ 20-5]

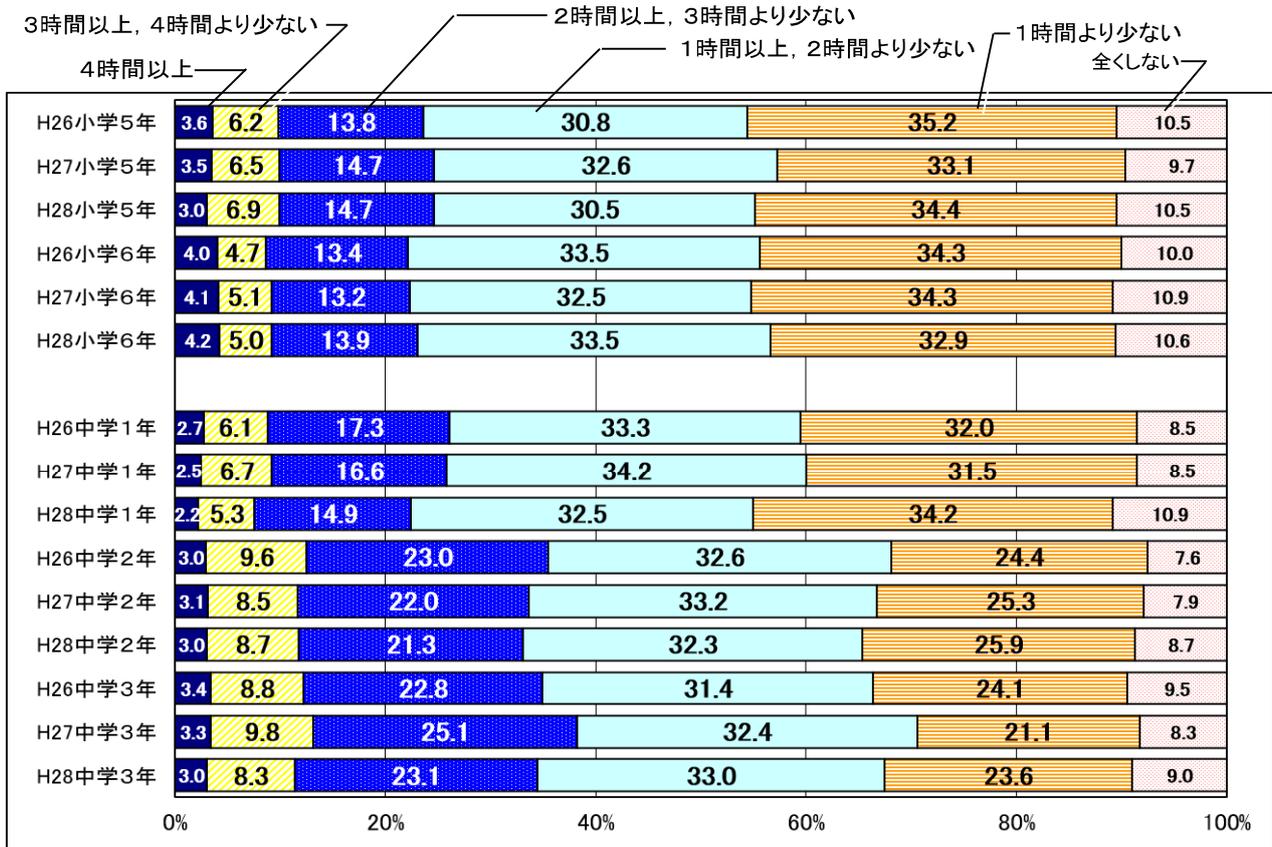
(3) 家庭での学習について

- 家庭での勉強時間において、平日に1時間以上、土・日や休みの日に2時間以上取り組んでいる児童生徒の割合は、小学6年で前年度を上回っているが、その他の学年では前年度を下回っている。[グラフ 21、22]
- 家庭学習の取組において、「自分で計画を立てて勉強している」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学5年、中学2年で増加している。[グラフ 23-1]
- 家庭学習の取組において、「学校の宿題をしている」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学5年、中学2年、中学3年で増加しており、全ての学年で9割を超えている。[グラフ 24-1]
- 教師意識調査において、「家庭での学習方法について、具体例を挙げながら指導している」という問いに対して肯定的な回答をした教師は、小学校、中学校とも前年度を上回っている。[グラフ 24-5]
- 家庭学習の取組において、「テストで分からなかった問題や間違えた問題についてやり直しをしている」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、調査対象の全ての学年において前年度を上回っている。[グラフ 25-1] (参考)
- 教科平均正答率との相関を見ると、「自分で計画を立てて勉強している」「テストで分からなかった問題や間違えた問題についてやり直しをしている」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して高い。[グラフ 23-2、25-2]

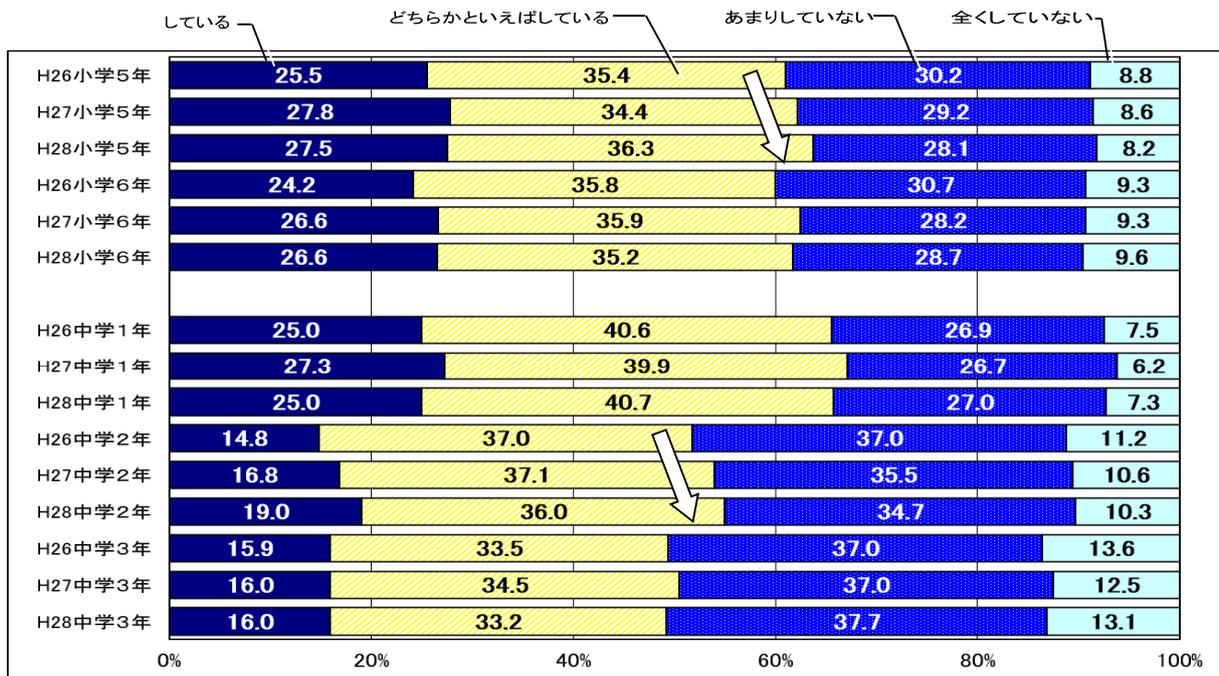
[グラフ 21] 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む) 平成 26~28 年度「同一学年」の経年比較



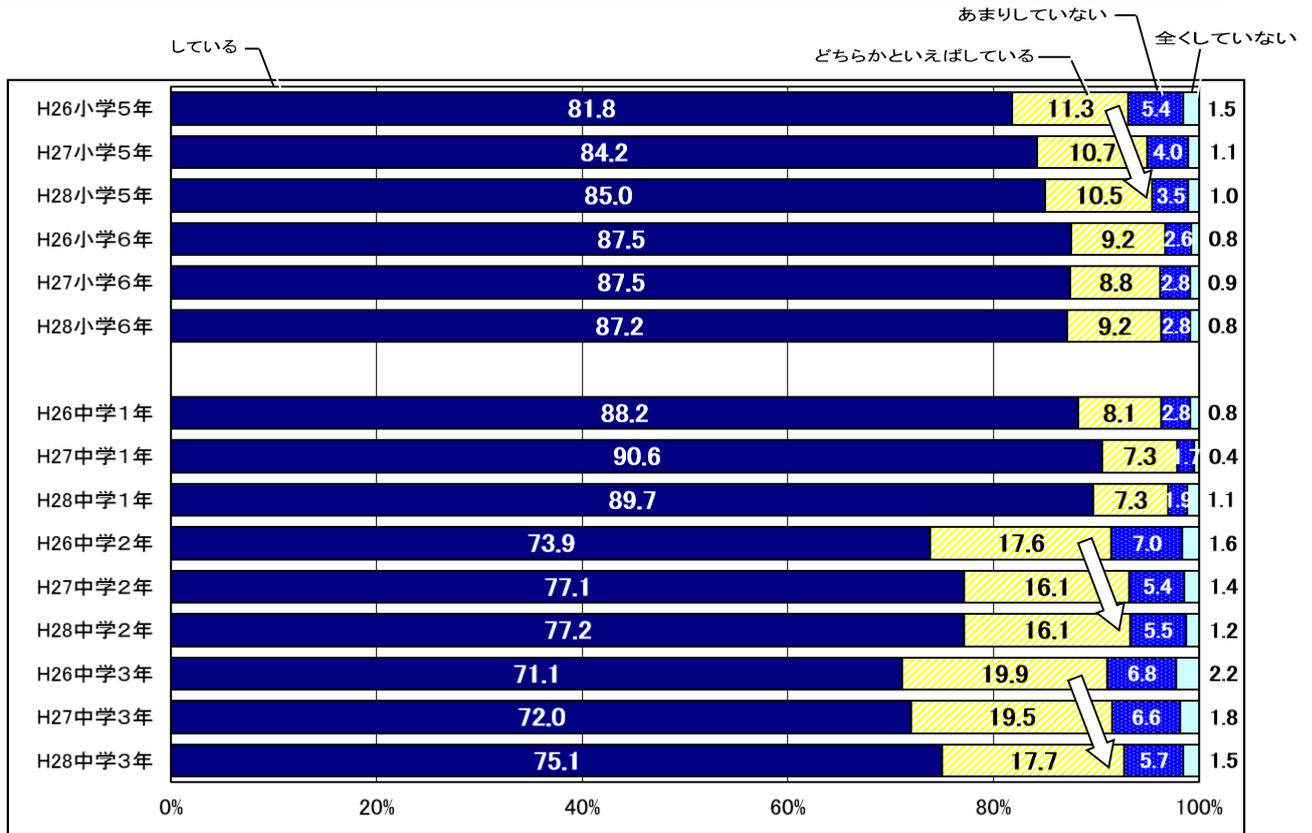
[グラフ 22] 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む)
平成 26～28 年度「同一学年」の経年比較



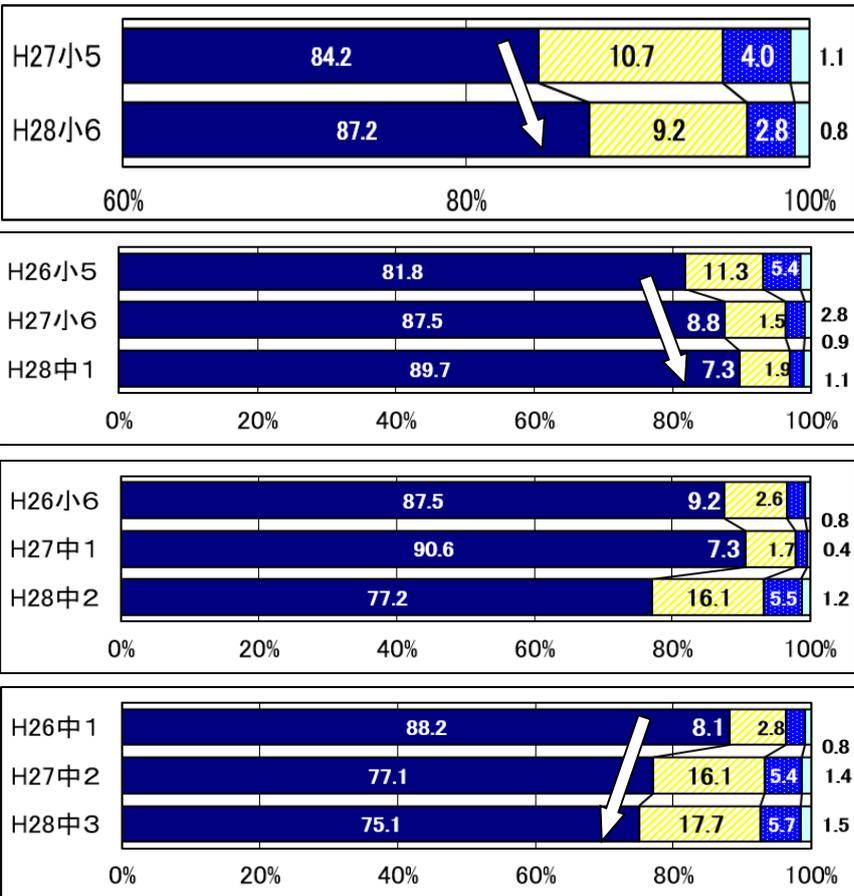
[グラフ 23-1] 自分で計画を立てて勉強している。平成 26～28 年度「同一学年」の経年比較



[グラフ 24-1] 学校の宿題をしている。平成 26～28 年度「同一学年」の経年比較

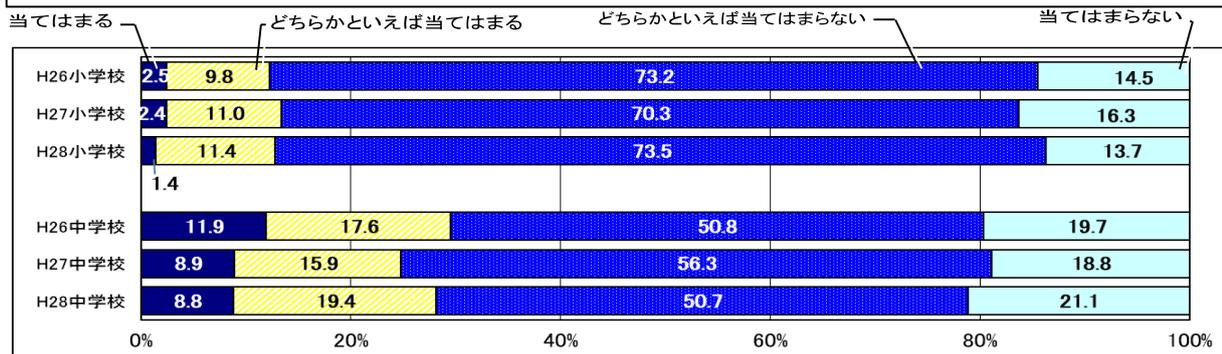


[グラフ 24-2] 学校の宿題をしている。平成 26～28 年度「同一児童生徒」の経年比較

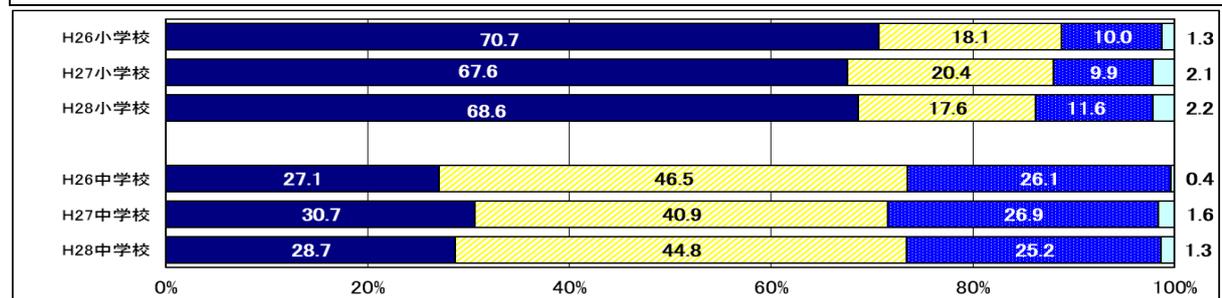


・参考として、「同一児童生徒」の経年比較において、小学5年から中学1年にかけては、学年進行に伴い、「している」と回答した児童の割合が増加しているが、中学校では、学年進行に伴い減少している。
[グラフ 24-2]

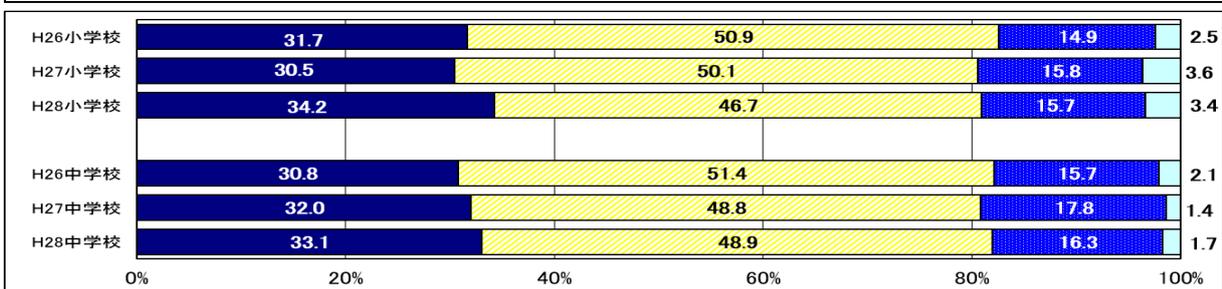
[グラフ 24-3] 予習的な内容の宿題を出していますか。
※教師意識調査より 平成 26～28 年度の経年比較



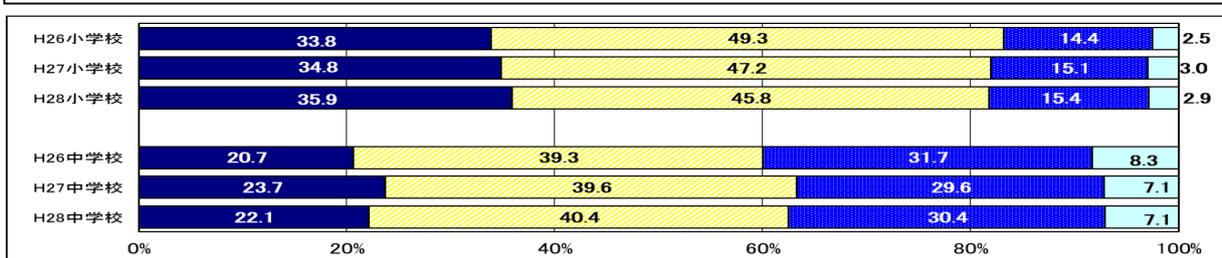
[グラフ 24-4] 復習的な内容の宿題を出していますか。
※教師意識調査より 平成 26～28 年度の経年比較



[グラフ 24-5] 家庭での学習方法について、具体例を挙げながら指導していますか。
※教師意識調査より 平成 26～28 年度の経年比較

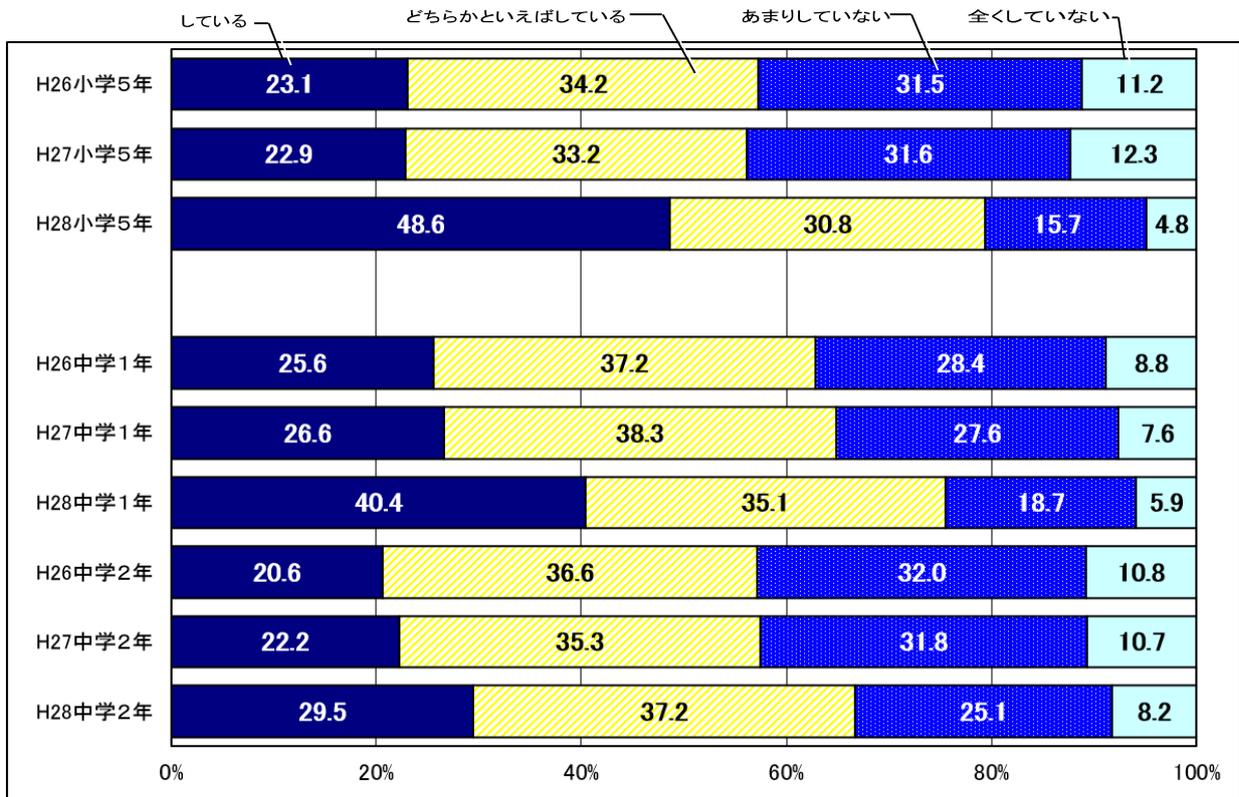


[グラフ 24-6] 宿題の出し方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか。
※教師意識調査より 平成 26～28 年度の経年比較



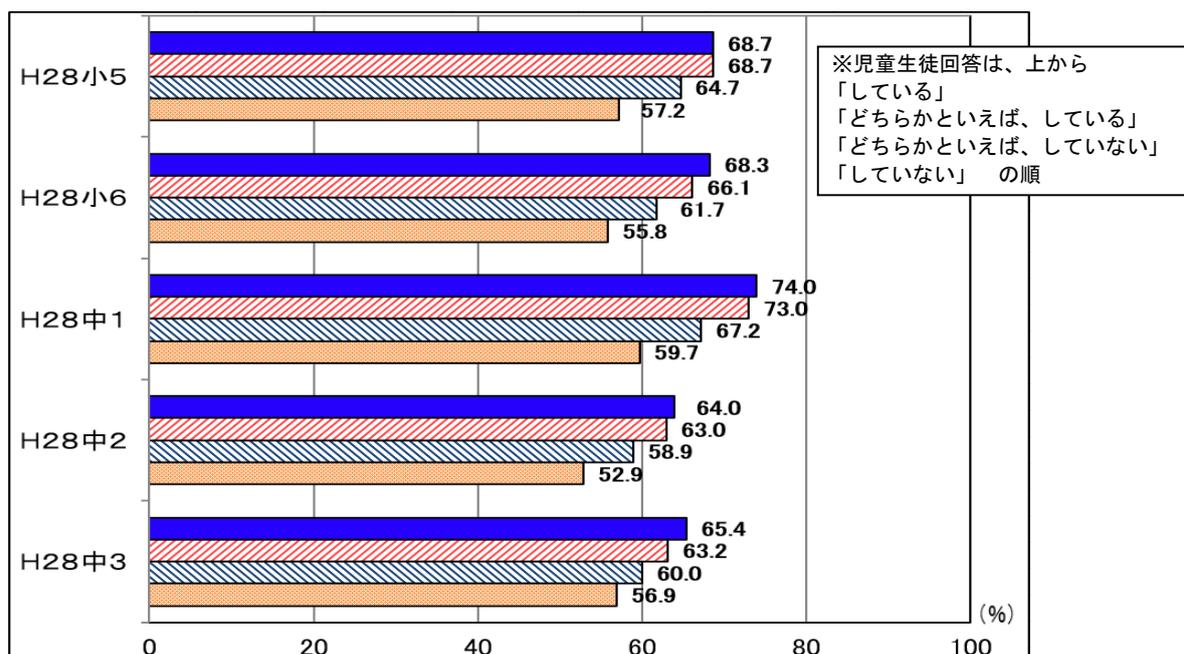
- 参考として、教師意識調査において、予習的な内容の宿題を出題すること、復習的な内容の宿題を出題することともに、肯定的な回答をした教師の割合は、小学校では前年度を下回っているが、中学校では前年度を上回っている。[グラフ 24-3、24-4]
- 参考として、教師意識調査において、家庭での学習方法の指導について、肯定的な回答をした教師の割合は、小学校、中学校ともに前年度を上回っている。[グラフ 24-5]
- 参考として、教師意識調査において、宿題の出し方について校内の教職員で共通理解を図ることについて肯定的な回答をした教師の割合は、小学校、中学校ともに前年度を下回っている。[グラフ 24-6]

[グラフ 25-1] テストで分からなかった問題や間違えた問題についてやり直しをしている。
平成 26～28 年度「同一学年」の経年比較（参考）※1

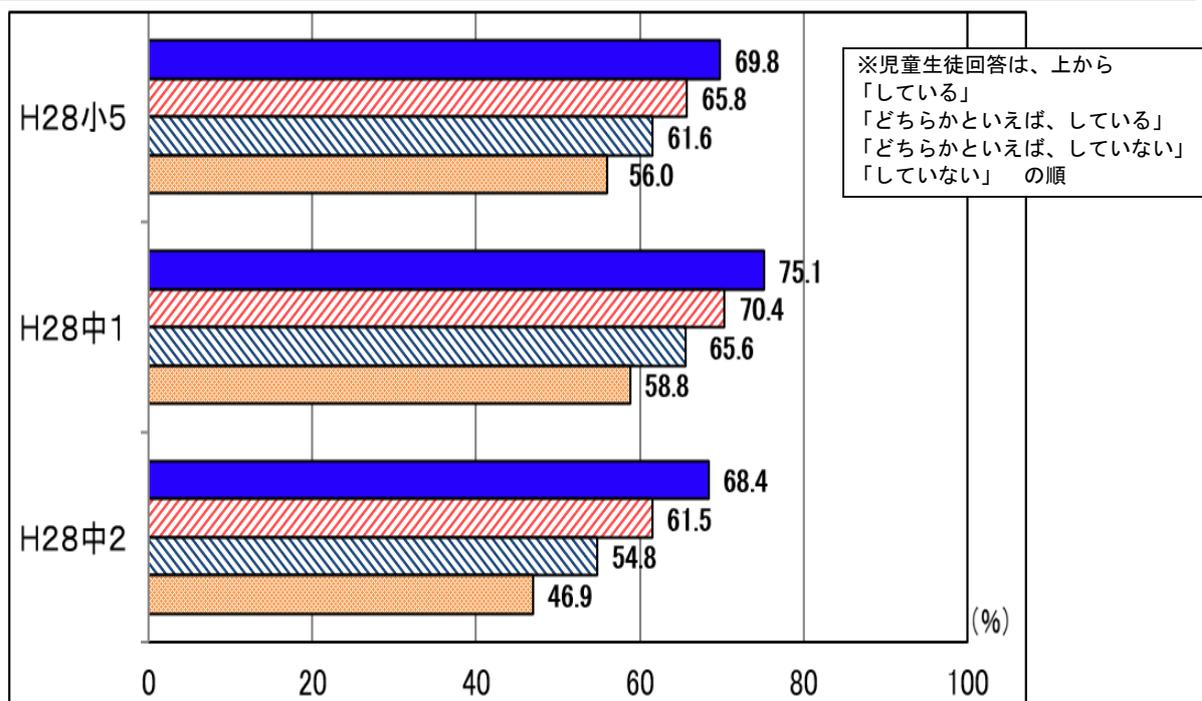


※1 本質問項目は、平成27年度調査では「テストで間違えた問題について学習している」と問うており、平成28年度は質問項目の文言を一部変更しているため、参考としている。

[グラフ 23-2] 「自分で計画を立てて勉強している」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



[グラフ 25-2] 「テストで分からなかった問題や間違えた問題についてやり直しをしている」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

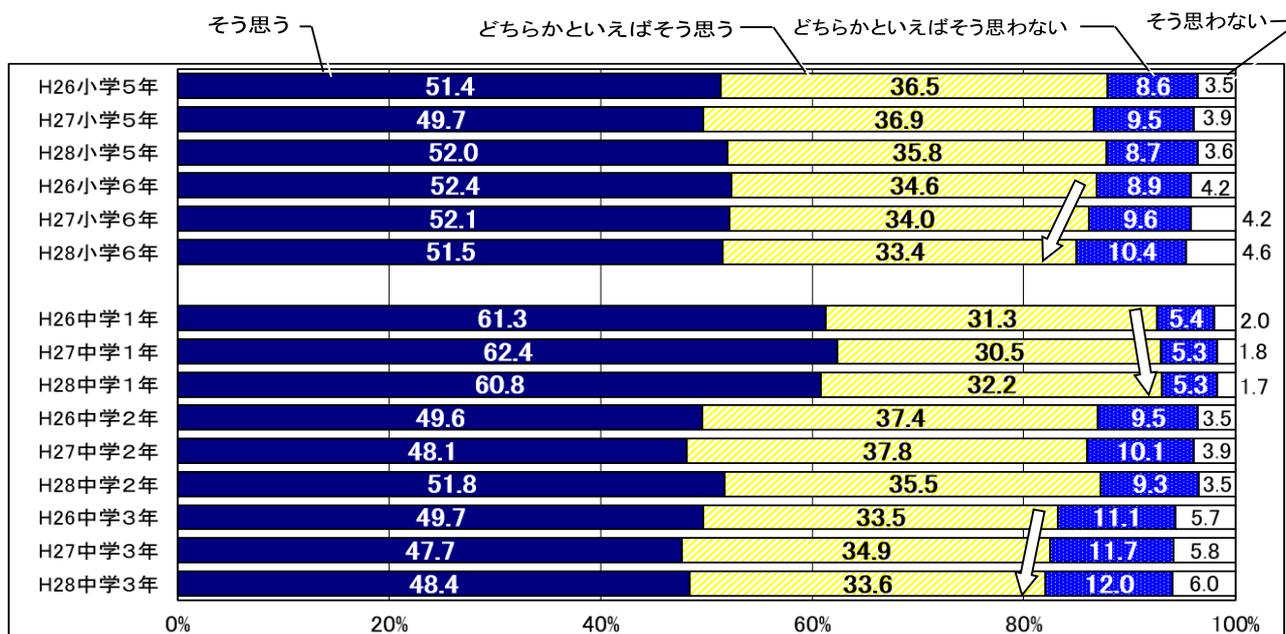


- ・「自分で計画を立てて勉強している」という問いに対して、肯定的な回答をした児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒に比較して高い。[グラフ 23-2]
- ・「テストで分からなかった問題や間違えた問題についてやり直しをしている」という問いについても同様な結果である。[グラフ 25-2]

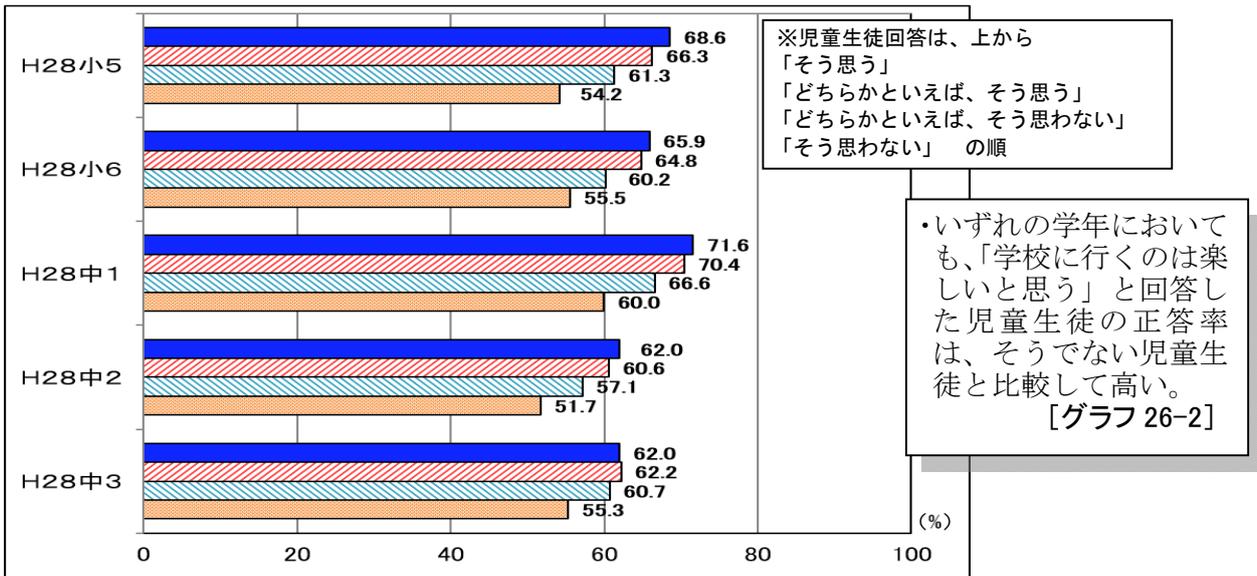
(4) 学校生活、家庭生活について

- 「学校に行くのは楽しいと思う」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学6年、中学3年は減少、中学1年生は増加しており、小学5年、中学2年で、前年度を上回っている。[グラフ 26-1]
- 「学校では落ち着いて勉強することができる」という問いに対して肯定的な回答をした児童の割合は、調査対象の全ての学年で前年度を上回っている。
[グラフ 27-1]
- 平日2時間以上テレビやビデオ・DVDを視聴する児童生徒の割合は、小学5年、小学6年、中学3年で前年度を下回っている。[グラフ 28-1]
- 平日2時間以上テレビゲームをする児童生徒の割合は、小学5年で減少しており、小学6年、中学3年で、前年度を下回っている。[グラフ 29-1]
- 平日に、携帯電話やスマートフォンを1時間以上使用している児童生徒の割合は、小学5年、中学1年を除く全ての学年で、前年度を上回っている。
[グラフ 30-1]
- テレビゲームをする時間、携帯電話やスマートフォンを使用する時間が長いほど、正答率が低くなる傾向にある。[グラフ 29-2、30-2]
- 「新聞やテレビ、インターネットのニュースを読んだり見たりしている」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、中学2年生で増加しており、小学5年、中学1年では前年度を上回っている。[グラフ 31-1]
- 「将来の夢や目標をもっている」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校と中学1年で約9割、中学2年、中学3年で約7割である。中学3年を除く全ての学年で減少しており、中学3年では、前年度を下回っている。[グラフ 32]

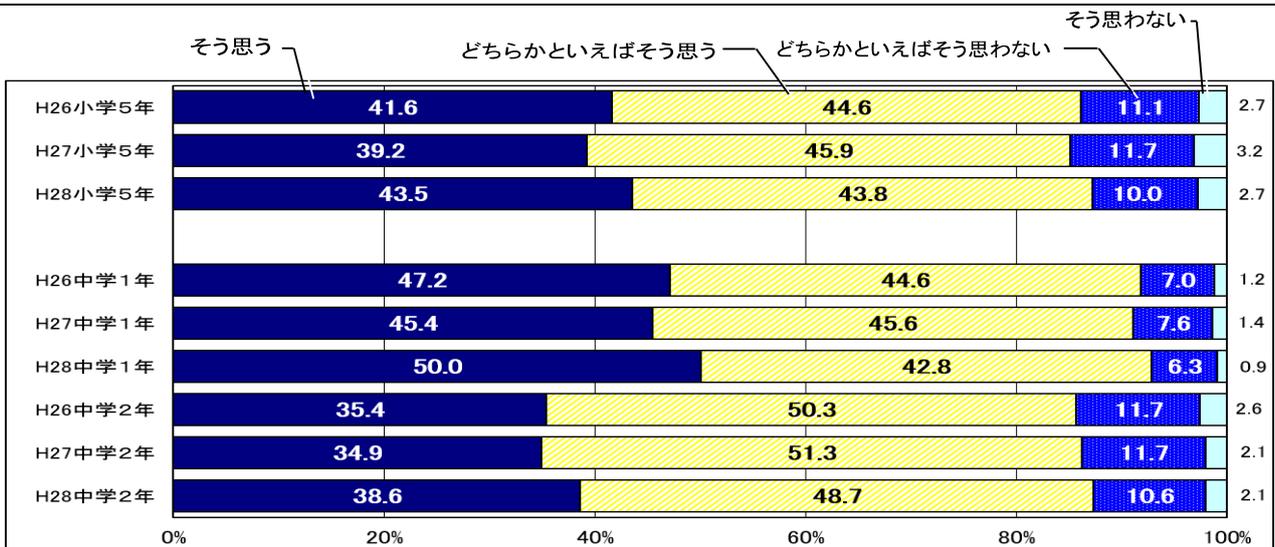
[グラフ 26-1] 学校に行くのは楽しいと思う 平成 26～28 年度「同一学年」の経年比較



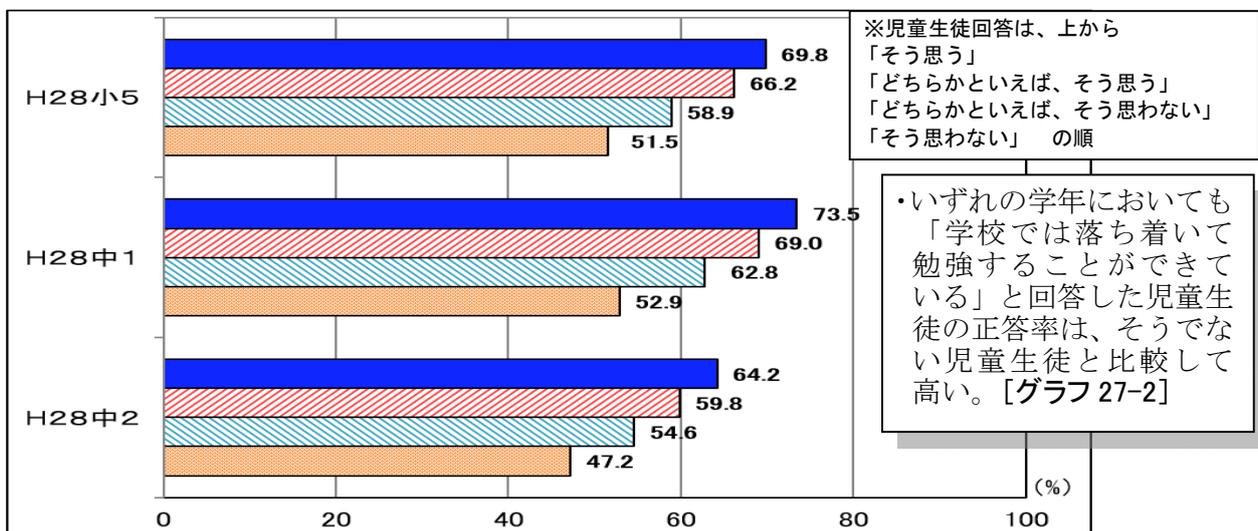
[グラフ 26-2] 「学校に行くのは楽しいと思う」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



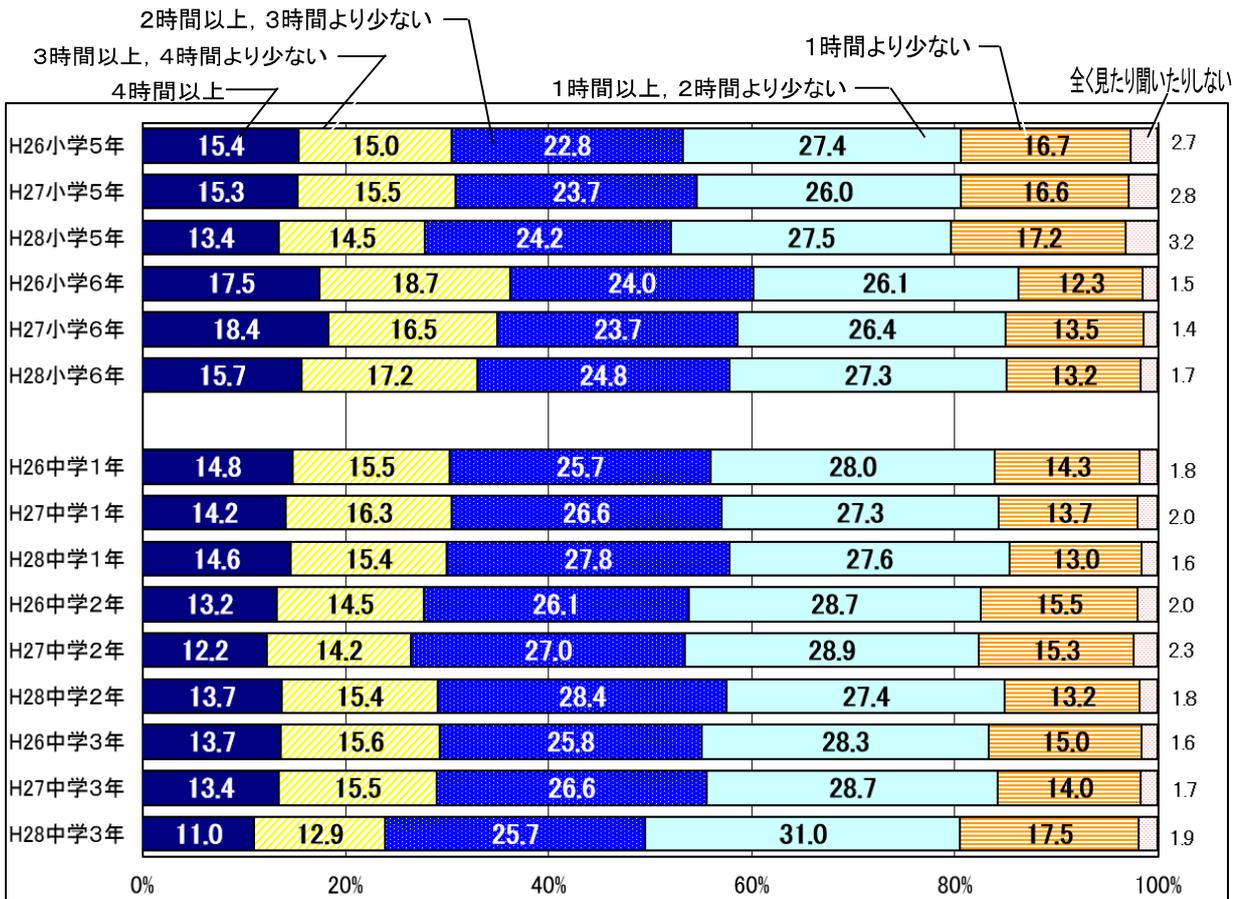
[グラフ 27-1] 学校では落ち着いて勉強することができる 平成 26～28 年度「同一学年」の経年比較



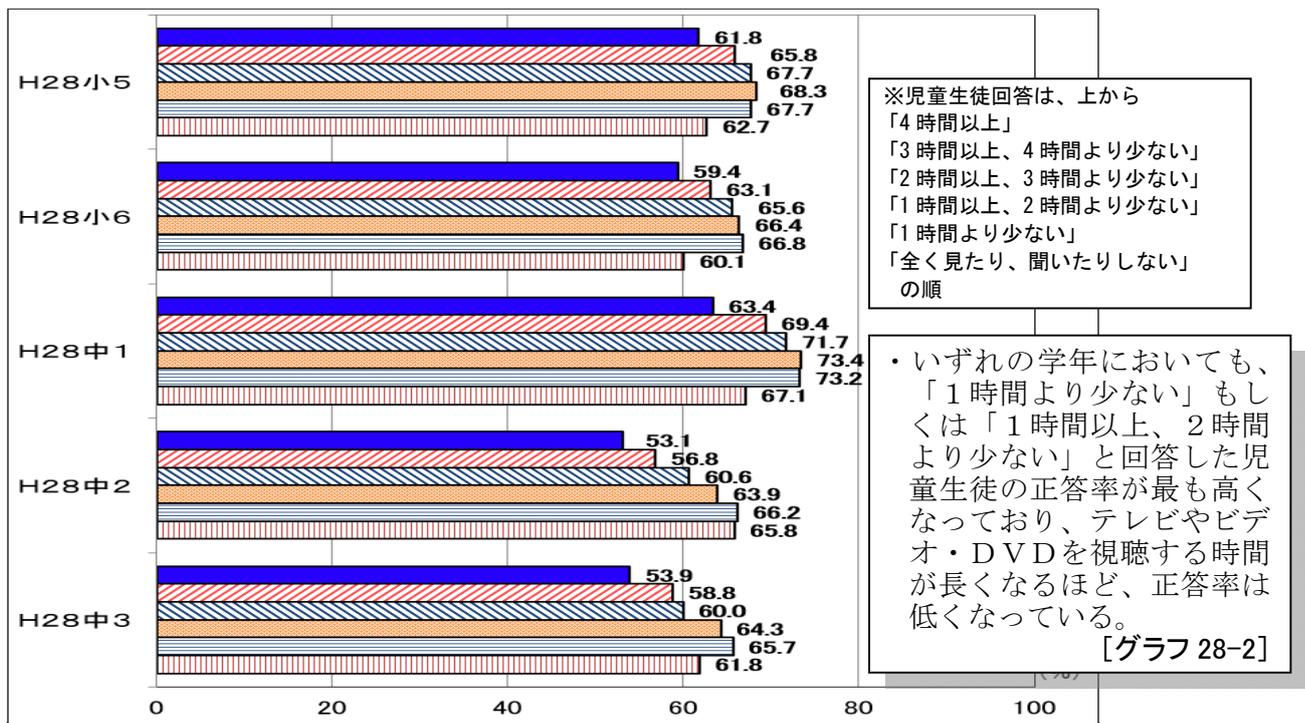
[グラフ 27-2] 「学校では落ち着いて勉強することができる」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



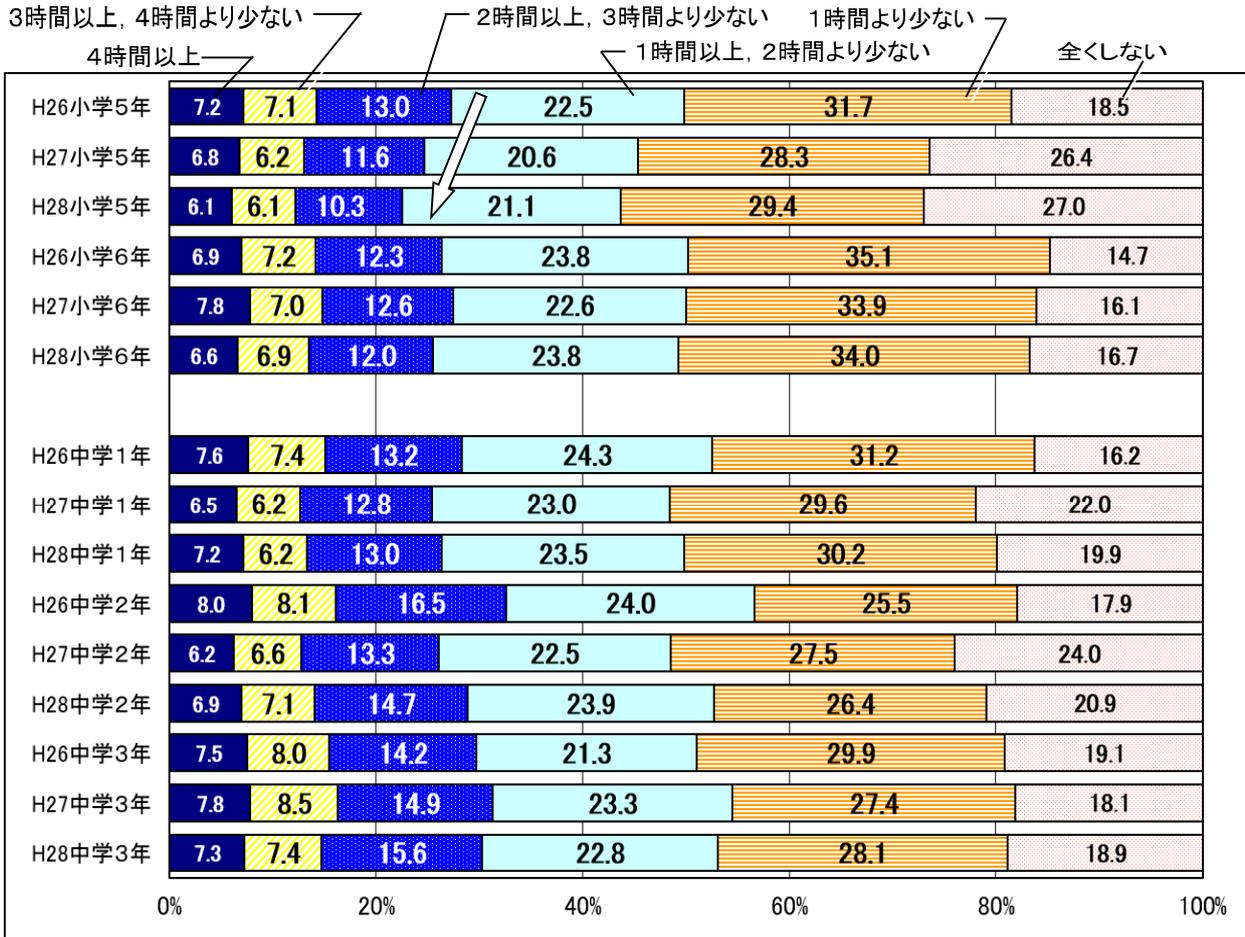
[グラフ 28-1] 1日あたりテレビやビデオ・DVDを視聴する時間(月～金曜日)
平成 26～28 年度「同一学年」の経年比較(テレビゲームをする時間は除く)



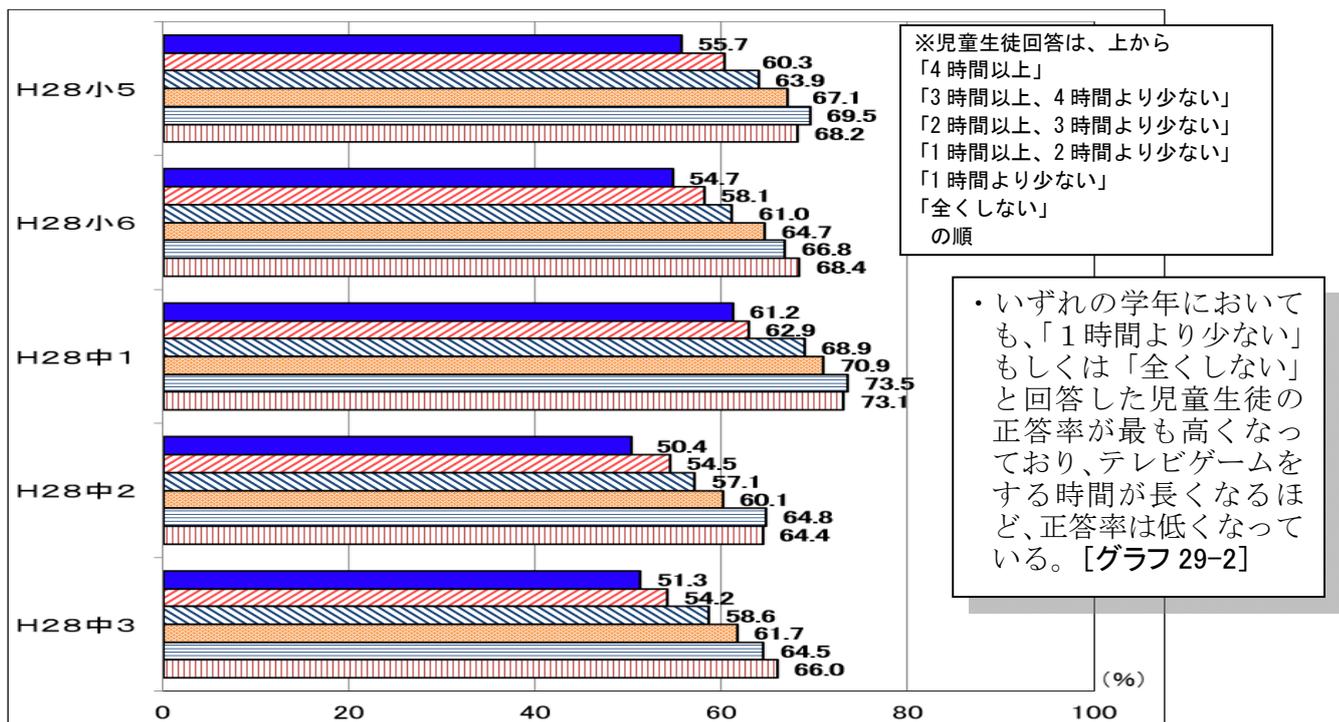
[グラフ 28-2] 「1日あたりテレビやビデオ・DVDを視聴する時間(月～金曜日 テレビゲームをする時間は除く)」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



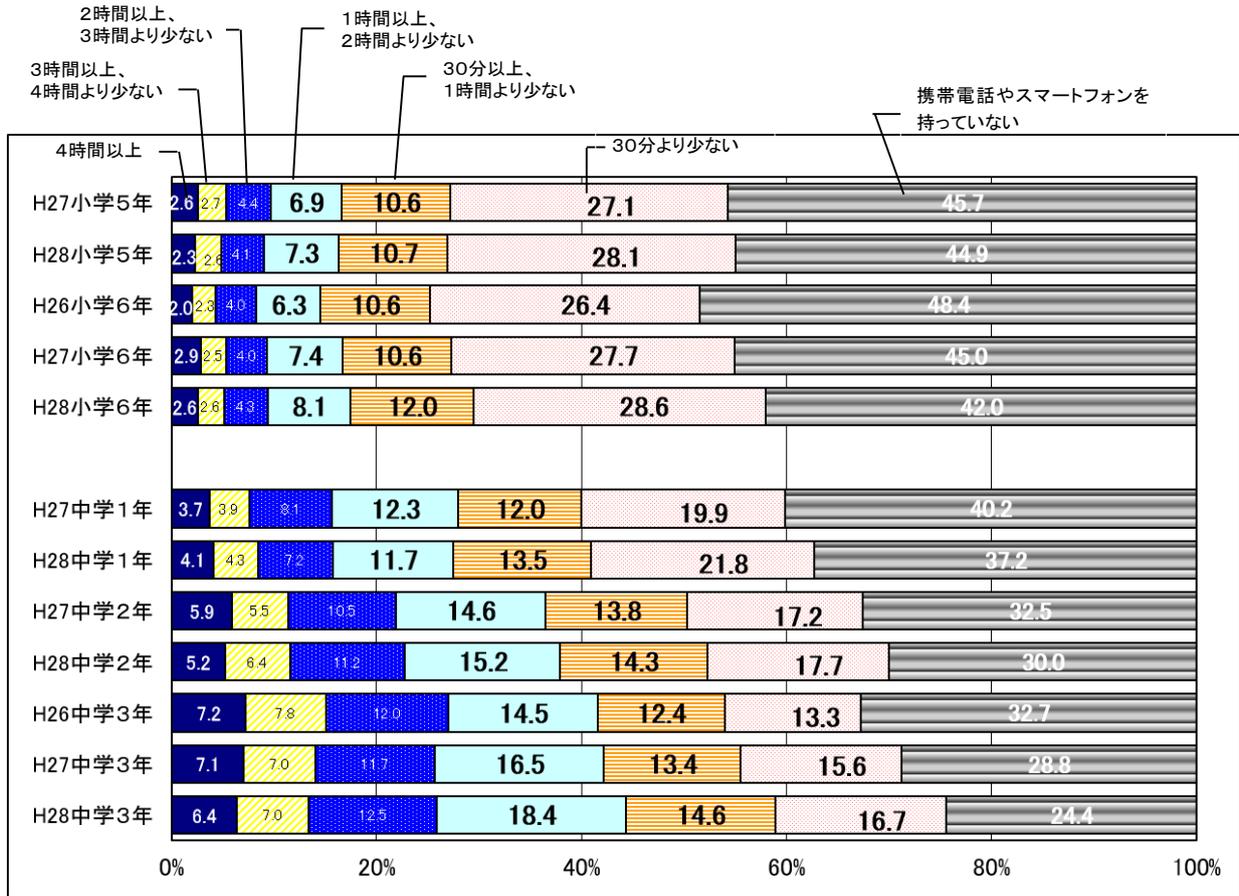
[グラフ 29-1] 1日あたりテレビゲームをする時間(月～金曜日)
平成26～28年度「同一学年」の経年比較(コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含む)



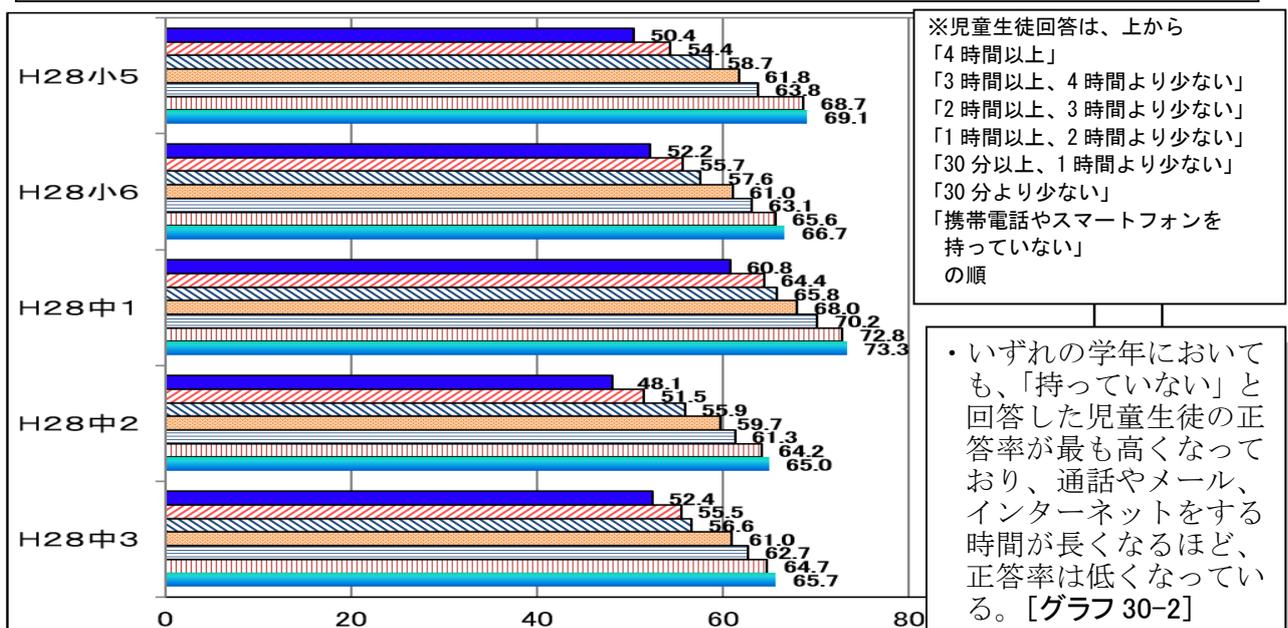
[グラフ 29-2] 「1日あたりテレビゲームをする時間(月～金曜)」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



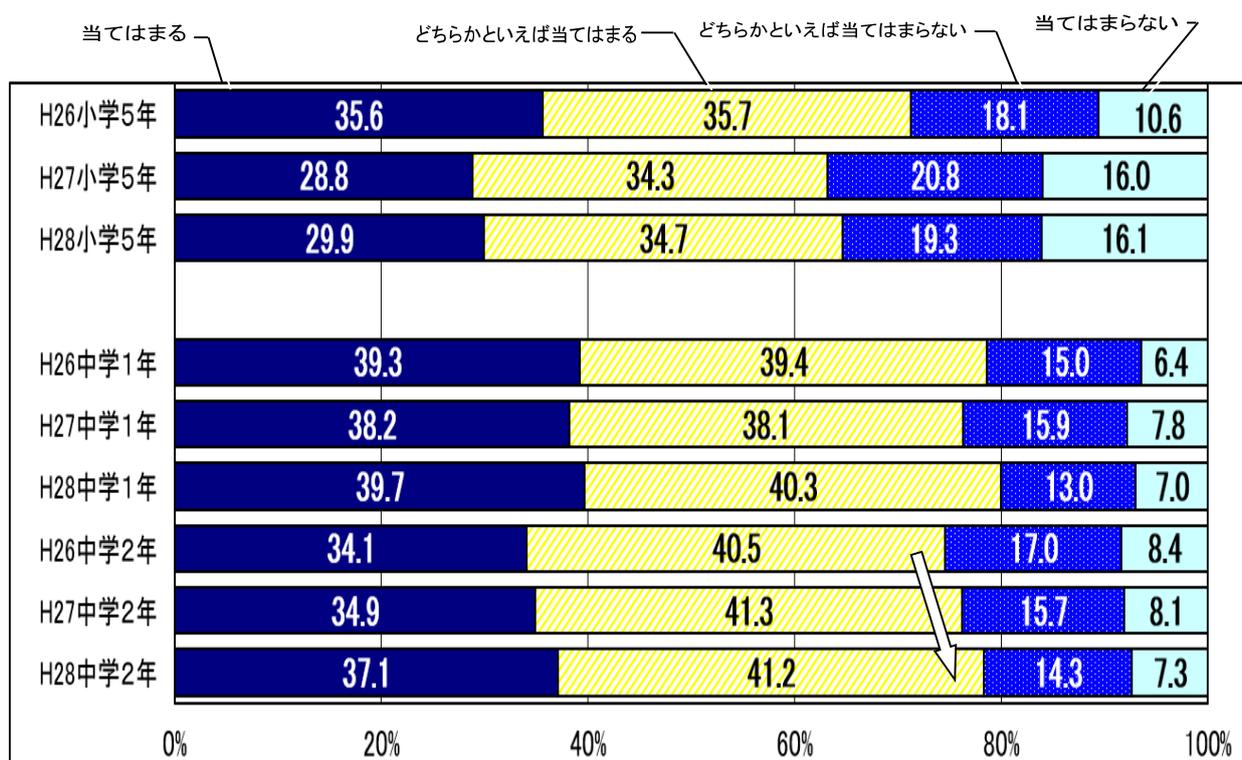
[グラフ 30-1] 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをするか ※平成 26 年度から調査項目に加わった(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)



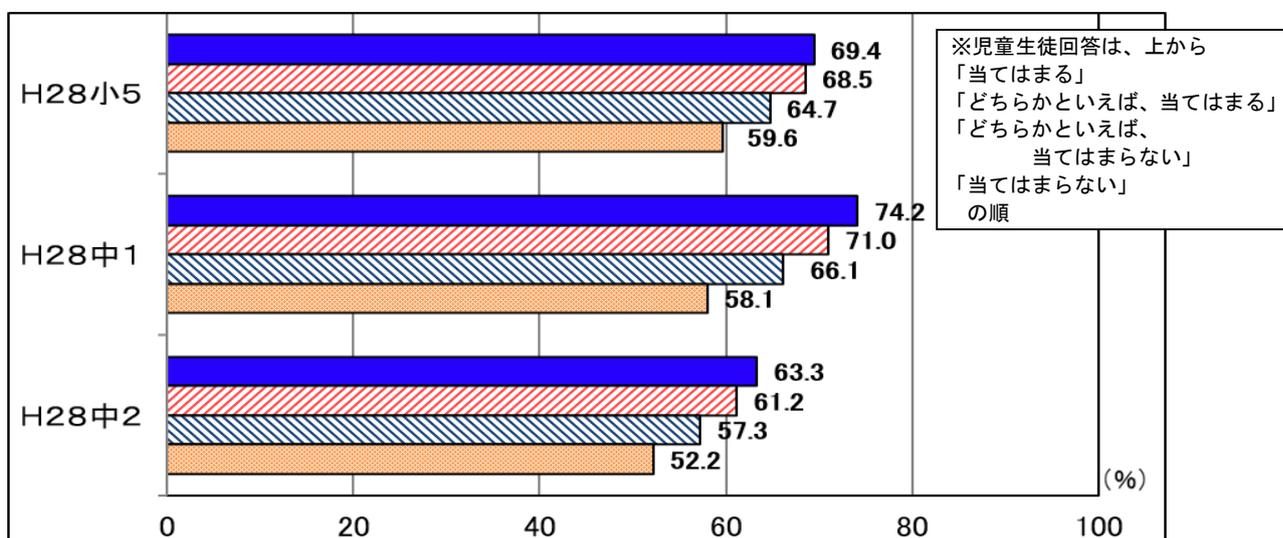
[グラフ 30-2] 「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをするか」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



[グラフ 31-1] 新聞やテレビ、インターネットのニュースを読んだり見たりしている
平成 26～28 年度「同一学年」の経年比較

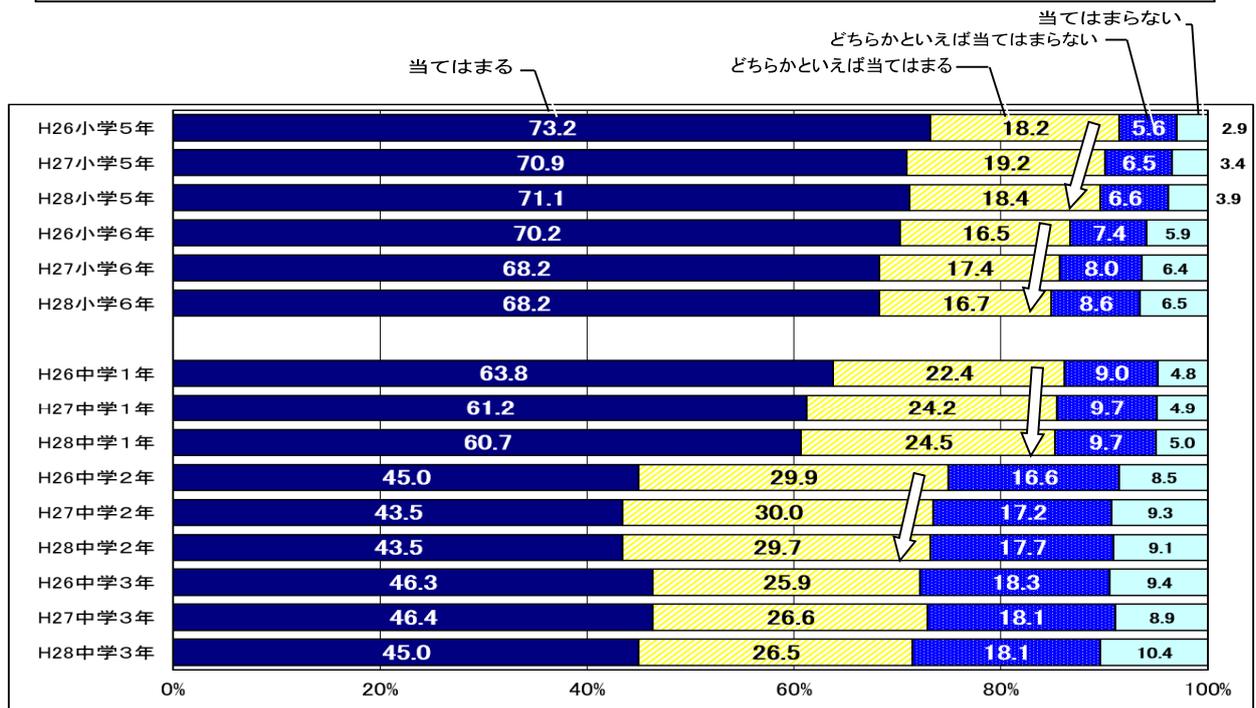


[グラフ 31-2] 「新聞やテレビ、インターネットのニュースを読んだり見たりしている」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



・調査対象のいずれの学年においても、肯定的な回答をした児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して高い。[グラフ 31-2]

[グラフ 32] 将来の夢や目標をもっている 平成 26～28 年度「同一学年」の経年比較



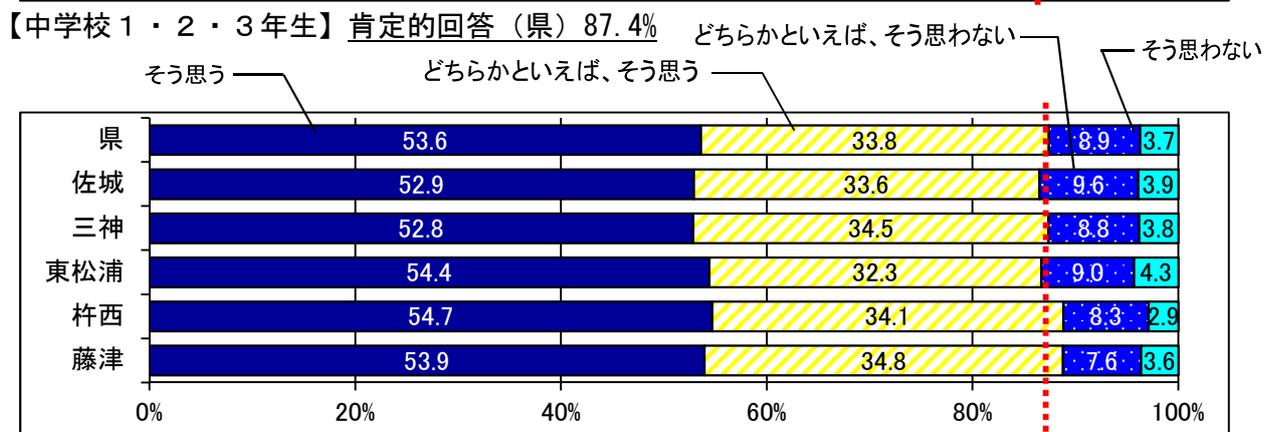
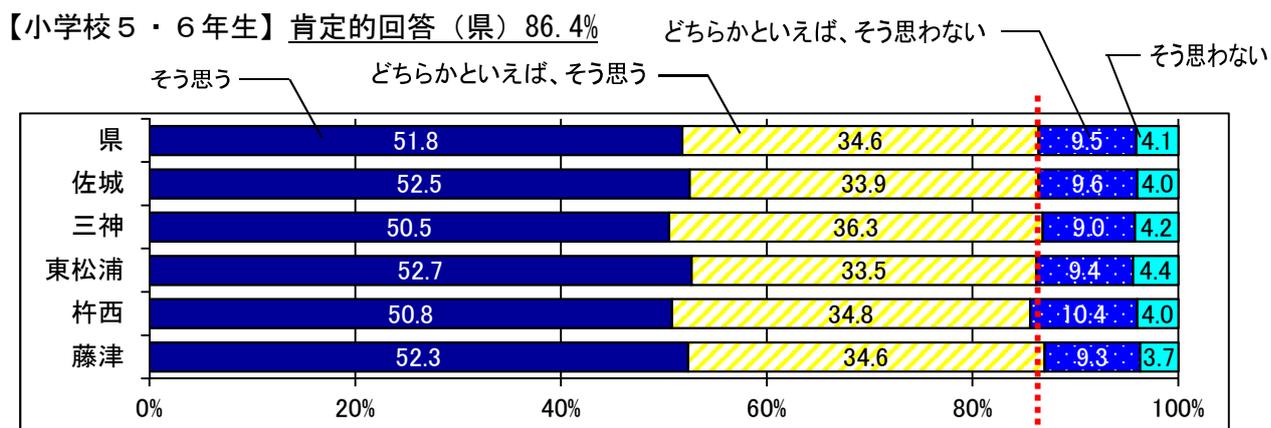
(5) 地域別の状況

《児童生徒質問紙調査及び児童生徒意識調査》

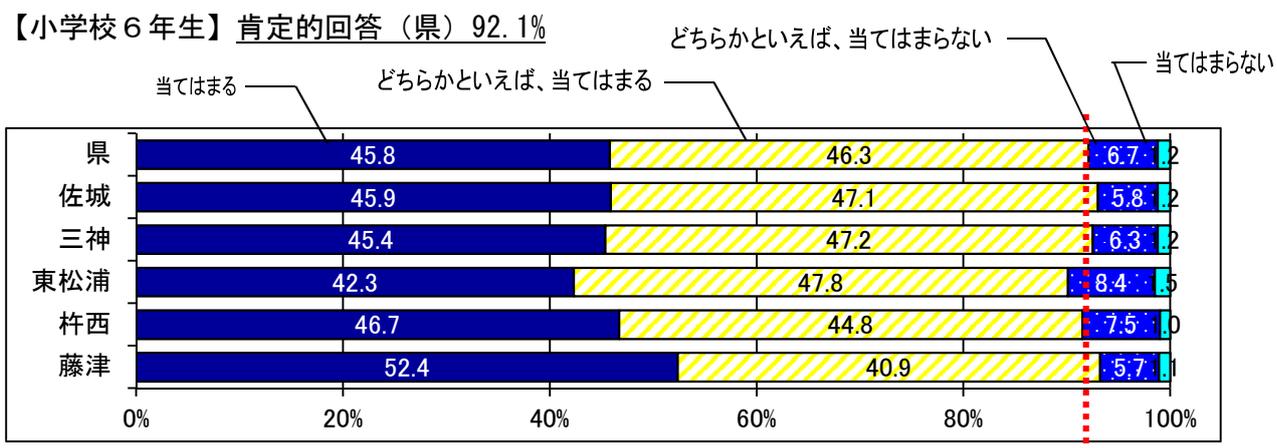
① 学校での生活について

- 「学校に行くのは楽しいと思う」児童生徒の割合は、小・中学校ともに地域差がほとんど見られない。[グラフ 33]
- 「学校のきまりを守っている」について「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小・中学校ともに藤津地域が高い。[グラフ 34]

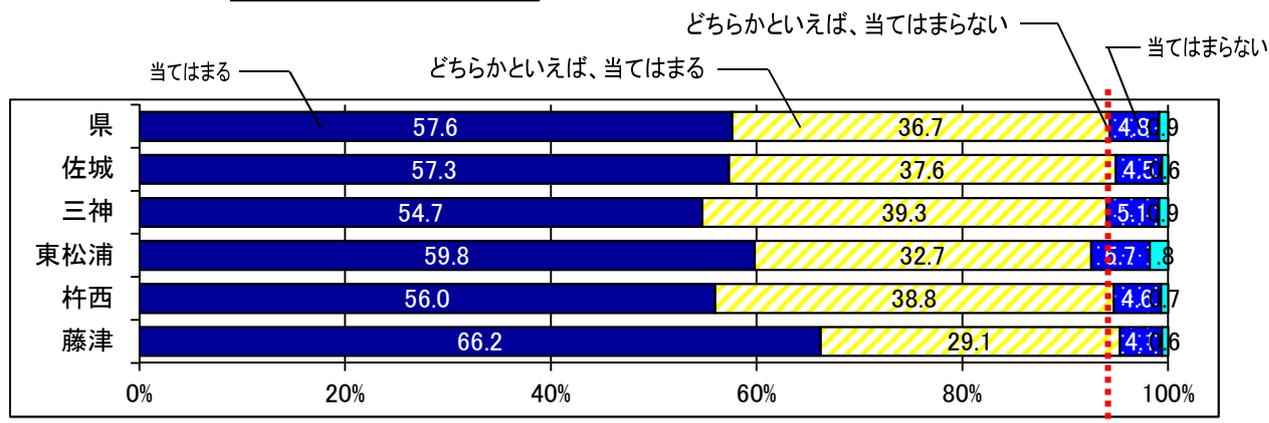
[グラフ 33] 学校に行くのは楽しいと思う。



[グラフ 34] 学校のきまりを守っている。



【中学校3年生】肯定的回答（県）94.3%

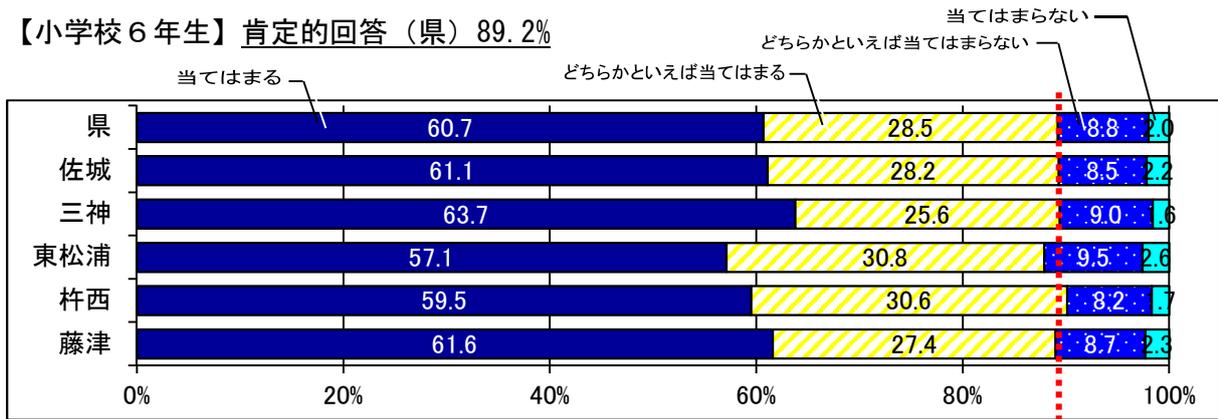


② 学習活動について

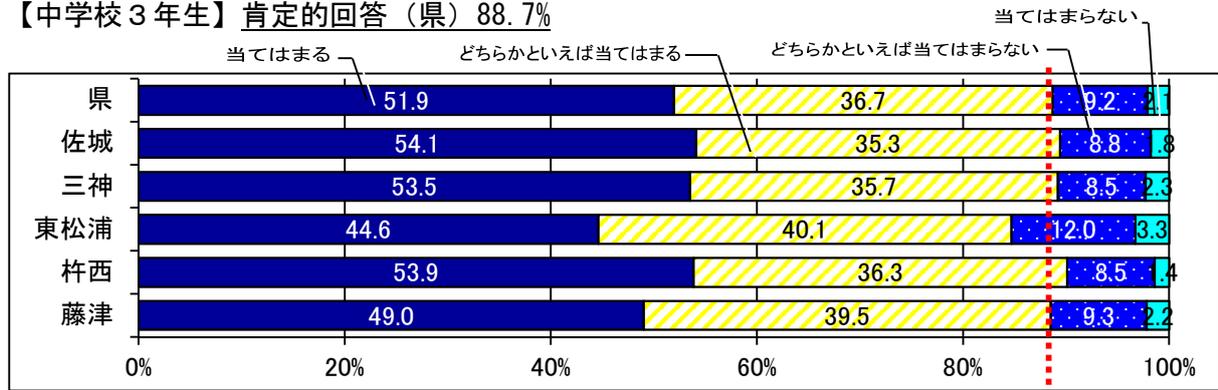
- 「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたか」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では地域差がほとんど見られないが、「当てはまる」の割合は、三神地域がやや高く、東松浦地域がやや低い。中学校では「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、佐城・杵西地域がやや高く、東松浦地域は低い。[グラフ 35]
- 「授業の最後に学習内容を振り返る活動」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では東松浦地域がやや低い。中学校では佐城地域がやや高く、東松浦地域がやや低い。[グラフ 36]
- 「ノートに学習の目標とまとめを書くこと」について、「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では佐城地域がやや高く、東松浦地域は低い。中学校では三神地域がやや高く、東松浦地域が低い。[グラフ 37]
- 「国語の授業の内容が分かる」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では東松浦地域やや低く、中学校では三神地域がやや高い。[グラフ 38]
- 「算数・数学の授業の内容が分かる」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では地域差がほとんど見られない。中学校では藤津地域がやや高く、東松浦地域がやや低い。
[グラフ 39]
- 「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫しているか」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では藤津地域がやや高く、東松浦地域がやや低い。中学校では三神地域がやや高く、東松浦・藤津地域がやや低い。[グラフ 40]
- 「算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考える」について、「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では地域差がほとんど見られないが、中学校では杵西・藤津地域がやや低い。[グラフ 41]

[グラフ 35] 授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う。

【小学校 6 年生】 肯定的回答（県） 89.2%

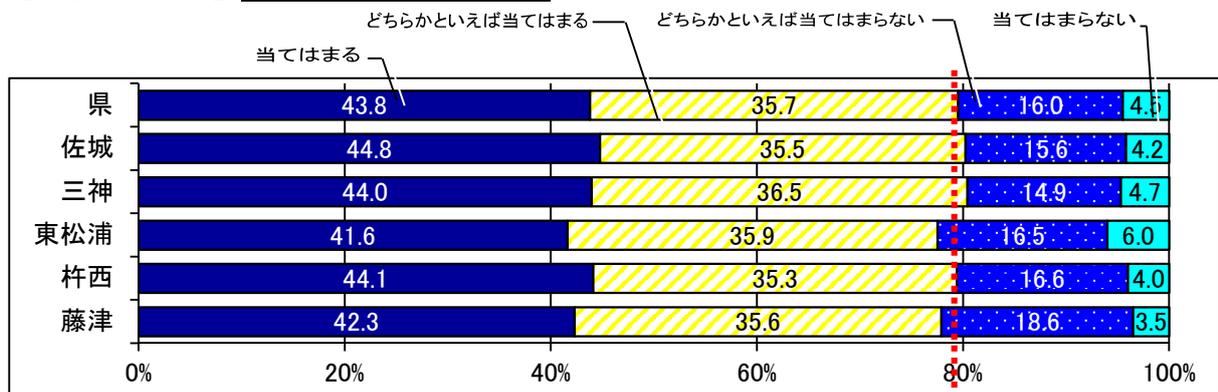


【中学校 3 年生】 肯定的回答（県） 88.7%

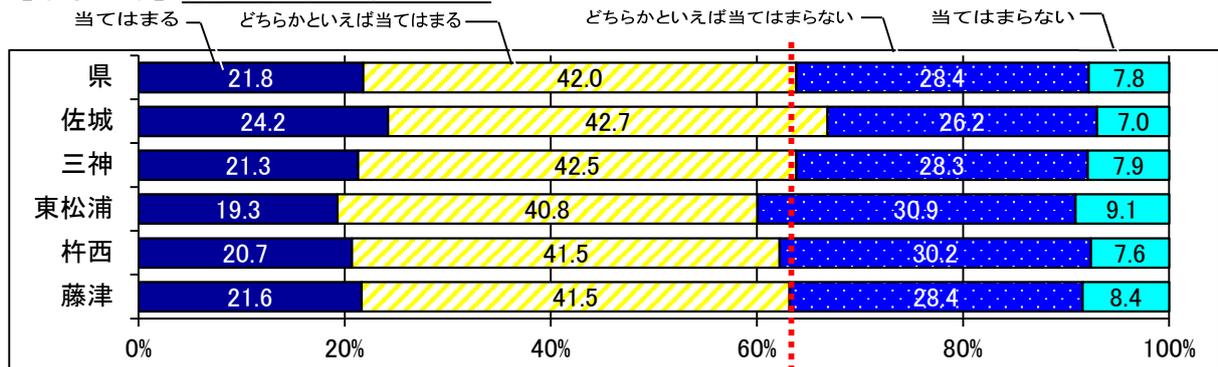


[グラフ 36] 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。

【小学校 6 年生】 肯定的回答（県） 79.5%

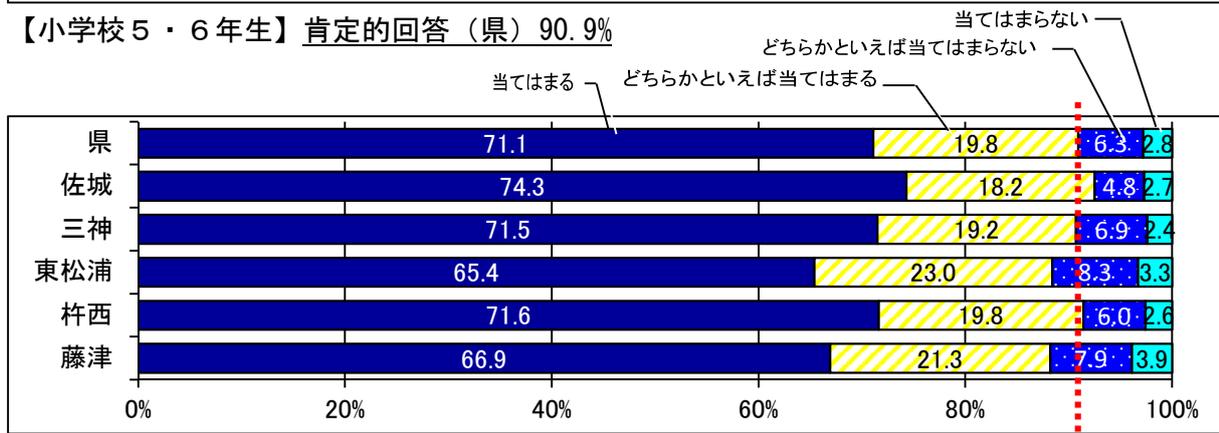


【中学 3 年】 肯定的回答（県） 63.8%

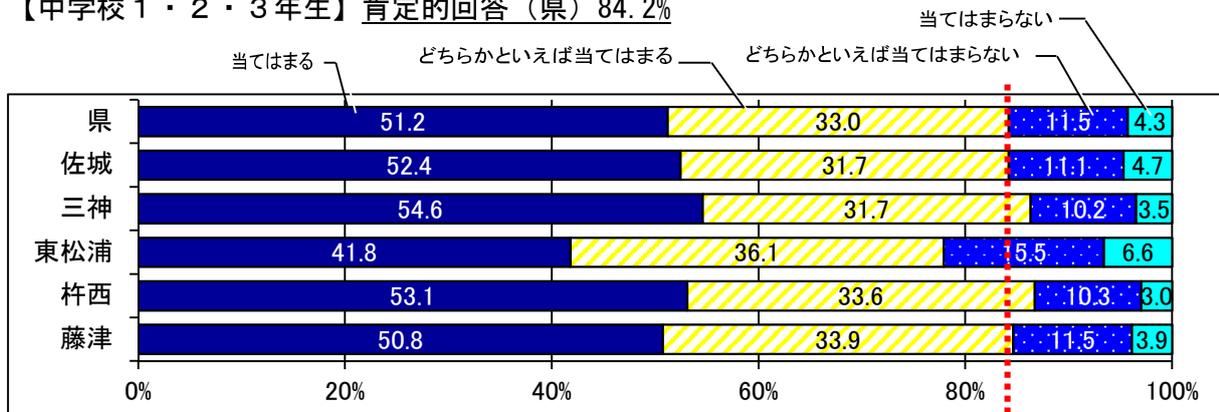


【グラフ 37】 授業で扱うノートには、学習の目標（めあて、ねらい）とまとめを書いていたと思う。

【小学校 5・6 年生】 肯定的回答（県）90.9%

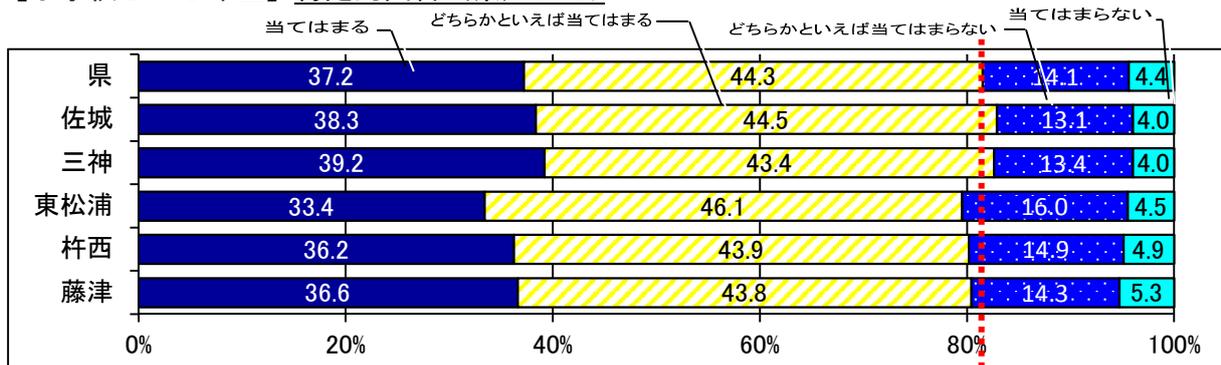


【中学校 1・2・3 年生】 肯定的回答（県）84.2%

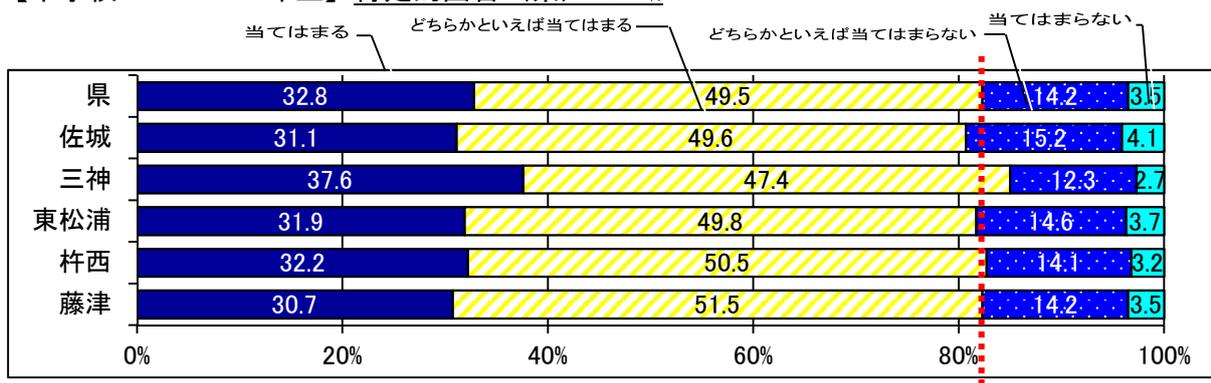


【グラフ 38】 国語の授業の内容はよく分かる。

【小学校 5・6 年生】 肯定的回答（県）81.5%

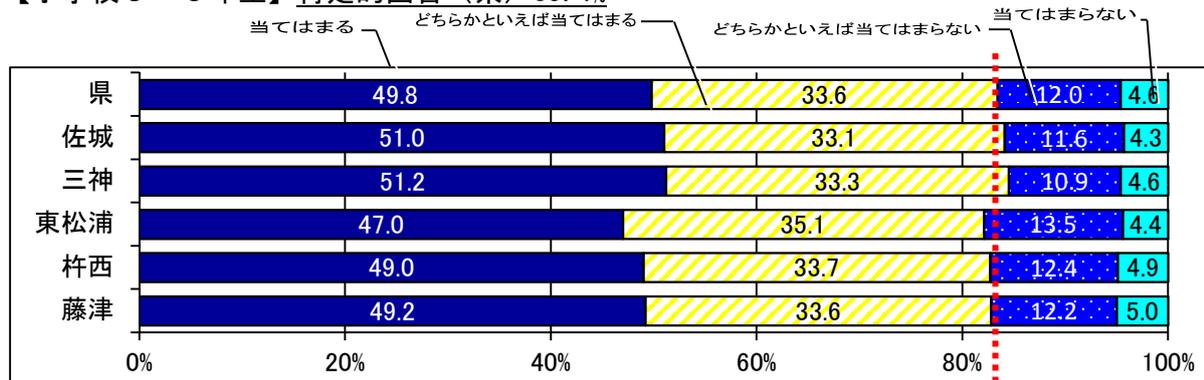


【中学校 1・2・3 年生】 肯定的回答（県）82.3%

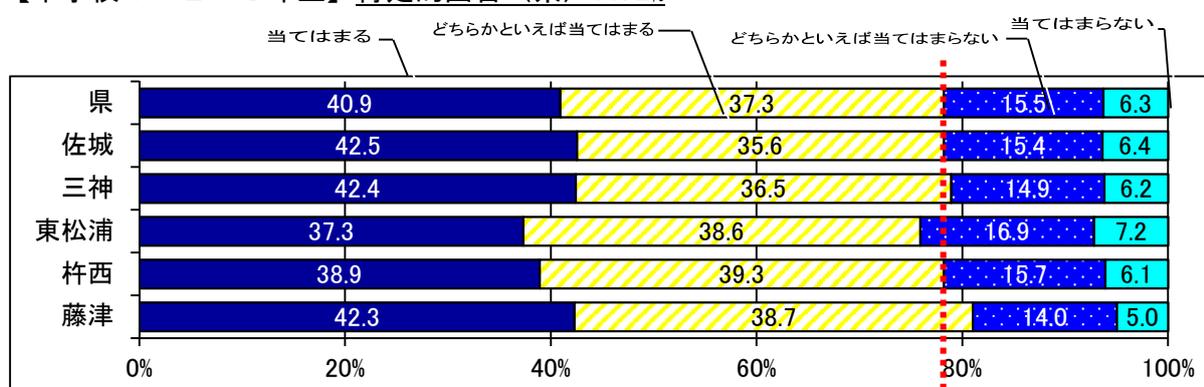


[グラフ 39] 算数・数学の授業の内容はよく分かる。

【小学校5・6年生】肯定的回答（県）83.4%

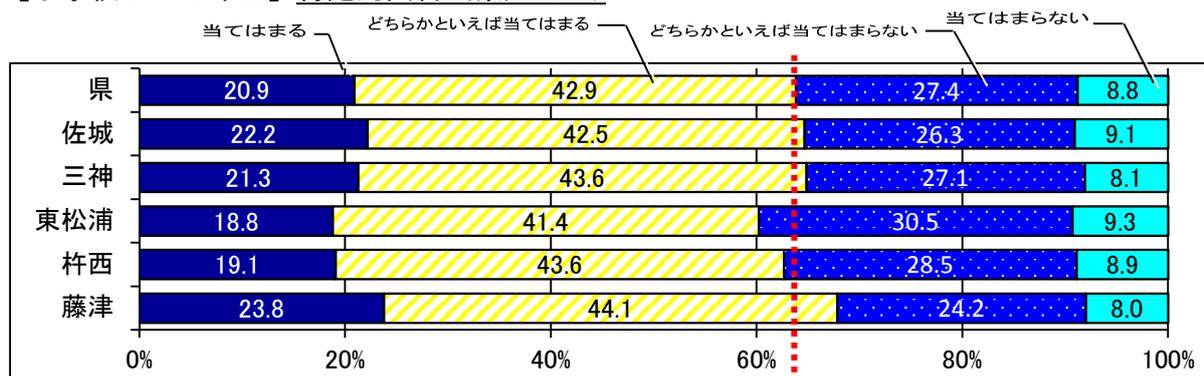


【中学校1・2・3年生】肯定的回答（県）78.2%

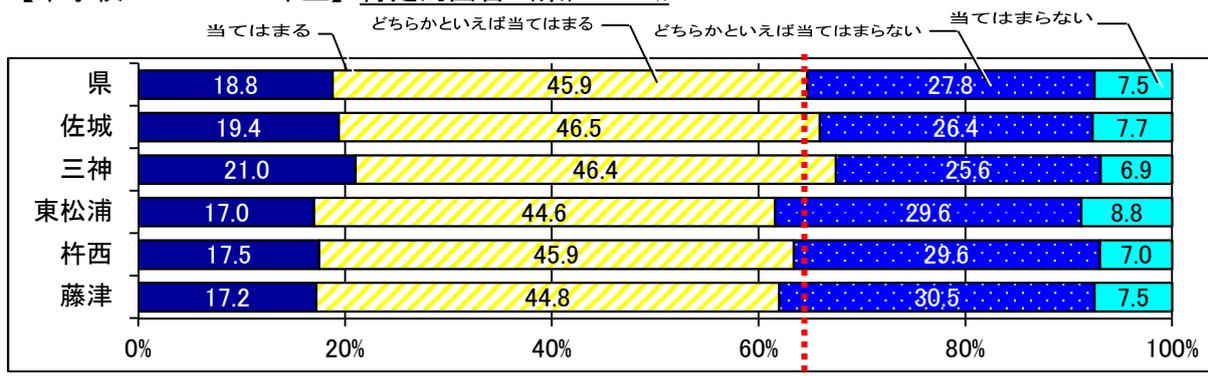


[グラフ 40] 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫している。

【小学校5・6年生】肯定的回答（県）63.8%

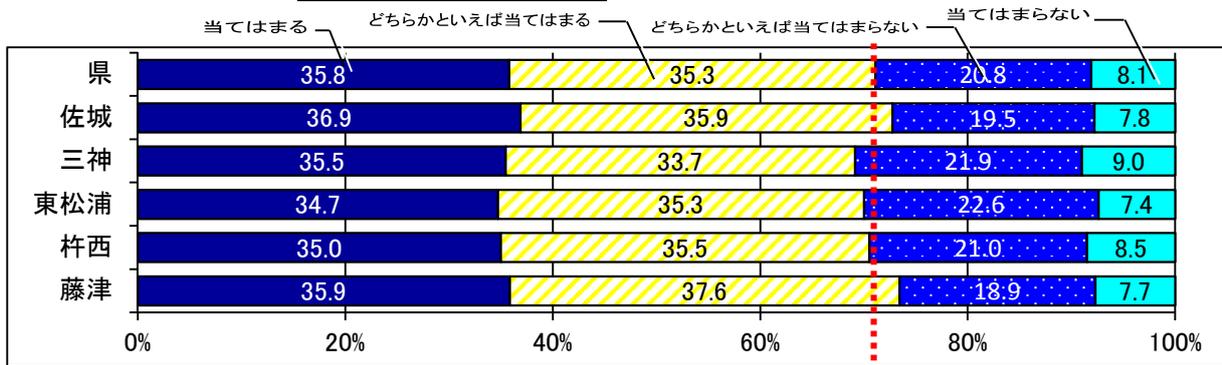


【中学校1・2・3年生】肯定的回答（県）64.7%

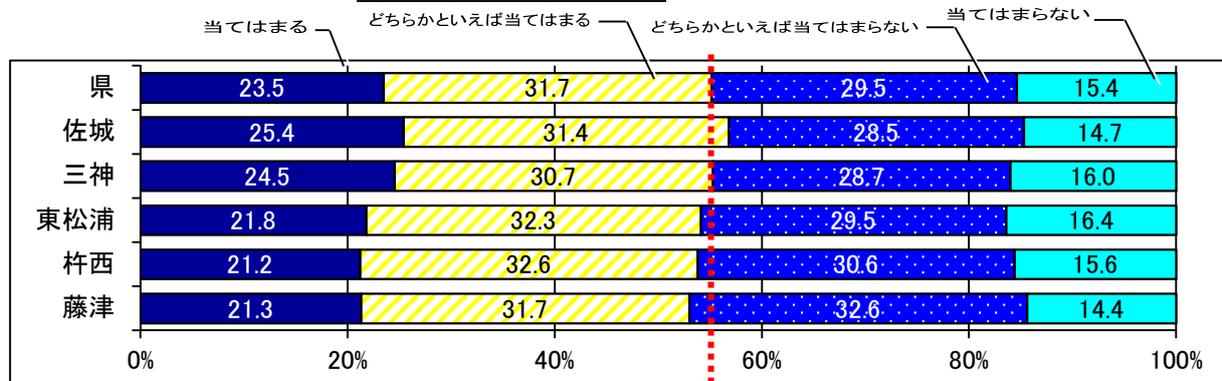


[グラフ 41] 算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考える。

【小学校5・6年生】肯定的回答(県) 71.1%



【中学校1・2・3年生】肯定的回答(県) 55.1%

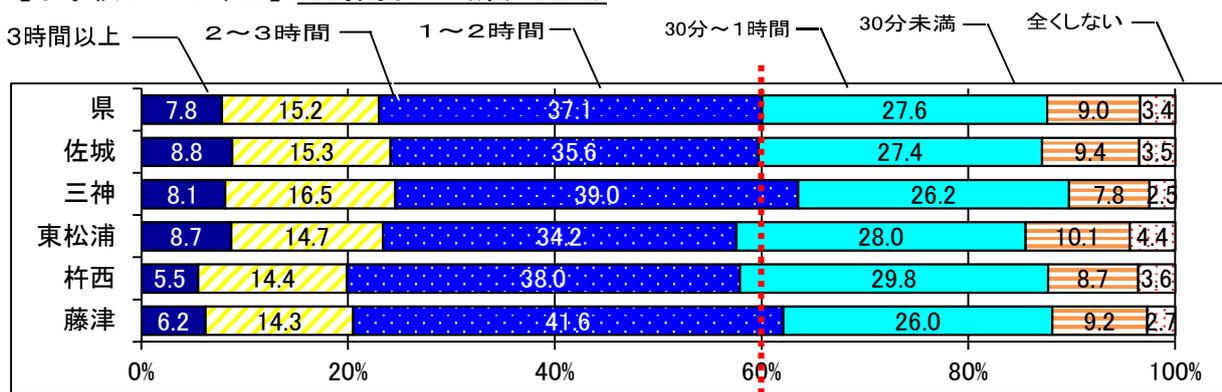


③ 家庭での学習について

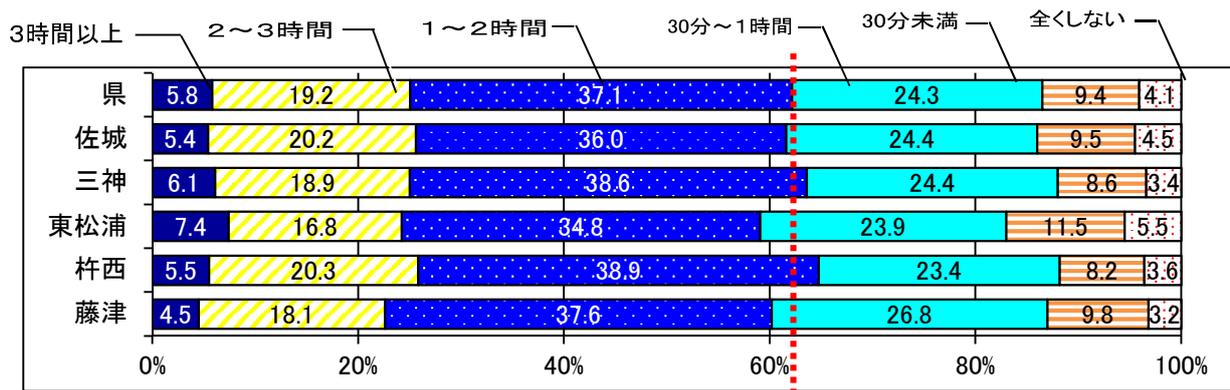
- 「普段(月曜日から金曜日)、1時間以上勉強している」児童生徒の割合は、小学校では三神地域・藤津地域がやや高く、東松浦地域・杵西地域がやや低い。中学校では杵西地域がやや高く、東松浦地域・藤津地域がやや低い。[グラフ 42]
- 「土日に2時間以上勉強している」児童生徒の割合は、小学校では杵西地域がやや低い。中学校では三神地域がやや高く、東松浦地域がやや低い。[グラフ 43]

[グラフ 42] 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む)

【小学校5・6年生】1時間以上(県) 60.1%

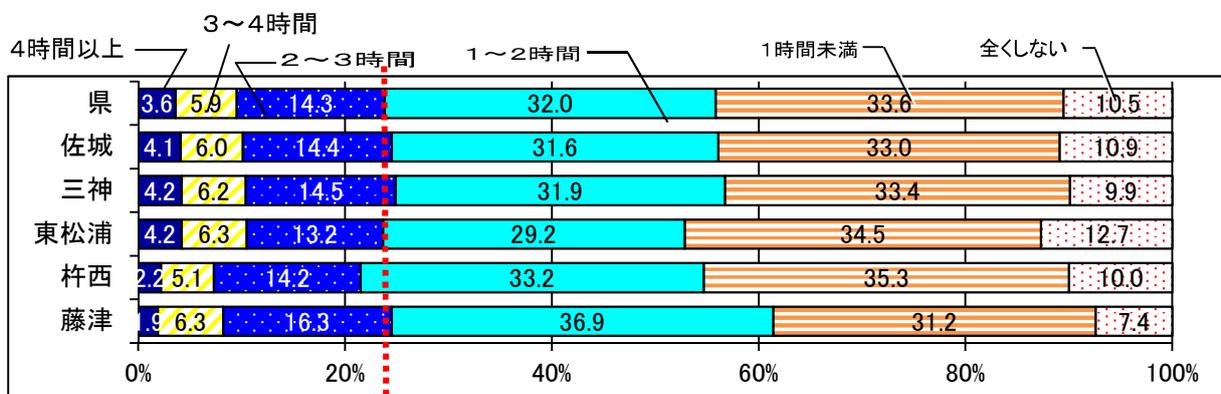


【中学校 1・2・3年生】 1時間以上（県）62.2%

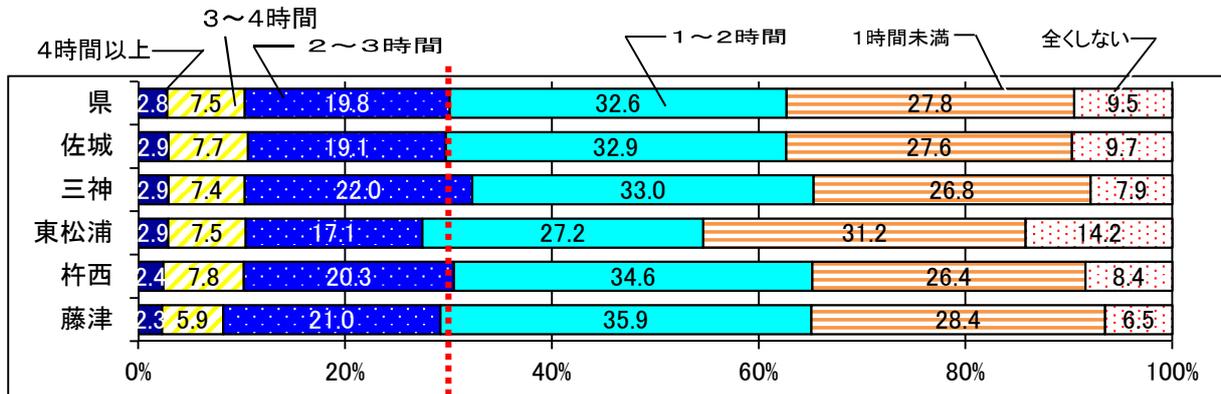


[グラフ43] 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む）

【小学校 5・6年生】 2時間以上（県）23.9%



【中学校 1・2・3年生】 2時間以上（県）30.1%

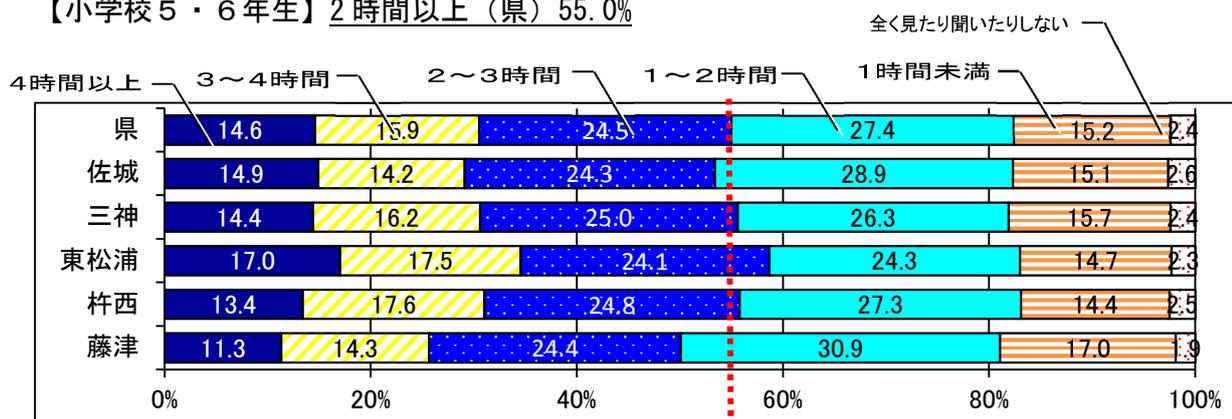


④ 家庭での生活について

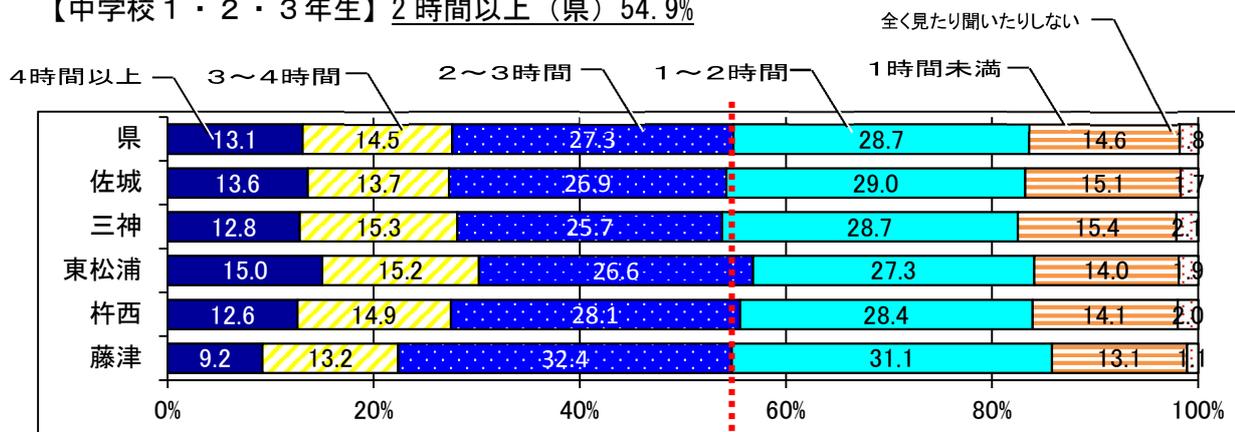
- 「1日あたりのテレビやビデオ・DVDの視聴時間」で「2時間以上」と答えた児童生徒の割合は、小学校では東松浦地域がやや高く、藤津地域がやや低い。中学校では地域差がほとんど見られない。[グラフ 44]
- 「1日あたりのゲームをする時間」で「1時間以上」と答えた児童生徒の割合は、小学校では、藤津地域がやや低く、中学校では藤津地域が低い。[グラフ 45]
- 「1日あたりの読書をする時間」で「30分以上」と答えた児童生徒の割合は、小学校では地域差がほとんど見られない。中学校では三神地域がやや高く、藤津地域が低い。[グラフ 46]

【グラフ 44】 1日あたりのテレビやビデオ・DVDを視聴する時間(月～金曜日)

【小学校5・6年生】2時間以上(県)55.0%

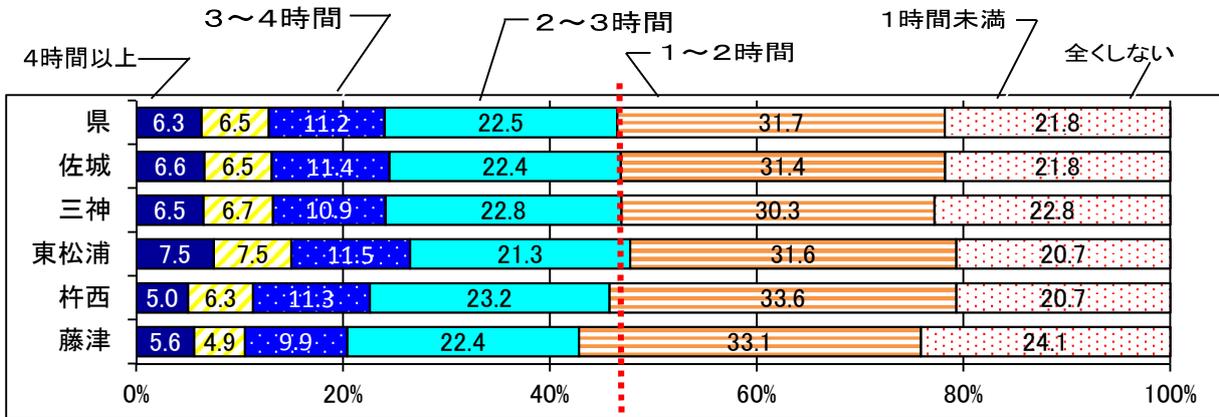


【中学校1・2・3年生】2時間以上(県)54.9%

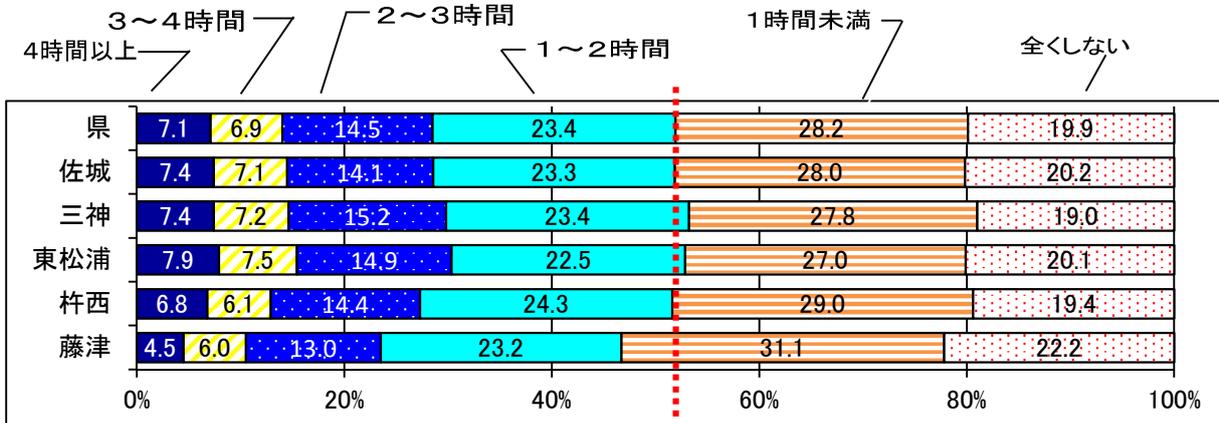


[グラフ 45] 1日あたりのテレビゲームをする時間(月～金曜日)(コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含む)

【小学校5・6年生】1時間以上(県)46.5%

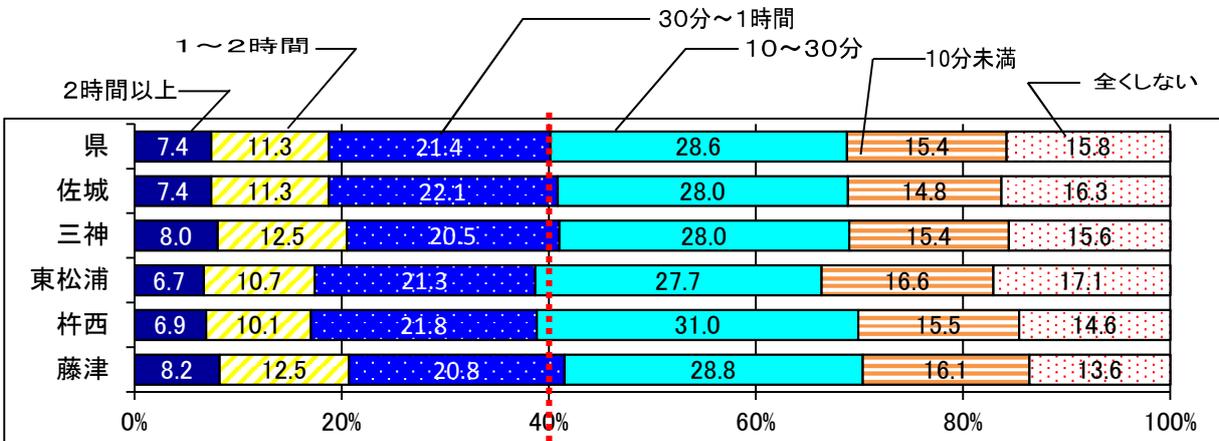


【中学校1・2・3年生】1時間以上(県)51.9%

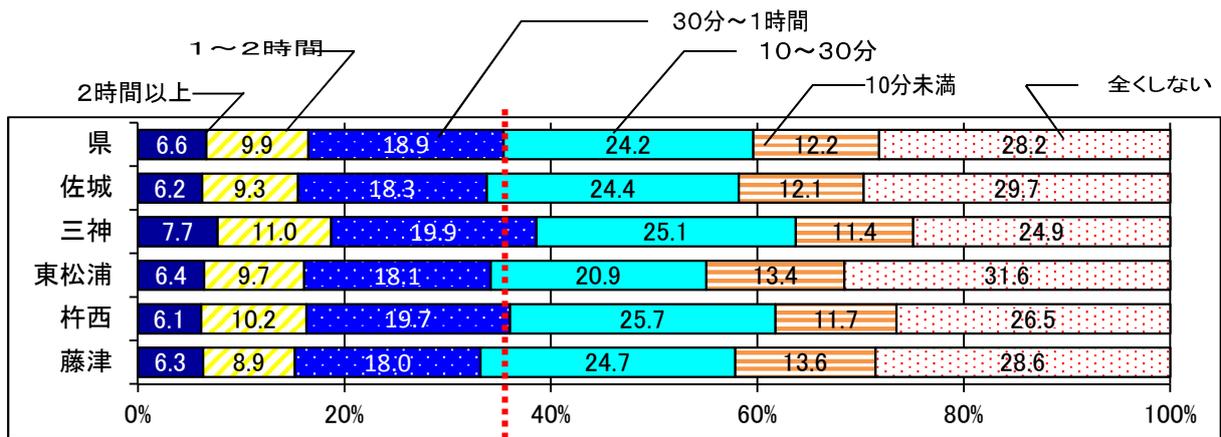


[グラフ 46] 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりの読書をする時間(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

【小学校5・6年生】30分以上(県)40.2%



【中学校1・2・3年生】1時間以上（県）35.4%



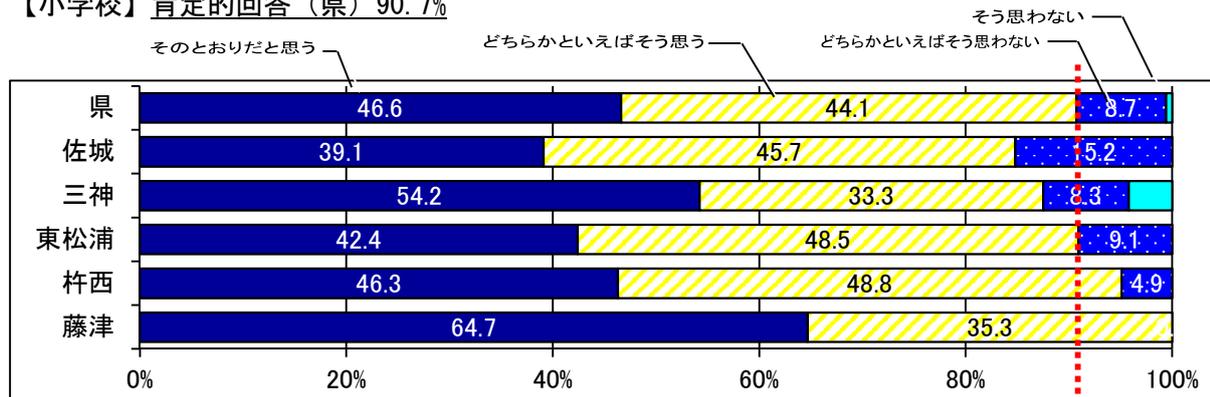
《学校質問紙調査》

① 児童生徒について

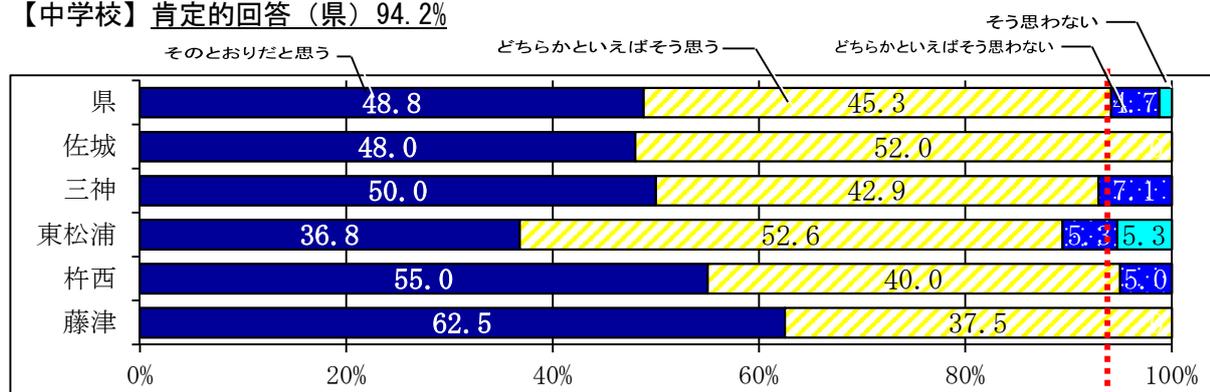
- 「授業中の私語が少なく落ち着いている」について、「そのとおりだと思う」と回答した学校の割合は、小学校では三神・藤津地域が高く、佐城地域は低い。中学校では藤津地域が高く、東松浦地域は低い。[グラフ 47]

[グラフ 47] 児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。

【小学校】肯定的回答（県）90.7%



【中学校】肯定的回答（県）94.2%

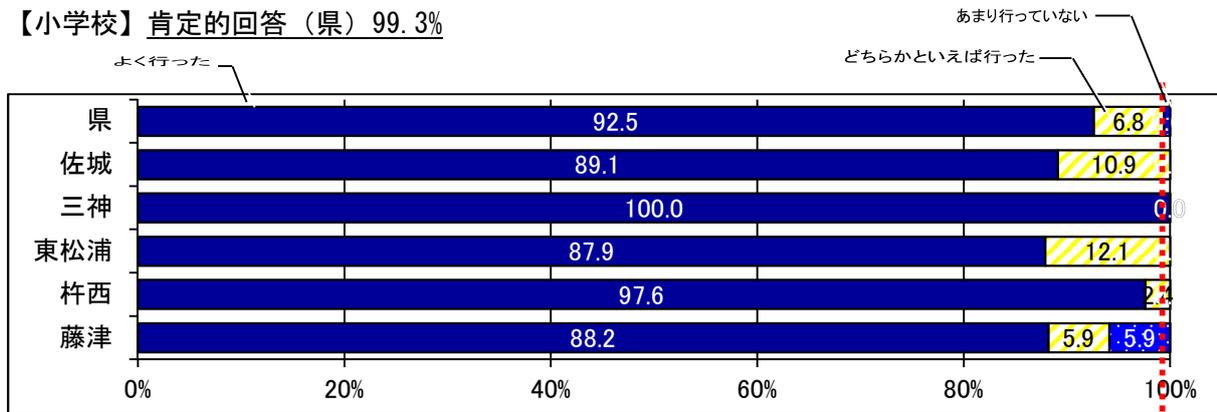


② 指導方法・学習規律について

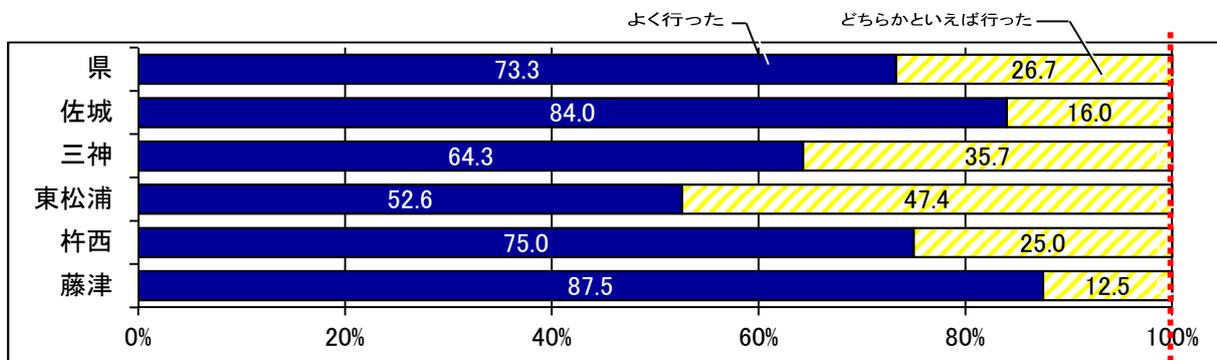
- 「授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れている」について、「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校は三神・杵西地域が高い。中学校では佐城・藤津地域が高く、三神・東松浦地域は低い。[グラフ 48]
- 「授業の最後に振り返る活動を計画的に取り入れている」について、「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校は三神地域が高く、杵西地域は低い。中学校では藤津地域が高く、東松浦・杵西地域は低い。[グラフ 49]
- 「ノートに目標やまとめを書くように指導した」について、「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校では佐城・東松浦地域がやや高く、藤津地域は低い。中学校では佐城・藤津地域が高く、三神・東松浦地域が低い。[グラフ 50]
- 「学習規律の維持を徹底している」について、「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校では東松浦・藤津地域が高く、三神地域が低い。中学校では杵西・藤津地域が高く、三神・東松浦地域が低い。[グラフ 51]

[グラフ 48] 授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れている。

【小学校】肯定的回答（県）99.3%

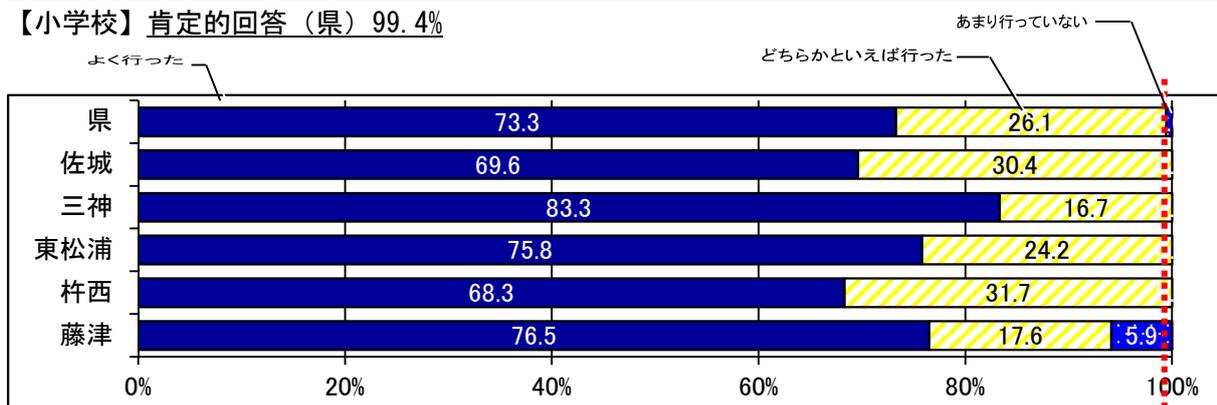


【中学校】肯定的回答（県）100.0%

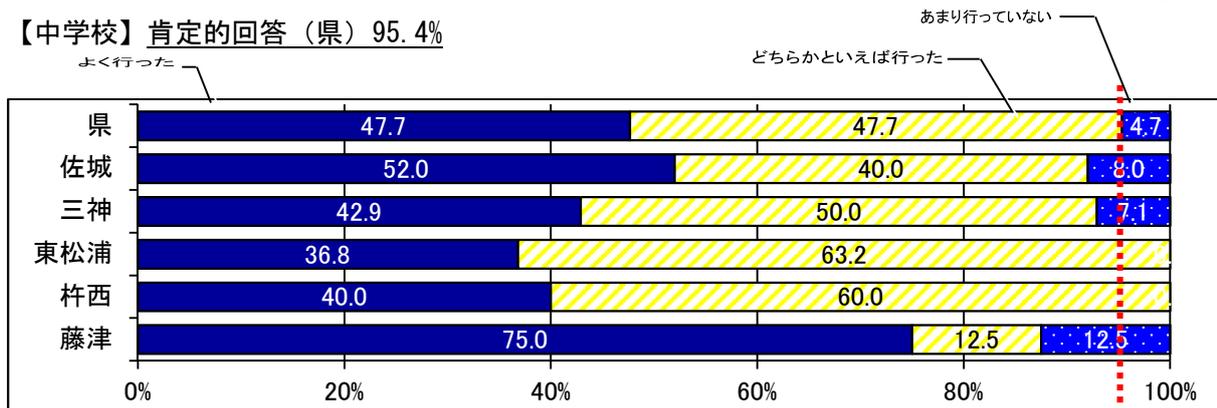


[グラフ 49] 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れている。

【小学校】肯定的回答（県）99.4%

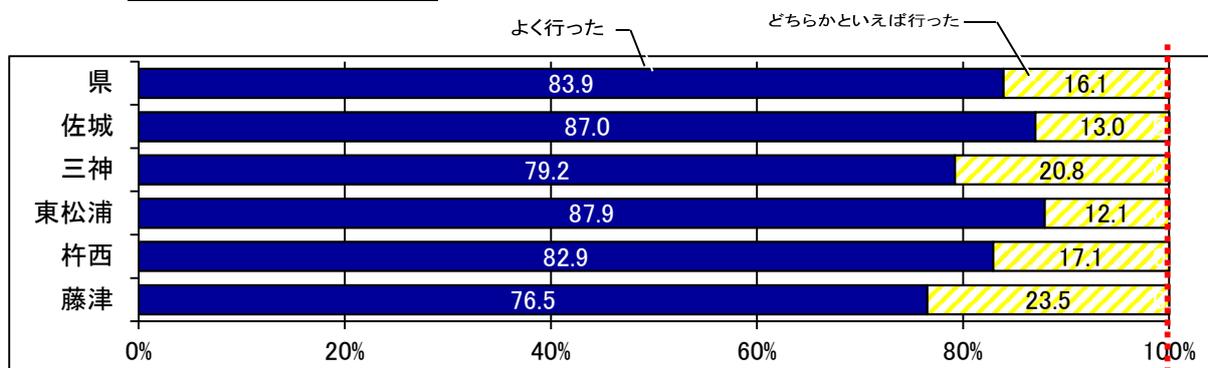


【中学校】肯定的回答（県）95.4%

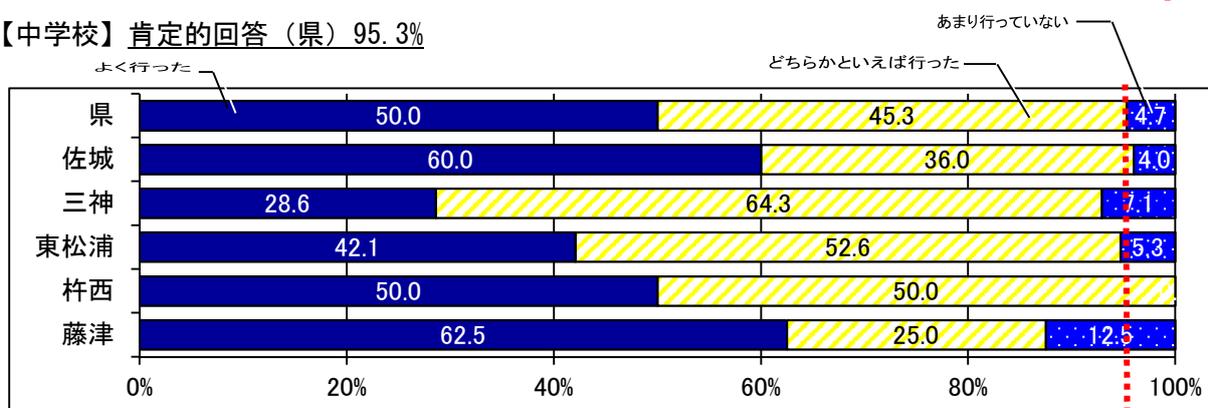


[グラフ 50] 授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導している。

【小学校】肯定的回答（県）100.0%

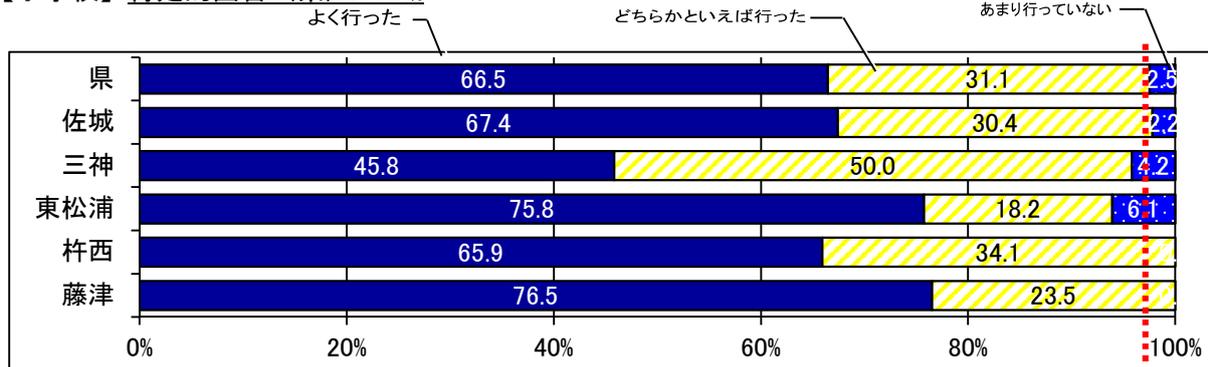


【中学校】肯定的回答（県）95.3%

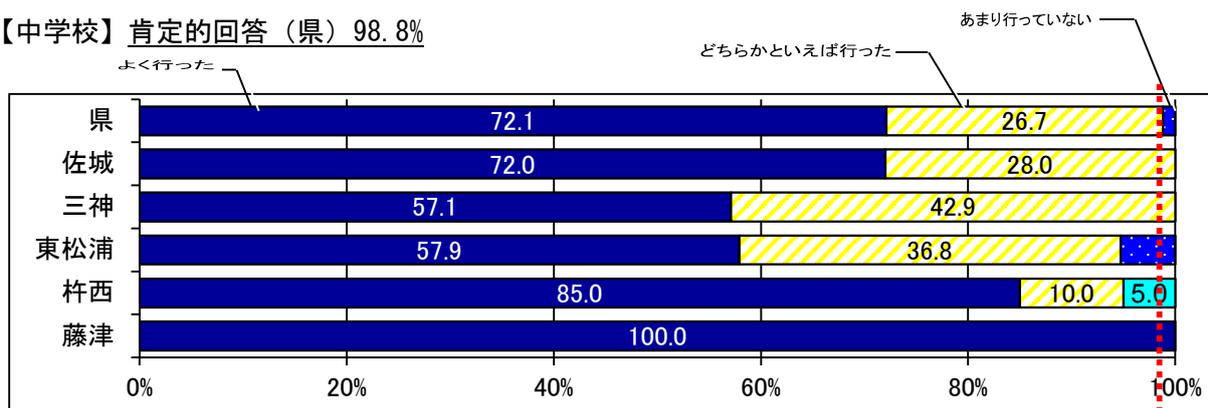


[グラフ 51] 学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底している。

【小学校】肯定的回答（県）97.6%



【中学校】肯定的回答（県）98.8%

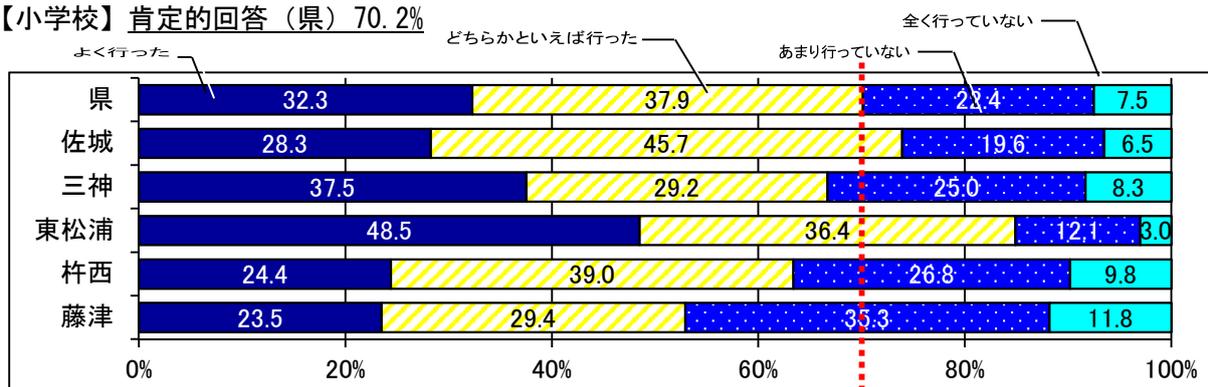


③ 小学校教育と中学校教育の連携

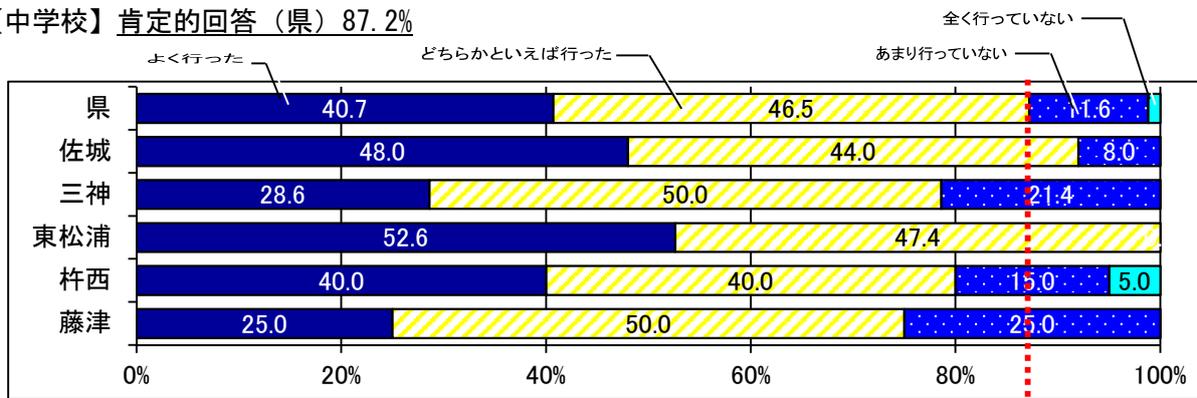
- 「近隣等の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った」について、「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校では、三神・東松浦地域が高く、佐城・杵西・藤津地域は低い。中学校では、佐城・東松浦地域が高く、三神・藤津地域が低い。[グラフ 52]

[グラフ 52] 近隣等の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った。

【小学校】肯定的回答（県）70.2%



【中学校】肯定的回答（県）87.2%

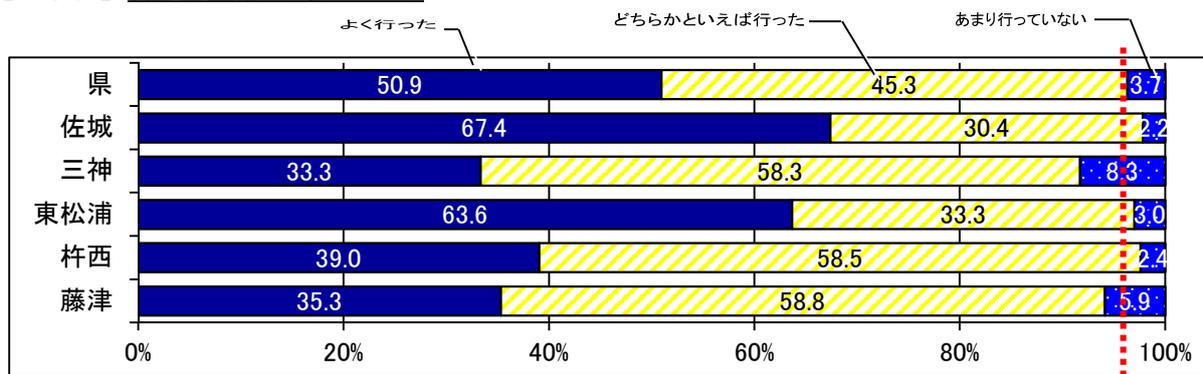


④ 家庭学習について

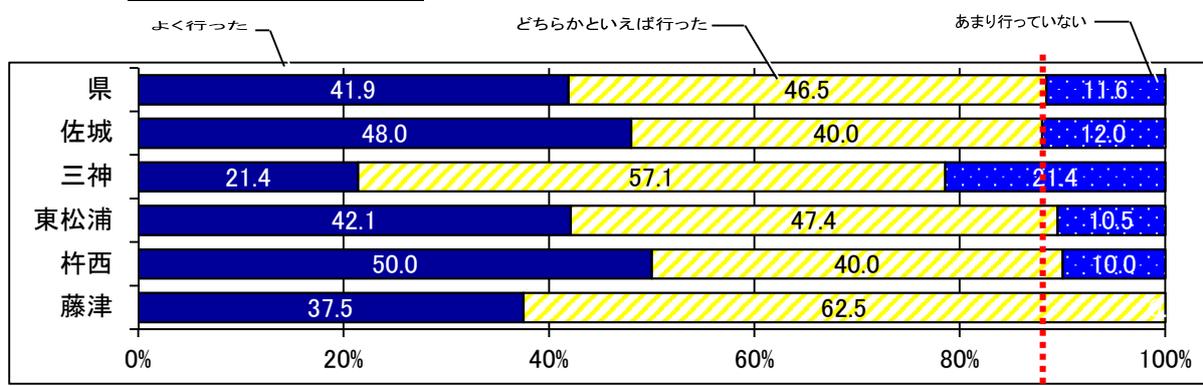
- 「家庭学習の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った」について「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校では、佐城・東松浦地域が高く、三神・杵西・藤津地域が低い。中学校では、佐城・杵西地域が高く、三神地域は低い。[グラフ 53]

[グラフ 53] 家庭学習の与え方について、校内の教職員で共通理解を図る。

【小学校】肯定的回答（県）96.2%



【中学校】肯定的回答（県）88.4%

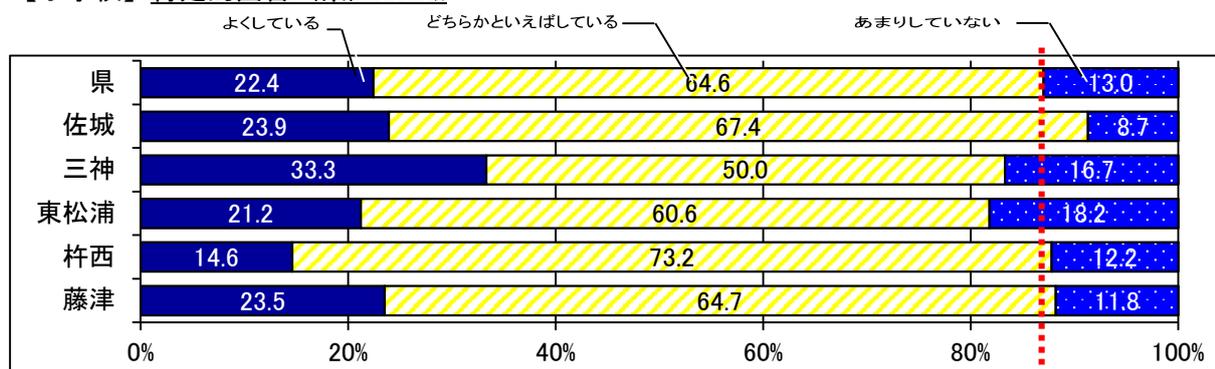


⑤ 教職員の取組について

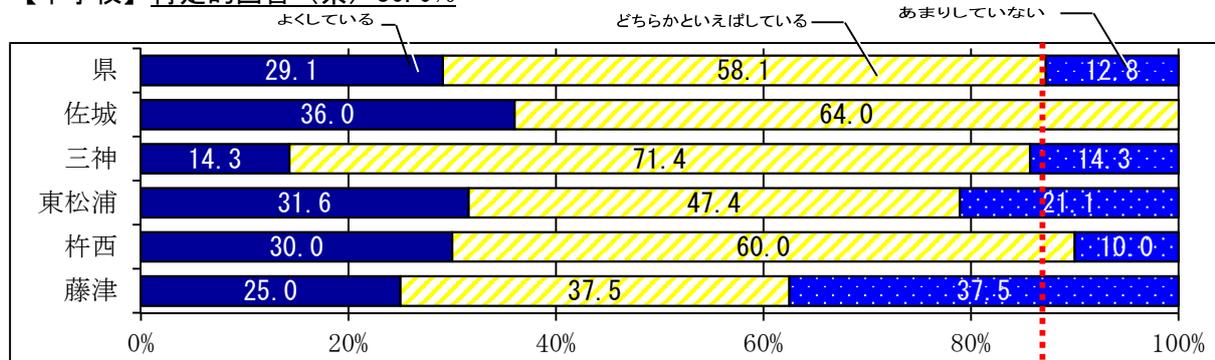
- 「一連のPDCAサイクルを確立している」について「よくしている」と回答した学校の割合は、小学校では三神地域が高く、杵西地域が低い。中学校では佐城地域が高く、三神地域は低い。[グラフ 54]

[グラフ 54] 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。

【小学校】 肯定的回答（県）87.0%



【中学校】 肯定的回答（県）86.0%



(6) 結果のまとめと指導改善のポイント

ア 授業に対する関心、理解、有用性について

① 知的好奇心を喚起する授業づくり

「各教科の勉強は好き」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、多くの教科で前年度を下回っている。「各教科の勉強は好き」という意識は、児童生徒が学習に向かう推進力となることから、それぞれの教科の特性に応じて、児童生徒の知的好奇心を喚起するような授業づくりの工夫が望まれるところである。具体的には、児童生徒と教材との出会わせ方を工夫すること、取り組む学習活動に対して児童生徒が必然性を感じることができるようになること、1 単位時間や単元の見通しをもたせることなどが考えられる。

② 分かる授業の推進と学習内容の定着を図る工夫

「各教科の授業の内容はよく分かる」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、17 教科中 8 教科で前年度を上回っている。授業に対する理解度は、授業の根幹ともいえる部分であり、「分からない」と回答している児童生徒がいる場合には、迅速かつ適切な対応が必要である。また、児童生徒が「分かる」と回答しているにも関わらず、該当教科の正答率が低い場合には、学習内容の定着が十分でないことが考えられる。その際は、授業において学習内容の定着を図ることができるように指導方法を見直すことや家庭学習の内容や方法について見直しを図ることが必要である。

③ 活用力を高める指導の工夫

「各教科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、17 教科中 9 教科で前年度を上回っている。学習したことに対する有用性は、学校での学びだけにとどまることなく、生涯にわたって児童生徒が学び続けていくための推進力となる。児童生徒の「役に立つ」という意識は、授業の中で、他の学習場面や他の教科・領域との関連を意識させること、日常生活とのつながりに気付かせること、学習したことを活用させる場面を意図的に位置付けることなどによって育まれる。平成 27 年度から取り組んでいる「児童生徒の活用力向上研究指定事業」では、今年度、新たに 8 校区 25 校を指定し、県内 16 校区 47 校で研究が推進されている。このような先進的な取組等も参考にしながら、児童生徒の活用力を高め、児童生徒に学ぶことの大切さを実感させることができるような指導を工夫する必要がある。

イ 学校における学習について

① アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた学習過程の質的改善

学校における学習活動に対する児童生徒の意識は全般的に改善が見られる。このことは、教師の指導改善に対する意識が向上していることに起因していると考えられる。国では、平成 27 年 8 月に示された「中央教育審議会教育課程企画特別部会 論点整理」とそれを受けてスタートした 17 のワーキンググループでの議論を踏まえて、学習指導要領改訂に向けての動きが本格化している。その中で、アクティブ・ラーニングの 3 つの視点（対話的な学び、主体的な学び、深い学び）を踏まえた不断の見直しと学習過程の質的改善が求められている。このような動向にも目を向けながら、児童生徒に育みたい資質・能力を明確にして、その実現のために、学習過程の質的改善を図ることが大切である。これからの教師には、「教え上手」だけでなく、「学ばせ上手」であることも望まれる。

② ICT機器を効果的に活用した授業づくり

「授業で電子黒板や大型テレビなどが使われるようになって、今までより授業の内容が分かりやすくなった」と回答した児童生徒の割合は増加しており、教師によるICT機器の活用頻度も増加している。学校において、ICT機器を効果的に活用した授業が定着していることの表れであると捉えられる。今後、学校における学習用PCの整備が進むことから、ICT機器を教師がどのように使いこなすかといった視点のみならず、児童生徒にどのように使わせるのかという視点を考えることがより重要となってくる。

ウ 家庭での学習について

① 家庭学習の量と質の充実

家庭学習の時間については、全体的に前年度を下回っているが、「自分で計画を立てて勉強している」「学校の宿題をしている」といった問いに対して肯定的に回答している児童生徒の割合が小学5年、中学2年などで増加しているなど、一部改善も見られる。家庭学習の習慣化については、小学校低学年からの家庭と連携した指導が重要である。また、児童生徒の発達の段階にもよるが、学年が上がるにつれて、「何時間行ったか」「何ページ書いたか」といったような量的な基準だけでなく、「分かるまで行ったか」「できるようになるまで行ったか」「覚えるまで行ったか」といったように家庭学習の内容を重視した質的な充実を図ることも大切である。さらに、9割以上の児童生徒が「学校の宿題をしている」という問いに肯定的に回答していることから、宿題の在り方やその内容について、教師の間で議論を交わすなどして、学校としての宿題の質を充実させることが、学習内容の定着や授業における主体的な学習の実現に有効であると考えられる。

エ 学校生活、家庭生活について

① 落ち着いた学校生活の実現とキャリア意識の醸成

「学校に行くのは楽しい」「学校では落ち着いて勉強することができている」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、全体的に前年度を上回っている。一方で、「将来の夢や目標をもっている」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、全体的に前年度を下回っている。全ての児童生徒が楽しく安心して学校生活を送ることができるということは、学力向上の基盤ともいえる部分であり、大切にされなければいけない。また、キャリア教育の視点から、将来の夢や目標をもたせることは、学校生活の充実、学力の向上にもつながると考えられる。特別活動や総合的な学習の時間、道徳科の充実を図ることを通して、児童生徒が集団や社会の一員としての自覚を高めたり、自己の生き方を見つめ直したりするなどの機会を大切に指導していくことが望まれる。

② 家庭との連携による家庭生活の改善

平日にテレビやビデオ・DVDを2時間以上視聴する児童生徒の割合は小学5年、小学6年、中学3年で前年度を下回り、平日に2時間以上テレビゲームをする児童生徒の割合も小学5年で減少、小学6年、中学3年で前年度を下回るなど一部改善がみられる。一方で、平日に携帯電話やスマートフォンを1時間以上使用している児童生徒の割合は、小学5年、中学1年を除く全ての学年で前年度を上回っている。テレビゲームをする時間、携帯電話やスマートフォンを使用する時間が長くなるほど、正答率が低くなる傾向があることから、引き続き、家庭への啓発を図り、家庭との連携による家庭生活の改善を図ることが大切である。